●原画／川村敏江

スタッフ寄せ書き色紙

『HUGっと！プリキュア』の完結を記念して、
製作スタッフチームのみなさんから、素敵な寄せ書き色紙をいただきました。
貴重で思わず"は～ぎゅ～～！"としたくなるイラストをご覧あれ！

●初出：『HUGっと！プリキュア』
前期番宣ポスターイラスト
原画／川村敏江

Illustration Gallery

イラストギャラリー

番宣ポスターやカレンダー、
各雑誌などで掲載された
描きおろしビジュアルを一挙にご紹介。
『HUGっと!プリキュア』の
美麗イラストを堪能しよう!

●初出：『HUGっと！プリキュア』
後期番宣スチール
原画／川村敏江

●初出：『HUGっと！プリキュア』
前期番宣スチール
原画／川村敏江

●初出：『HUGっと！プリキュア』
前期番宣スチール
原画／川村敏江

●初出：『HUGっと！プリキュア』
後期番宣スチール
原画／川村敏江

●初出：アニメージュ 2018年7月号
（徳間書店刊）　原画／川村敏江

●初出：CGWORLD244号
（ボーンデジタル刊）
イラスト／宮本浩史

●初出：オトメディア+
SUMMER 2018
イラスト／東映アニメーション

●初出：アニメディア2018年9月号　原画／東映アニメーション

●初出：
2019 HUGっと！プリキュア
A2カレンダー
（発売元／東映アニメーション）

●初出：2019 HUGっと！プリキュア
A2カレンダー（発売元／東映アニメーション）

各話の放送終了後に使用されたエンドカードを一挙に公開。どれも楽しいイラストばかりだ。「またみてね」の呼びかけにも応えたくなっちゃう♪

●初出：16話エンドカード

●初出：17話エンドカード

●初出：18話エンドカード

●初出：13話エンドカード（予備）

●初出：2話エンドカード

●初出：19話エンドカード

●初出：14話エンドカード

●初出：3話エンドカード

●初出：20話エンドカード

●初出：15話エンドカード

●初出：4話エンドカード

●初出：11話エンドカード

●初出：21話エンドカード

●初出：12話エンドカード

●初出：42話エンドカード

●初出：31話エンドカード

●初出：23話エンドカード

●初出：43話エンドカード

●初出：32話エンドカード

●初出：25話エンドカード

●初出：44話エンドカード

●初出：33話エンドカード

●初出：26話エンドカード

●初出：45話エンドカード

●初出：34話エンドカード

●初出：27話エンドカード

●初出：48話エンドカード

●初出：28話エンドカード

●初出：29話エンドカード

●初出：49話エンドカード

●初出：35話エンドカード（予備）

●初出：30話エンドカード

●初出：ＨＵＧっと！プリキュア
オフィシャルコンプリートブック
原画／川村敏江

HUGっと!プリキュア オフィシャルコンプリートブック Official Complete Book

Contents

キュアエール 野乃はな

CURE YELL NONO HANA

キュアエール

（声／引坂理絵）

13歳の女子中学生・野乃はなが変身する元気のプリキュア。エールは英語で「応援」を意味する「YELL」のこと。誰かを応援したいという想いがパワーとなる。未来からやってきた赤ちゃんのはぐたんがクライアス社に襲われたとき、守りたいという強い想いがはなをプリキュアに変身させた。格闘技による接近戦が得意。イメージカラーはピンク。

変身中にプリキュアのセリフが入ってくるのが、今作の特徴。アイテムのプリハートにミライクリスタルをセットして、「ハートキラッと！」プリハートを「ぎゅ～！」と温めることで変身していく。ポンポンを振り、ジャーンプ！　元気いっぱいの変身モードだ。

基本スタイル

みんなを応援するプリキュアのキュアエール。衣装モチーフは、チアリーダーとお花屋さん。

フレフレ！ハート・フォー・ユー！

プリハートから出る技。両手のポンポンを振って大きくハートを描き、集めたエネルギーをハート型にして相手にプレゼントする。

チアフルスタイル

プリキュアのパワーアップスタイル。5人の絆が深まり、31話で生まれたミライクリスタルチアフルで変身。ウエディングベールのような飾りは5人に共通している。

プリキュア・トリニティ・コンサート！

キュアエール、キュアアンジュ、キュアエトワールの3人による合体技。それぞれがメロディソードをタクト、ハープ、フルートにして奏でた三重奏でオシマイダーをやさしく包みこむ。

マザーハートスタイル

プリキュア5人がミライクリスタルマザーハートで変身した、最終パワーアップスタイル。オーロラのように光る背中の羽が特徴。腕にはミライブレスも新たに装着する。

フラワーシュート！

メロディソードのタクトで奏でたメロディで、オシマイダーを退ける。

キュアエール表情集

野乃はな
（声／引坂理絵）
元気が取り柄の13歳。転校初日、赤ちゃんの泣き声を耳にして、時間が止まる不思議な経験をする。その夜、空から降ってきた赤ちゃんのはぐたんと運命の出会いをする。「超イケてる大人のお姉さん」になるのが夢。腕をグルグル回して「フレフレ○○！」と誰かを応援するのが大好き。口グセは「めちょっく！（めっちゃ、ショック！）」。
はなの表情集
設定として固まる前のラフタッチで描かれた、はなの表情集。自分で切りすぎてしまう前髪のイメージは、すでに出来上がっている。
フレフレみんな！フレフレわたし！
制服
はなが転校したラヴェニール学園の制服。赤いネクタイは男女共通。襟元に校章のピンバッジをつける。
春夏服
半袖のブラウスにキャミソールを重ねた私服。フリルの軽やかさや明るい色合いは、はな（花）らしい可憐さだ。
体操着
袖色が男女で異なるものの、基本型は同じ。シャツとパンツを縦のラインで結ぶ、おしゃれなデザイン。
制服（夏）
ブラウスの袖はパフスリーブになった。スカートの色は薄グレーになり、涼しげな印象。
冬のコート
ピンク色のジャケットにボアの襟がついて、あったかそう。
秋冬服
スタンドカラーのブラウスとジャンパースカートで、ちょっとしたおでかけにも着ていける清楚なイメージ。
はなの家族
ホームセンター「HUGMAN」の店長である父、タウン誌のライターとして働く母。両親は家事を分担し合う。ことりは小学6年生でしっかり者だ。祖母は、亡き祖父と始めた和菓子店「たんぽぽ堂」を守る。
HUGMAN
★妹・野乃ことり（声／佐藤亜美菜）
★祖父・庵野草介（声／竹内栄治）
★祖母・庵野たんぽぽ（声／井上喜久子）
★父・野乃森太郎（声／間宮康弘）
★母・野乃すみれ（声／桑谷夏子）
はなのグッズ
★おでかけバッグ
ちょっとしたおでかけ用。
★リュック
ハイキングに行ったときはコレ。
★クロッキー帳
はなは思ったことを絵で表現する。その絵柄は、とても個性的だ。
★デジタルカメラ
はぐたんの"自撮り"写真が入っている。ほまれは「きゃわたん♥」と悶絶。
▲アンリの衣装
◀はぐたんとハリー

未来は無限大！ ～なんでもできる！ なんでもなれる！～

はなのなりたいわたし

はなが持っている夢は「超イケてる大人のお姉さん」。自分らしく生きること、それが超イケてる大人になることだと気づいていく。

おしごとスイッチ・オン！

ミライパッドを使って、はなたちはさまざまなお仕事衣装にチェンジ！　たこ焼き店さんのはっぴもピンク色だ。

未来（2030年）のはな

はぐたんたちが未来に帰り、時は流れ、最終話後半では2030年の姿が描かれた。はなの未来は、まさになんでもできる、なんでもなれる女性へと成長していた。アカルイアス社の社長になり、やはりみんなを応援していた。そして出産。生まれた赤ちゃんは「はぐみ」と名付けられたのだった。

★はぐみ

はなの娘。はなは「はぐたん」と呼ぶことにした。金髪のクセっ毛など、あの「はぐたん」によく似ている。

キュアアンジュ CURE ANGE

薬師寺(やくしじ)さあや YAKUSHIJI SAAYA

Character Collection 2

チアフルスタイル

キュアアンジュのパワーアップスタイル。「天使」の羽をモチーフとした衣装が、より美しく、優雅な魅力を増している。

キュアアンジュ

（声／本泉莉奈）

野乃はなの同級生・薬師寺さあやが変身する知恵のプリキュア。ANGE（アンジュ）はフランス語で「天使」の意味である。プリキュアに変身して戦うはなを目撃して「頑張るはなのために、自分も勇気を持って何かをしたい」という気持ちが強くなり、プリキュアに変身した。バリアや治癒などをしても活躍する。イメージカラーはブルー。

キュアアンジュ表情集

基本スタイル

知恵のプリキュア、キュアアンジュ。衣装モチーフは、ナースとシスター。

プリキュア・チアフル・アタック！

メモリアルキュアクロック、チアフル！

ミライパッド、オープン！

メモリアルパワー！フルチャージ！

プリキュア・チアフルスタイル！

プリキュア・チアフル・アタック！

プリキュア5人の合体技。メモリアルキュアクロックを使ってチアフルスタイルに変身。5つのカラフルなハートを合わせて、オシマイダーを包みこむ。

フェザーブラスト！

フェザーブラスト！

メロディソードのハープで奏でたメロディで、オシマイダーを退ける。

フレフレ！ハート・フェザー！

フレフレ！

ハート・フェザー！

プリハートから出る技。プリハートにタッチして、ハートのバリアを出現させる。

キュアアンジュの最終パワーアップスタイル。チアフルスタイルをベースにミライブレスが加わり、背中にはオーロラのように光る羽が現れた。

変身アイテムは５人とも共通しているが、キュアアンジュは「天使」の異名を持つプリキュアだけに、その動きは羽のイメージとも相まって、観る者をやさしく包みこんでいく。

薬師寺(やくしじ)さあや

（声／本泉莉奈）

はなと同じクラスの学級委員長。聖母マザー・テレサを尊敬し、誰にでもやさしく「学園の天使」と呼ばれている。有名女優を母に持ち、自身も子役として活動していた。偉大な母への憧れとプレッシャーにより、自分の将来は女優になることなのか自信を持てずにいた。辛いものが好きで、機械などに興味津々という意外性も持つ。

できるよね……わたしのなかにもきっと勇気が！

さあやの表情集

設定の決定稿となる以前のラフイラスト。決定稿のものよりも、少しだけおっとりした感じだ。

制服

さあやの制服はブルーが基調。ベストを好んで着用する。

春夏服

やさしいイメージのさあやの私服は、やわらかい素材のワンピースを重ねたレイヤードコーデ。

制服（夏）

パフスリーブのブラウスも、はなと同じ形。色はブルー。夏の制服を着用するときも夏用ベストをプラス。

体操着

体操着は、はなと同じデザイン＆カラー。うしろは、こんな感じ。

冬のコート

おしゃれなAラインのトレンチコート。うしろの大きなリボンが可憐なアクセントになっている。

秋冬服

ワンピースにカーディガン、足もとの短めのソックス&ローヒールもクラシックなお嬢さまスタイルである。

さあやのグッズ

★おでかけバッグ
外出用のバッグ。大人っぽい形に羽がついた、かわいらしいデザイン。

★トートバッグ
のびのびヶ原(がはら)へはコレを持ってハイキングに行った。

★ノートパソコン
なんでも調べずにはいられない、さあやの必需品。

さあやの家族

母は大女優・薬師寺れいら。父は、妻と娘のさあやをバックアップするため、主夫業をいとわない。

★10年前のれいらとさあや

★騎士役のれいら

★さあやの幼少期

★母・薬師寺(やくしじ)れいら（声／岡本麻弥）

★父・薬師寺修司(やくしじしゅうじ)（声／田坂浩樹）

未来は無限大！ ～なんでもできる！ なんでもなれる！～

さあやのなりたいわたし

さあやは将来について悩んでいた。母のような女優になりたいけど……。そんななか、担任である内富士先生の奥さんの出産時に出会ったマキ先生に、命のすばらしさを教えてもらった。

たくさん悩み、さあやが出した答えは、2030年の未来につながっていた。

未来（2030年）のさあや

さあやは産婦人科の医師になっていた。長い髪も短く切り、さっそうと働く姿は、尊敬するマキ先生のよう。かけがえのない仲間であるはなの担当医として、さあや先生は、はなの出産を応援するのだった。

おしごとスイッチ・オン！

はなと色違いのお仕事衣装にチェンジ。服の模様に羽のモチーフが入っている衣装もある。ただし、さあやとほまれがウエイトレスになったとき、はなは、なぜかたこ焼き店さんだった。

ファッション

キュアエトワール

CURE ETOILE KAGAYAKI HOMARE 輝木（かがやき）ほまれ

キュアエトワール表情集

基本スタイル

力のプリキュア、キュアエトワール。衣装モチーフは、CA（キャビンアテンダント）とスポーツ選手。

キュアエトワール

（声／小倉唯）

かつてフィギュアスケートのスター選手だった輝木ほまれが変身する力のプリキュア。エトワールはフランス語で「星」の意味。ケガで挫折していたほまれが、キュアエールとキュアアンジュのあきらめない姿に心を打たれ、もう一度高く跳びたいという熱い想いを抱いてプリキュアに変身した。身体能力にすぐれる。イメージカラーはイエロー。

チアフルスタイル

キュアエトワールのパワーアップスタイル。流れ星のように流れる髪と、スカートやリボンをボリュームアップしており、より華麗な衣装になっている。

みんな輝け！ 力のプリキュア！

変身

ミライクリスタル！ハートキラっと！

ぎゅ～！

は～ぎゅ～～！

ぎゅ～！

輝く未来を抱きしめて！

フィギュアスケートのように高く跳び、華麗に舞う変身シーンだ。目を閉じたほまれのクールなイメージと、メイクアップしたキュアエトワールの情熱的な表情のギャップも魅力的だ。

フレフレ！ハート・スター！

プリハートから出る技。プリハートにタッチして、無数の星の形を生み出す。

スタースラッシュ！

メロディソードのフルートで奏でたメロディによって、オシマイダーを退ける。

プリキュア・オール・フォー・ユー！

５人のミライブレスに宿る力をひとつに集めて放つ合体技。37話で歴代プリキュアが登場したときには、彼女たちからの想いをミライブレスにこめて、ひとつの大きなパワーへと変化させた。

マザーハートスタイル

キュアエトワールの最終パワーアップスタイル。チアフルスタイルをもとにミライブレスを装着。背中にはオーロラのように光る羽が現れる。

輝木ほまれ
（声／小倉唯）
はなの同級生。女子も憧れる、おしゃれでかっこいい女の子。最初はクールな印象だった。はなとの出会いを経て、過去のスケートでの挫折から立ち直ろうと決意した。かわいらしいものが大好きで「きゃわたん♥」がログセ。ホラー映画が苦手など、乙女な一面もあわせ持つ。
ほまれの表情集
設定の初期段階と思われるラフイラスト。ショートカットは同じだが、顔の輪郭が今より丸みを帯びていた。
みんなの〝頑張れ〟を背負って跳びたい！
制服
デザインははなたちと同型で、カラーはイエロー。くずしたネクタイや制服に合わせたパーカなど、ほまれならではのアレンジが加わっている。
春夏服
大胆なオフショルダートップスに、チョーカーアクセサリーなど、おしゃれ感覚は抜群である。
制服（夏）
夏は涼しげなパーカへとチェンジ。どんなときも自分らしく、おしゃれを欠かさない。
冬のコート
ムートンのような生地の暖かそうなコート。ざっくりと着こなした感じが、ますますかっこいい。
体操着
ラヴェニール学園の体操着。はなたちと同型、同色。
秋冬服
トレードマークの星が大胆にあしらわれたセーターと細身のパンツは、シンプルでスマートだ。
ほまれの家族
母と、その両親である祖父母の家で、ほまれは暮らしている。母は建築現場でクレーンを操縦し、スケートで頑張る娘を応援している。交通事故寸前でほまれが救った犬・もぐもぐも家族の一員だ。
★愛犬・もぐもぐ
（声／川井田夏海）
★祖父・輝木喜久蔵
★母・輝木ちとせ
（声／青山桐子）
★祖母・輝木ちよ
（声／片貝薫）
ほまれのグッズ
★おでかけバッグ
ハイキングにも、ちょっとしたおでかけにも、このミニリュックでOK。
★ローラースケート
フードフェスティバルで、ウエイトレスのほまれが着用。
★スマートフォン
「きゃわたん♥」な写真を撮影し、画像を共有するSNS「キュアスタ」にアップしている。

ほまれのなりたいわたし

ほまれがなりたいのはフィギュアスケーター。それはブレていない。ただ、過去のジャンプの失敗でスケートへの想いに背を向けていた。だが、はなやスケート仲間のアンリたちからのエールを受け、ほまれはなりたい自分を見つけていく。そして、みんなの想いと一緒に何度でもチャレンジしていこうと決意する。

未来(2030年)のほまれ

キャリーケースを片手に、空港を急ぐほまれ。目指すは、さあやが勤めている病院だ。海外のスケート大会で獲得した金メダルを、ほまれははなとその赤ちゃんに見せてあげたかったのだ。スケートで跳び続ける！　ほまれはかっこいい大人になっていた。

おしごとスイッチ・オン！

★ウェイトレス
★CA（キャビンアテンダント）
★お花屋さん
★お医者さん
★メイクさん
★絵描きさん
★保育士

はな、さあやと一緒に、さまざまなお仕事を体験。「きゃわたん♥」好きなほまれは、子どもと触れ合える保育士体験にイキイキとしていた。

ファッション

★浴衣
★水着
★パジャマ
★人魚姫
★ドレス
★ハロウィンのカウボーイ

AISAKI EMIRU

Character Collection 4

CURE MACHERIE

愛崎（あいさき）えみる

キュアマシェリ表情集

キュアマシェリ

（声／田村奈央）

小学6年生の愛崎えみるが変身する愛のプリキュア。「MA CHÉRIE（マシェリ）」はフランス語で「私の愛しい人」。大好きなルールーと共に、キュアエールを助けたいと強く願ったとき、ふたり同時にプリキュアへと変身する奇跡が起きた。ふたりで互いに助け合い、息の合ったコンビネーションを見せる。イメージカラーは赤。

基本スタイル

愛のプリキュア、キュアマシェリ。衣装モチーフは「アイドル」で、キュアアムールとの双子コーデ。

チアフルスタイル

キュアマシェリのパワーアップスタイル。スカートのフリルと宝石のような装飾で上品にグレードアップ。よりドーリーな印象だ。

ツインラブ・ロックビート！

心のトゲトゲ ずっきゅん撃ち抜く！

届け！ わたしたちの愛の歌！

ツインラブギター！

ミライクリスタル！

ツインラブ・ロックビート！

愛してる

キュアマシェリとキュアアムールの合体技。重なり合った赤と紫のふたつのハートが、オシマイダーを包みこむ。

フレフレ！ハート・ソング！

プリハートから出る技。プリハートにタッチして、ハート型のパワーを生み出す。

マシェリポップン！

ツインラブギターを奏でて生み出した赤のハートで、オシマイダーを退ける。

変身

プリキュアには、ルールーと一緒に変身する。ふたりで手をつないで、プリハートへと愛をこめていく。キュアマシェリの愛らしい仕草が魅力的だ。

マザーハートスタイル

キュアマシェリの最終パワーアップスタイル。チアフルスタイルにミライブレスが加わり、背中にはオーロラのように光る羽が出現する。

愛崎えみる
（声／田村奈央）
小学6年生の女の子。極度の心配性で慎重すぎるところがある。その反動なのか、自由でギュイーンとソウルがシャウトするギターが大好き。当初、兄の正人には「女の子がギターなんて」と理解してもらえなかった。ルールーとの出会いをきっかけに自分の心を愛することを知る。音楽で結ばれたふたりの絆は、ふたりでプリキュアに変身する奇跡を起こす。「～なのです！」という特徴的な語尾がログセ。
春夏服
ラヴェニール学園の小等部には制服がないらしい。えみるはこのロリータ系の私服が基本。
秋冬服
ロリータ系のイメージは残しながら、新しいデザインとなった秋冬服。フリルで、よりガーリーになった。
ギュイーンとソウルがシャウトするのです!!
冬のコート
真っ赤なコート。ボアつきフードやダブルの金ボタンがつき、高級感が漂う。
えみるの家族
実家は愛崎コンツェルン。お城のような屋敷には、常人には理解しがたいほど愉快な両親と、頭の堅い兄が住み、総帥である祖父は別宅にお住まいらしい。それぞれが超個性的な愛崎家だ。
★兄・愛崎正人（声／霜月紫）
★父・愛崎俳香（声／野間口徹）
★母・愛崎都（声／池谷のぶえ）
★祖父・愛崎獏発（声／野田圭一）
えみるのグッズ
★リュック
ハイキングに来た超心配性のえみる。安全グッズでリュックはパンパンである。
★学生かばん
中等部と形は同じ。えみるは赤いリュックを使用している。
★ギターケース
ひとりで弾いていたときのギターケース。
★ギター
お兄さまに隠れて弾いていた、愛するギター。
★えみるとルールーが組んだユニット「ツインラブ」のTシャツとタオル
▲タオル
▲オモテ
▲ウラ
★「ツインラブ」のギター
ルールーが作ってくれた、ふたりでおそろいのギター。

えみるのなりたいわたし

ギターは自由なのです！

えみるの夢は「ヒーロー」になること。その夢や大好きなギターをお兄さまに否定されても、熱い想いをずっと持ち続けていた。アンドロイドのルールーと出会うことで、なりたい自分へと、ギュイーンとソウルをシャウトさせるのだ。

キュアえみ～る

部分的にそれらしい防具をつけた、なりきりプリキュア。そう思えば、見えなくもない。

おしごとスイッチ・オン！

★ダンサー
★アイドル
★お医者さん
★アナウンサー
★メイクさん
★絵描きさん

24話でのナイトプールにおけるライブデビューが、えみるとルールーの初のお仕事体験。30話の温泉では、ツインラブの衣装はダンサー仕様だ。

ファッション

★ファッションショーのドレス
★エプロン
★パジャマ

未来（2030年）のえみる

「えみる、絶対ビッグなスターになりなさいよ」と言ったのは、未来に帰るパップルだった。そして未来。あのころのルールーと同じくらいまで背が伸びて大人になったえみるは、ビッグスターのオーラをまとい、再会した親友と思い出の歌を口ずさむ。

アムールロックンロール！

ツインラブギターを奏でて生み出した紫のハートで、オシマイダーを退ける。

キュアアムール

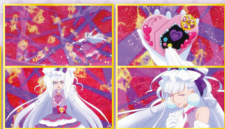
（声／田村ゆかり）

ルールー・アムールが変身する愛のプリキュア。ルールーの正体は、クライアス社が製造したアンドロイド。スパイとして接したはなたちに感情を教えられ、はなたちとの交流を通して「心」が芽生えていく。大好きなえみると一緒にキュアエールを助けたいと強く願ったとき、ふたり同時にプリキュアへと変身した。イメージカラーはパープル。

変身

プリキュアへは、えみると一緒に変身する。ふたりで手をつなぎ、プリハートへ愛をこめていく。キュアアムールの大人っぽい仕草が変身時の見どころである。

キュアアムール CURE AMOUR

RURU・AMOUR ルールー・アムール

フレフレ！ハート・ダンス！

プリハートから出る技。プリハートにタッチして、ハート型のパワーを生み出す。

チアフルスタイル

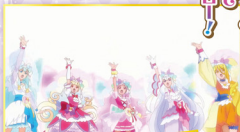
キュアアムールのパワーアップスタイル。ロングスカートへと大胆にフォームチェンジ。ヒールの細かいデザインなど、細部まで洗練され、華やかな印象へと変わっている。

基本スタイル

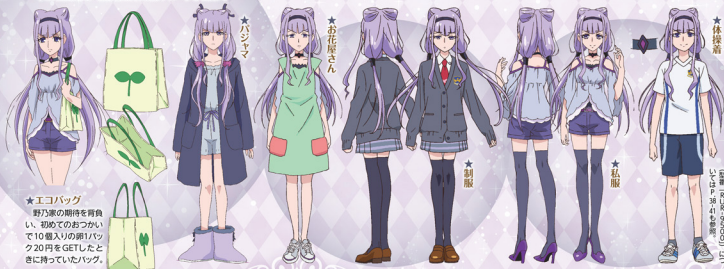
愛のプリキュア、キュアアムール。衣装モチーフは「アイドル」で、キュアマシェリとの双子コーデ。

キュアアムール表情集

マザーハートスタイル

キュアアムールの最終パワーアップスタイル。チアフルスタイルに加えて、ミライブレスと、背中にはオーロラ風に光る羽が現れる。

みんなでトゥモロー！

5人のパワーアップした合体技。メモリアルキュアクロックを使ってマザーハートスタイルへと変身。円陣を組むように5人で掛け声を重ねると、マザーの光がオシマイダーを包みこむ。

ルールー・アムール
（声／田村ゆかり）
クライアス社製のアンドロイド。型番「RUR-9500」から「ルールー」と呼ばれるが、生みの親のドクター・トラウムは、愛しい存在として「AMOUR（アムール）」と名付けた。プリキュアを調査するため、はなの母・すみれの記憶を操作して野乃家に潜入。転校生として学校にも通う。はなたちとの出会いをきっかけに心が芽生え、えみるから音楽を教わり、心を通わせる。食いしん坊な一面もある。
わたしは、えみると一緒にプリキュアになりたいのです。
秋冬服&冬のコート
淡い色合いのトップスに、やわらかい素材のボトムを合わせた装い。そこにジャケットコートを重ねた秋冬仕様。
春夏服
ショートパンツにニーソックス、そして肩出しのトップスにハイヒール。大人なのか、子どもなのか、絶妙なアンバランス感が特徴だ。
制服
心が芽生え、プリキュアになったルールーは、転校した当初の制服（右下参照）とはカラーが異なるバージョンを18話から着用した。
ルールーの家族
ルールーを作ったのは、クライアス社の科学者ドクター・トラウムである。父親だと主張するトラウムに、当初のルールーはなかなか冷たかった。
★ドクター・トラウム
（声／土師孝也）
※クライアス社相談役ドクター・トラウムについてはP.38-39参照。
ルールーのグッズ
★「ツインラブ」のギター
えみると一緒に歌うために、ルールーが自ら作った、おそろいのギター。
▲ギターケース
クライアス社時代のルールー
プリキュアを調査するため、野乃家に潜入したルールーはラヴェニール学園にも転校生として潜入。制服や体操着などは一般生徒と同じだが、ダークな色使い。
★エコバッグ
野乃家の期待を背負い、初めてのおつかいで10個入りの卵1パック20円をGETしたときに持っていたバッグ。
★パジャマ
★お花屋さん
★制服
★私服
★体操着
※クライアス社時代のルールー（型番「RUR-9500」）についてはP.38-41も参照。

未来は無限大！ ～なんでもできる！ なんでもなれる！～

ルールーのなりたいわたし

クライアス社ではアンドロイドとして命令に従い、「夢」など持ちようもなかったルールー。だが、えみると一緒に音楽を奏でて、プリキュアにもなったルールーに夢が芽生えた。それは「歌の存在しない未来の世界に、ふたりの音楽を、そして愛を届けたい」というもの。えみると出会った奇跡こそがルールーの夢へとつながっていく。

「未来で待っています」

未来（2030年）のルールー

2030年の未来で、えみるが再会したのは「心と身体を成長させるアンドロイド」のルールーだった。あのころのルールーとは異なり、姿は子どもであるが、えみるの歌声に合わせて、「キミとともだち」をゆっくりと口ずさんだ。

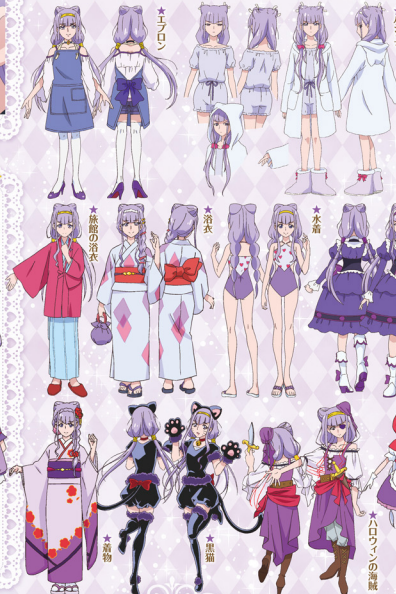
おしごとスイッチ・オン！

ルールーも、はなと一緒にお仕事体験。えみるとライブ活動もするようになって、ルールーはたくさんの経験を重ねていく。

ファッション

Character Collection 6

はぐたん

はぎゅ――！

はぐたんの表情集

プリキュア５人がミライクリスタルチアフルでパワーアップしたとき、はぐたんのコスチュームも変化した。

はぐたん

（声／多田このみ）

はなのもとに空から降ってきた赤ちゃん。お世話役（？）のハリーと一緒に、クライアス社が時を止めた未来から逃れてきた。はなたちから世話されて、ミルクを飲んだり、おしゃべりできるようになったりと、少しずつ成長した。プニプニほっぺがチャームポイントだ。

キュアトゥモロー

クライアス社が時を止めようとする未来で、はぐたんはプリキュアのひとり・キュアトゥモローとして戦っていた。

ファッション

★水着

★おでかけケープ

★ナイトキャップ

★ハロウィンのプリキュア

▶はぐたんが欲しがった、クマのぬいぐるみ

★浴衣

★着物

★サンタさん

★中世の子ども服

はぐたんのはぎゅっと成長日記

はぐたんを見ていると、ママやパパの気分になっちゃう♪　１年の成長をふりかえろう。

4月22日（12話）

歯が生えた！

4月15日（11話）

「ママ」って言った！

3月25日（8話）

つかまり立ちした！

3月18日（7話）

ハイハイできた！

2018年2月4日（1話）

ミルクをたくさん飲んだ

Character Collection 7
ハリハム・ハリー
人間体
ファッション
★水着
★パジャマ
★王子さま
★浴衣
★着物
★侍
★ハロウィンの狼男
★城内服
ハリーの表情集
動物体
★ナイトキャップ
ハリハム・ハリー
（声／野田順子〔動物体〕・福島潤〔人間体〕）
はぐたんと共に未来からやってきた。本来はハムスターで関西弁を話す。「ネズミ」と間違えられるが「ネズミちゃうわ！　ハリハム・ハリーや！」と訂正する。イケメンチェンジでイクメンにもなれる。ショップ「ビューティーハリー」を開いて女性客にも大人気。
巨大化ハリー
未来でクライアス社の改造手術を受け、胸のネックレスをはずすと巨大化する。
ハリーの仲間
リストルやビシンと共に、ハリハリ地区で一緒に暮らしていた、ハリハリ族の仲間。
お世話グッズ
ハリーキャリーは不思議なキャリーケース。育児用品が、なんでも出てくる。
★キュプーン
★粉ミルク
★ハリーキャリー
★タンバリン
★だっこひも
★哺乳瓶
プリキュア関連アイテム
プリキュアの変身や攻撃に欠かせないアイテムをご紹介。そのエネルギーの源は、希望の力「アスパワワ」だ。
★変身関連
▲プリハート
▲プリハートキャリー
▲ミライパッド
▲メモリアルキュアクロック。ミライパッドにミライクリスタルチアフル、またはマザーハートをセットすることで変化する
★ミライクリスタル（アスパワワの結晶）
▲ミライクリスタルピンク
▲ミライクリスタルブルー
▲ミライクリスタルイエロー
▲ミライクリスタルレッド
▲ミライクリスタルパープル
▲ミライクリスタルローズ
▲ミライクリスタルネイビー
▲ミライクリスタルオレンジ
▲ミライクリスタルルージュ
▲ミライクリスタルバイオレット
▲ミライクリスタルホワイト
▲ミライクリスタルチアフル
▲ミライクリスタルマザーハート
★攻撃関連
▲メロディソード
▼ツインラブギター
▲ミライブレス。ハートアクセメーカーで作ったビーズのブレスレットが変化したもの
◀ビーズのブレスレット
◀ハートアクセメーカー
言葉もどんどん覚えたよ！
いただきま～す
9月30日(34話)
Yo～Yo～Yo～
8月12日(27話)
おけおめ～！
2019年1月6日(46話)
（「赤子よ、ケガはないか」）
だいじょうぶよ～
12月16日(44話)
4月22日(12話)
離乳食が始まった

ラヴェニール学園

Character Collection 8

はなたちが通うラヴェニール学園中等部には、普通科のほかにスポーツ特進クラスがある。制服はブレザーを基本に、ベストやカーディガンなどとの組み合わせが可能だ。

ゲストキャラクター

Character Collection 9

はなたちが住む町「はぐくみ市」などで出会ったキャラクターたちをご紹介。

クライアス社 Criasu Co., Ltd.

ご挨拶 greeting

クライアス社は創立以来、
世界中の人々の幸福を願ってまいりました。
世に蔓延る明日への希望、そこに永遠はありません。
未来は必ずしも明るいわけではないのです。
我々はこれからも皆さまに本当の幸福を
提供できるよう精進してまいります。

代表取締役社長
ジョージ・クライ

＜東映アニメーション公式サイトより＞

会社概要 company overview

社内体制 トップダウンによるスピーディーな稟議

あざばぶ支社

■稟議書

クライアス社は社員からの発議をプレジデント・クライ自らが稟議し、承認を与えることで、どこよりも迅速なオシマイダーの発注を可能にしています。

経営理念 ミライクリスタルの獲得と未来の消滅

沿革

XXXX年	クライアス社設立。
2018年	あざばぶ市に支社を設立。
2018年 7月	あざばぶ支社組織改編。
2019年 1月	解散。

組織図

代表取締役社長 ジョージ・クライ

相談役 ドクター・トラウム

秘書 リストル

ジェネラルマネージャー ジェロス

カスタマースペシャリスト ビシン

あざばぶ支社

部長 ダイガン

課長 パップル

係長 チャラリート

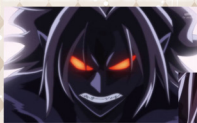
アルバイト ルールー

※他支社、従業員多数

代表取締役社長 ジョージ・クライ

（声／森田順平）

クライアス社の社長。幸せのためには、新たな苦しみが生まれる要因の時を止め、未来を消滅させるほかないというゆがんだ考えを持ち、希望の力の源泉であるアスパワワと、その結晶であるミライクリスタルの奪取をもくろむ。稟議を承認する鬼の社長の正体は、はなが雨の日に出会う、常時暗い顔をした男だった。

■クラスペディア
クライははなに近づき、この花を贈ろうとした。クラスペディアの花言葉は「永遠の幸福」。

■超クライ
48話にてトゲパワワを集めて、自らオシマイダー化したクライ。

■稟議承認のクライ
社員からの稟議を承認するのは、アバターのワンマン社長。

秘書 リストル

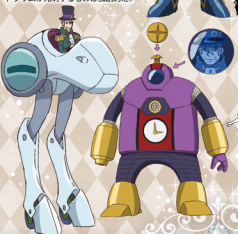
（声／三木眞一郎）

社長に代わって、社員たちの行動を実質的にコントロールしていた"できる男"。だがその正体は、ハリーたちの仲間であるハリハリ族だった。未来の世界で仲間を救おうとしたものの果たせず、絶望し、ジョージ・クライの未来を消滅させる考えに染まっていった。

■人間体

■動物体

■オシマイダー化したトラウム
トゲパワワに包まれたパワードスーツとトラウムが一体化してオシマイダーに変化。さらにトゲパワワを吸収して暴走形態になった。

■発明の数々
時間を操作できる機能を搭載したスーツや球体にも変化できる人型スーツなど、トラウムが発明するものは独創的だ。

相談役 ドクター・トラウム

（声／土師孝也）

クライ社長の側近のような技術者。オシマイダーに代わるパワーアップバージョンとして、猛オシマイダーを開発した。アンドロイドであるルールーの製造者でもある。トラウム自身はルールーの父親が自分だと思っていたが、当初はルールーに否定されてしまい、ショックを隠せなかった。

■オシマイダー化したパップル
社長のクライを後輩のジェロスに奪われ、絶望のあまり自らにトゲパワワを注入した際の姿。

■水着

■緑日の店員

課長 パップル

（声／大原さやか）

イケイケかつノリノリのお姉さん。ルールーの記憶操作を躊躇するなど、極悪ではない。退職後は「MAA（前向き明日エージェンシー）」をチャラリートたちと設立し、社長に就任した。

■HUGMANのエプロン

■緑日の店員

■水着

係長 チャラリート

（声／落合福嗣）

仕事に対する考えが甘く、簡単にプリキュアを倒せると思い込み、失敗。左遷部屋へと送られていた。オシマイダーにされても目的を果たせず、才能がないと自覚。クライアス社退職後は、動画投稿サイト「チャラチャラチャンネル」にて活き活きと活動している。

■オシマイダー化したチャラリート
左遷部屋から復帰するために、トゲパワワを受け入れたときの姿。

も大活躍！

アルバイト ルールー〈RUR-9500〉

（声／田村ゆかり）

キュアアムールことルールーは、もともとクライアス社所属のアンドロイド。アルバイトなのに、はなのことを探るスパイの仕事を任されていた。その後、会社に戻され記憶を消去されたのち、プリキュアの敵として完全武装で現れた。

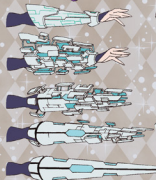
■パイロットスーツ

■左手のビームガン

■緑日の店員

■アロハ

部長 ダイガン

（声／町田政則）

横暴で高圧的。自分が出撃すれば「5分で終わる」がログセの典型的なパワハラ上司。実際に出撃しても5秒ともたなかった。退職後は「MAA」に合流するものの、一時はクライアス社への復職願望が芽生えたこともあった。

社員紹介
staff

■人間体

■猛オシマイダー化したビシン
ハリーもリストルも、みんな自分から離れてしまったことに逆上して、自ら変身した姿。

■魔術師

■動物体

カスタマースペシャリスト ビシン
（声／新井里美）

凶暴につき、社内で幽閉されていた社員。本来はハリーやリストルの仲間。クライアス社に改造されて、超人的な力を得られたことに感謝しているため、忠誠心は強い。ハリーも仲間にしようと躍起になった。

本社所属　新体制メンバー

ジェネラルマネージャー ジェロス
（声／甲斐田裕子）

壊滅状態のあざばぶ支社の社員に代わって登場した女性幹部。イケメンふたり組のジンジン＆タクミを従えるが、クライにはぞっこん。歳を取ることを極度に恐れて、未来はいらないと思っている。

■自暴自棄になったジェロス

■水着

■猛オシマイダー化したジェロス
加齢への恐怖から、自身がドクター・トラウムの発明品と合体して変貌。

■猛オシマイダー化したジンジン&タクミ
ジェロスを慕っていたジンジンとタクミが、プリキュアと戦うため自ら変身した。

■ジンジン
（声／小島よしお）

■タクミ
（声／山田ルイ53世〈髭男爵〉）

未来（2030年）の元社員たち

キュアエールたちの活躍で、時は止まることなく未来は訪れた。最終話の後半パートで、2030年を迎えたはぐくみ市にて、クライアス社の元社員たちが2030年の姿で登場した。

若手だった元社員たちは、2030年には小学生の姿で登場。

■ジェロス

■チャラリート

■ジンジン

■タクミ

■パップル
パップルは20代半ばのイケてるお姉さんになった。

■ダイガン
ダイガンは、薬師寺先生と同じ病院で働くナイスミドルだ。

クライアス社は2019年1月27日をもちまして解散いたしました。

正規社員以外

臨時採用あり！

■42話のアンリ
クライアス社では臨時採用も受け付けている。社員の退職が相次いでいるためだが、42話ではケガを負った絶望のアンリを、秘書のリストルが自らスカウトしている。

■パワードスーツ

■移動用円盤

■コックピット

オシマイダー＆猛(もう)オシマイダー

Character Collection 11

クレーンオシマイダー(2話)

時計塔オシマイダー(1話)

オシマイダー(ベース)
(声／吉田ウーロン太)
物体と合体する前、エネルギーが形づくるベース。この段階で胸に社員証がついている。

クライアス社の社員が発注する怪物のオシマイダーを一挙紹介。人間の負の感情から生まれるトゲパワワを「ネガティブウェーブ」によって周辺の物体と合体させると、並はずれたパワーを持つ巨大な怪物が出現する。

パソコンオシマイダー(7話)

植物オシマイダー(6話)

フィギュアスケートオシマイダー(5話)

先生オシマイダー(4話)

風船オシマイダー(3話)

自販機オシマイダー(12話)

たこ焼きオシマイダー(10話)

河童(かっぱ)オシマイダー(9話)

ジュウタイオシマイダー(8話)

女子中学生オシマイダー(16話)

路上ライバーオシマイダー(15話)

カートオシマイダー(14話)

円盤オシマイダー(13話)

ビルオシマイダー(13話)

チリトリオシマイダー(21話)

ロックンロールオシマイダー(20話)

愛崎正人オシマイダー(19話)

デザイナーオシマイダー2(18話)

デザイナーオシマイダー1(18話)

※各話のオシマイダー、猛オシマイダーの名前は仮称です。

ビデオカメラ猛オシマイダー(26話)

スイカ猛オシマイダー(24話)

ガイコツ猛オシマイダー(23話)

猛オシマイダー(ベース)
(声／吉田ウーロン太)

ドクター・トラウムが強化したオシマイダー。ベースの体は負のエネルギーの増大で太り、表情の絶望感もパワーアップする。

天狗(てんぐ)猛オシマイダー(30話)

黒あめ猛オシマイダー(29話)

ドロボーロボット猛オシマイダー(28話)

カラーコーン猛オシマイダー(27話)

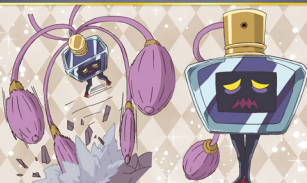
カラーコーン猛オシマイダー(騒音対策仕様)(35話)

砂時計猛オシマイダー(34話)

ディレクター猛オシマイダー(33話)

VR猛オシマイダー(32話)

愛崎猥発猛オシマイダー(41話)

香水猛オシマイダー(40話)

ハロウィン猛オシマイダー(38話)

未来へカエルくん猛オシマイダー(49話)

薬師寺れいら猛オシマイダー(44話)

モニュメント猛オシマイダー(43話)

カサブランカ猛オシマイダー(42話)

時間を止めて未来をなくそうとするクライアス社。その野望からみんなの未来を守るために戦うプリキュア。それぞれの出会い、育まれる仲間の絆、そして別れと誕生──。名シーンと共に物語をプレイバック！

第1話 フレフレみんな！元気のプリキュア、キュアエール誕生！

転校生の野乃はなのもとへ空から不思議な赤ちゃんが降ってきた!?

野乃はなは、超イケてる大人のお姉さんになる夢を抱く中学2年生。他人も自分も「フレフレ！」と応援する女の子である。転校初日の夜、空から赤ちゃん・はぐたんが降ってくる。一緒に現れたハリハム・ハリーは、はぐたんの世話をためらうはなを見て「違ったか」とつぶやき、はぐたんと一緒に姿を消してしまう。翌日、学校に怪物オシマイダーが現れる。明日を作る力「アスパワワ」の結晶「ミライクリスタル」を狙うクライアス社の係長・チャラリートの仕業だ。彼らに立ち向かおうとするはぐたん。それを助けようとするはなを光が包みこみ、ミライクリスタルピンクが誕生。元気のプリキュア・キュアエールに変身したはなは、オシマイダーを退けた。

▲▶「はぎゅー！」という赤ちゃん言葉から「はぐたん」と呼ぶことにした。ハリーはなぜか関西弁を話す

▲転校初日の朝。長く伸びていた前髪を切って心機一転しようとしたはなだったが……切りすぎてしまった

アイテムGET! プリハート

アイテムGET! ミライクリスタルピンク

◀▲ミライクリスタルは、明日を作る希望の力「アスパワワ」の結晶。プリキュアの変身や放つ技にも使う

アイテムGET! キュアーン

▲この専用スプーンにミライクリスタルを乗せて、はぐたんに与えると、はぐたんに力が戻っていく

輝く未来を抱きしめて！
みんなを応援！元気のプリキュア！キュアエール！

◀▼人間のネガティブな心から生み出される「トゲパワワ」を使ってオシマイダーを発注する

第2話 みんなの天使！フレフレ！キュアアンジュ！

キュアエールの初めての仲間は優等生で委員長の薬師寺さあや

ハリーは、プリキュアになったことを話さないようにと、はなを口止めして、彼とはぐたんが暮らす家（ビューティーハリー）を出現させる。人間に変身したハリーは、はなに「クライアス社にミライクリスタルを奪われると未来がなくなる」と告げる。未来を守るには、一緒に戦う仲間が必要だ。学級委員長の薬師寺さあやは「学園の天使」と呼ばれる優等生だが、本人は「勇気がない」と思っている。オシマイダーが現れて、はながキュアエールに変身して戦う。その姿を目にしたさあやの心に、はなを助けたい気持ちと「なんでもできる」というはなの言葉が蘇り、ミライクリスタルブルーが出現。さあやはキュアアンジュに変身し、協力してオシマイダーを退けた。

▲ハリーがカバンから出したミニチュアの家が、はなのミライクリスタルの力で大きくなった

アイテムGET! ミライクリスタルブルー

▲はなの応援を受けて、さあや自身が「自分のなかの勇気」に気づいたことで生まれたミライクリスタル

輝く未来を抱きしめて！
みんなを癒す！知恵のプリキュア！キュアアンジュ！

▲チャラリートは、路地で車が鉢合わせして口論するドライバーふたりのトゲパワワから、オシマイダーを発注する

【第2話 STAFF】 脚本／坪田文、原画／増田誠治、福原恵次、佐々木瞳、安田好孝、斉藤玲子、柴田知波、沼田広、金子利恵、大内智美、矢田梓、斉藤拓也、松浦仁美、藤原舞、上久保聡美、完甘美也子、杉本幸子、北條直明、塩澤枢、小野木三斉、荒川絵里花、伊藤真奈美、中尾香奈美、大西麻衣子、糠野智加、佐々木綾、大下知之、細田沙織、岩崎亮、芳山優、田上ゆい、ウォンバット　背景／岩谷邦子、本間禎章、山下千歌、黄国威、土井裕子、西田渚　CGディレクター／児玉徹郎　デジタルアーティスト／たかあき、下崎由加里、明日菜、池田篤史、岩本千尋、坪川尚史、上垣健太郎、宮澤孝介、中谷純也、本間大輔、小林東　製作進行／樋田順一　美術／今井美紀　総作画監督／山岡直子　作画監督／増田誠治、仁井学　絵コンテ／佐藤順一　演出／平池綾子

【第1話 STAFF】 脚本／坪田文　原画／太田晃博、黒柳賢治、安田陽子、上田由希子、矢田梓、冨士池圭恵、諸冨直也、伊藤弘樹、下地彩加、井上和俊、真庭秀明、森宗弘樹、増田誠治、星野守、丸山匡彦、片山敬介、楡木哲郎、楢崎朝子、藤原舞、木曽勇太、板岡錦、藤原未来夫、濱野裕一　背景／今井美紀、いいだりえ、三上葉、黄国威、田中美紀、飯野いずみ、土井裕子、獏プロダクション、本田修、本田利恵、Toei Phils.、エルウィン・サデーア　CGディレクター／高橋友彦、児玉徹郎　デジタルアーティスト／松田範雄、岩本千尋、中谷純也、海老沢大生、宮本美貴、宮澤孝介、坪川尚史、小林東、たかあき、下崎由加里、明日菜、池田篤史　演出助手／中島啓太郎　製作進行／巴山亨樹　美術／西田渚　総作画監督／宮本絵美子　作画監督／太田晃博　演出／座古明史

Story（ストーリー）

第3話 ごきげん？ナナメ？おでかけはぐたん！

止められた未来の時間を動かす8個のミライクリスタルを探す

ご機嫌ななめのはぐたんにハリーは大弱り。プリキュアだけが使える「ミライパッド」で検索した「はぐたんをご機嫌にするもの」のサインに従って移動動物園に向かうと、輝木ほまれ、はなの妹・ことりと母・すみれがいた。すみれに抱かれたはぐたんは眠ってしまう。はぐたんをご機嫌にするものとは、すみれだったのだ。ハリーは、自分たちの世界は時間を止められてしまったが、はぐたんに8個のミライクリスタルの力を与えれば再び時間が動き出すと話す。残り6個を見つけなくてはならない。そこに現れたオシマイダーをプリキュアふたりで退けると、ミライパッドに新しい反応が出現。それはプリキュアの活躍を羨望（せんぼう）のまなざしで見ていたほまれだった。

▲▼チャラリートに相談されたルールーは、ミライクリスタルホワイトのヒントはプリキュアにあると分析

▲プリキュアだけが使えるパッド。はぐたんに必要な各種情報の検索や「お仕事体験」に欠かせない道具だ

▲移動動物園を訪れていた、かわいいものが好きなほまれは、はぐたんの泣き声に文句を言う中年男を撃退

▲親切なはなの家族は、はぐたんの世話をしているハリーに「困ったときはいつでも来て」とサポートする

◀▲ほまれが撃退した中年男のトゲパワワから生まれたオシマイダーを、ふたりで退ける

第4話 輝け！プリキュアスカウト大作戦！

3つ目のミライクリスタル誕生 ジャンプが届かず目の前で消滅

ハリーは、おしゃれショップ「ビューティーハリー」を準備。はなはほまれをプリキュアに誘おうとするが、同級生はほまれを怖がっている。ほまれは将来を期待されたフィギュアスケーターだったが、競技中の足の負傷で辞めていた。ケガは治っても心の傷によりジャンプができないのだ。ほまれを心配する先生のトゲパワワを感知したチャラリートがオシマイダーを発注。はな&さあやがプリキュアに変身して立ち向かう姿を見たほまれに「もう一度跳びたい」という気持ちが芽生え、ミライクリスタルが誕生。しかし、ほまれの心の傷は深く、ミライクリスタルは消える。キュアエールの活躍で先生は無事だったが、ほまれははなの応援を拒否して去っていった。

◀▲足のケガでフィギュアスケートを避けるほまれ。足は治っているが、心が弱くなっている

◀▲▶空中に現れたミライクリスタルをジャンプして取るほまれ。だが、わずかに届かず……

▲今回のトゲパワワの源は、自信喪失したほまれを励ますことができない自分のふがいなさを嘆く梅橋先生

◀▲はなの応援を「やめて！」と拒否するほまれ。はなは真剣に「また明日ね」と声をかけた

【第4話 STAFF】 脚本／坪田文　原画／渡邊巧大、山本拓美、森佳祐、大久保俊介、藤原舞、牛来隆行、廣中美佳、小林之浩、佐々木瞳、金子利恵、上久保聡美、矢田梓、スタジオガッツ　背景／岩谷邦子、斎藤陽子、小野寺美由紀、倉本章、青柳ゆづか、今井美紀、西田渚　CGディレクター／児玉徹郎　デジタルアーティスト／たかあき、下崎由加里、明日菜、池田篤史、岩本千尋、坪川尚史、上垣健太郎、宮澤孝介、中谷純也、本間大輔、小林東　演出助手／桐山貴央　製作進行／樋田順一　美術／倉橋隆　総作画監督／山岡直子　作画監督／渡邊巧大　演出／田中裕太

【第3話 STAFF】 脚本／村山功　原画／奥澤明裕、高橋詩奈子、高山智也、鈴木里沙、佐々木雄三、牧野太輔、長澤達也、志賀岳、皆川祐輝、入江綾子、青木伸一　背景／KLAS、木賊美香、余力、峰島千明、Debbie Li、吉崎優、椿浩幸、中島裕一郎、大川真由美、佐々木友子、スタジオなや、中村典史、平良亜以子、古瀬あかり、横山千草、黄国威、西田渚　CGディレクター／高橋友彦　デジタルアーティスト／松田範雄、宮本美貴、海老沢大生、柳竜一、富安勝人、笹井麻希、Darril Padua、Michael De Vera、Jeffrey Picaso、Francis Cayetano　製作進行／中塚広大、巴山亨樹　美術／中林由貴　総作画監督／宮本絵美子　作画監督／下谷美保、藤崎真吾　絵コンテ／角銅博之　演出／村上貴之

▲▶ほまれは、悩みや想いを素直に語り合うことで、はなたちと打ち解けることができた

▼一度消えたものの、ほまれの「もう一度跳びたい、輝きたい」という気持ちから再び出現した

▲むずかるはぐたんをなだめるために、ハリーがはなに渡した打楽器。その効果は絶大♪

▲フィギュアスケートのジャンプが成功しない苦い記憶が、強いトゲパワワとなって噴出

宙を舞え！フレフレ！キュアエトワール！

第5話

跳ぶのが怖かった輝木ほまれがミライクリスタルをキャッチ！

ほまれに「ビューティーハリー」の開店準備を手伝ってもらい、店は大繁盛。ほまれは、プリキュアになれなかった自分に対するはなたちの気遣いに戸惑う。だが、互いに素直な気持ちを伝えることで心が通じ合っていく。そこへ、クライアス社から最後のチャンスを与えられたチャラリートが現れる。チャラリートは、捕らえたほまれの心の傷をえぐってトゲパワワを噴出させると、それを使ってオシマイダーを発注する。立ち向かうキュアエールとキュアアンジュ。捕らわれのほまれは「もう一度輝きたい」と強く願う。再び出現したミライクリスタルイエローを今度はしっかり手にしたほまれは、キュアエトワールに変身。3人は協力してオシマイダーを退けた。

▲ほまれのトゲパワワから生まれたオシマイダーは、フィギュアスケートのように滑走して攻撃！

笑顔、満開！はじめてのおしごと！

第6話

ミライパッドでの初お仕事体験は、かわいいお花屋さん

はなは、父が店長を務めるホームセンター「HUGMAN（ハグマン）」へみんなを誘う。そこにあるお花屋さんを手伝うことになった3人は、ミライパッドでおしごとスイッチ・オン。クライアス社では、チャラリートに代わりパップルが出陣。客の苦情に心を痛める店員のトゲパワワを使ってオシマイダーを発注したパップルは「クライアス社の仕事は、ミライクリスタルホワイトを手に入れること。明るい未来を消すこと」だと言う。怒ったはなたちは、力を合わせてオシマイダーを退ける。はなの母・すみれは、お花屋さんの手伝いへと戻った3人に「はなたちの仕事体験取材」をタウン誌に連載することを告げて、さあやに「『野菜少女』のさあやちゃん？」と尋ねた。

◀アルバイトが全員風邪でお休み。困っているお花屋さんを手伝うために、3人でおしごとスイッチ・オン

▲HUGMANの広告文は「ようこそ。あなたの未来をがっちりサポート。ホームセンターHUGMANへ」

◀▲床を濡らす失敗でへこむはな

▶はなは、さあやが花束を持って微笑んでいる姿に見覚えがあった

▼前回、最後のチャンスで失敗したチャラリートは担当をはずされ、代わりに上司で課長のパップルが着任

▲さあやは「お花も野菜も大地の恵み」というキャッチフレーズの「野菜少女」のCMに出演した子役だった

【第6話 STAFF】 脚本／広田光毅　原画／青山充　背景／ビック・スタジオ、榛名恭子、北畠太郎、藤倉桃子、関根悠姫、永原かれん、西田渚　CGディレクター／児玉徹郎　デジタルアーティスト／たかあき、下崎由加里、明日菜、池田篤史、岩本千尋、坪川尚史、上垣健太郎、宮澤孝介、中谷純也、本間大輔、小林東　演出助手／中島啓太郎　製作進行／樋田順一　美術／大西穣　総作画監督／山岡直子　作画監督／青山充　演出／角銅博之

【第5話 STAFF】 脚本／坪田文　原画／大田和寛、青山充、福原恵次、丸山匡彦、飯飼一幸、豊増隆寛、清水伸太郎、速水広一、原田節子、斉藤香、木曽勇太、赤田信人、上久保聡美、塩田学、冨士池圭恵、矢田梓、北田美弥子、大内智美、金子利恵、会津五月、スタジオガッツ、Toei Phils.　背景／本間禎章、黄国威、田中美紀、飯野敏典、田中里緑、佐藤美幸、西田渚、Toei Phils.、ネリット・アクーニャ　CGディレクター／高橋友彦　デジタルアーティスト／松田範雄、宮本美貴、海老沢大生、柳竜一、Darril Padua、Michael De Vera、Jeffrey Picaso、Francis Cayetano　演出助手／川崎弘二　製作進行／田口美月　美術／いいだりえ　総作画監督／宮本絵美子　作画監督／大田和寛　絵コンテ／佐藤順一　演出／三上雅人

第7話 さあやの迷い?本当にやりたいことって何?

さあやがオーディションに挑戦 新たなミライクリスタルが誕生

幼いころ「野菜少女」のCMに出演したことを告白したさあやのもとへ、当時共演した一条蘭世が現れ「次のオーディションは負けない」と宣言する。しかし、今のさあやは、母で女優の薬師寺れいらと比較され、自分が何をしたいのか迷っていた。オーディションを受けるさあやを、ミライパッドでCA姿になったはな&ほまれが激励し、さあやは好演。そこへパップルに交代を頼まれたアルバイトのルールーが現れて、蘭世のトゲパワワを使って発注したオシマイダーで攻撃。3人を分析するルールーは手強いが、あきらめないキュアアンジュにミライクリスタルネイビーが生まれ、オシマイダーを退ける。蘭世は悪役で合格。さあやは不合格だが、満足していた。

▲蘭世は、さあやと共演した「野菜少女」のCMでネギのかぶりものをして登場していた

▲「ハートアクセメーカー」で、3人おそろいのハート型リングのブレスレットを作った

▲「プリティCAはじめてのフライト」のオーディションと勘違いして乱入する筋書きだった

▲パップルにプリキュア排除の任務を押しつけられたアルバイトのルールーが出陣することになった

▲キュアアンジュにとって、ふたつめのミライクリスタル。「仲間を守りたい」という想いから誕生

第8話 ほまれ脱退!? スケート王子が急接近!

キュアエトワールもふたつ目のミライクリスタルを手に入れる

ほまれのフィギュアスケート仲間の少年・若宮アンリが現れて「一緒にモスクワに行こう」とほまれを誘う。彼は、はなの無責任な応援は、ほまれにとって重荷だと言う。だが、ほまれはアンリの誘いを断って、彼に演技を披露する。はな&さあやの友情の影響を受けたほまれの演技に驚くアンリ。ほまれは心の傷だったジャンプも成功させる。パップルが発注したオシマイダーが街に出現し、プリキュアが急行。友情を大切に思うキュアエトワールにミライクリスタルオレンジが生まれ、オシマイダーを退ける。ほまれの演技を認めたアンリは、はなたちの学園に転校してくる。はなは、ほまれの愛犬・もぐもぐとの散歩中に、本を手にした不思議な男性と出会った。

▲ほまれの演技は「応援を背負って跳びたい、あきらめない」という意欲に満ち、輝いていた

▲キュアエトワールのふたつめのミライクリスタル。「友達は心を輝かせる」という想いから誕生した

▲交通渋滞にいら立つパップルは、渋滞する車列から立ちのぼるトゲパワワでオシマイダーを発注

▲アンリがはなたちの学校へ転入してきた!

▲はなは、男性が落とした本を拾ってあげる

第9話 丘をこえ行こうよ! レッツ・ラ・ハイキング!

はなを「先輩」と呼んで尊敬!? 歌が得意な女の子・愛崎えみる

はなたちが市民イベントのハイキングに参加する。クラスで参加する、はなの妹・ことりの同級生・愛崎えみるは心配性。やりすぎな行動に、みんなあきれ顔。サルがはぐたんのタンバリンを奪って逃げ、追うはな&はぐたん、えみるは森で迷子になる。はなは、えみるの行動はみんなを助けるためと気づいていたので、落ちこむ彼女を「隠れてみんなを守るヒーローだね」と励ます。はぐたんをあやすえみるの歌声を聴きつけたさあや&ほまれがはなたちを救出。リフレッシュに来ていたパップルがサルたちのトゲパワワでオシマイダーを発注するものの、プリキュアが撃退。えみるははなのことを尊敬して「先輩」と呼び、反省したサルはタンバリンを返しに来た。

▲花のとげから守ろうとして同級生を止めるえみる。強引で言葉たらずなので、相手に誤解されてしまった

▲おなかをすかせて泣き出したはぐたんだったが、えみるが童謡「ピクニック」を歌うことで笑顔が戻った

▼パップルは、タンバリンの取り合いをするサルたちのトゲパワワを使い、河童オシマイダーを生み出した

▲プリキュアの戦いを木の陰で見守るえみるは「かっこいいのです」と羨望の眼差しに

【第9話 STAFF】 脚本／有賀ひかる　原画／飯島秀一、星川信芳、福原惠次、清水隆正、本吉悟、郡司智一、杉本幸子、望月謙、田中伸昭、冨木由美子、星野玲香、赤田信人、佐藤元、安田陽子、大内智美、大久保俊介、上久保聡美、廣中美佳、矢田梓、完甘美也子、会津五月　背景／飯野敏典、黄国威、山下千歌、飯野いずみ、本間禎章、Toei Phils.、エルウィン・サデーア　CGディレクター／髙橋友彦　デジタルアーティスト／松田範雄、宮本美貴、海老沢大生、柳竜一、Darril Padua、Michael De Vera、Jeffrey Picaso、Francis Cayetano　演出助手／川崎弘二　製作進行／田口美月　美術／田中里緑　総作画監督／宮本絵美子　作画監督／赤田信人　絵コンテ／入好さとる　演出／ひろしまひでき

【第8話 STAFF】 脚本／坪田文　原画／松浦仁美、清水伸太郎、牛来隆行、高井浩一、鰐淵和彦、若菜宜典、福島史士、安田好孝、安田陽子、野津美智子、柴田知波、山岡直子、なまためやすひろ、北田美弥子、楢崎朝子、大久保俊介、金子利恵、会津五月、上久保聡美、完甘美也子、松田千織、A-Line　背景／デザインオフィス・メカマン、石原信明、上原里香、鈴木祥太、飯野いずみ、西田渚　CGディレクター／児玉徹郎　デジタルアーティスト／たかあき、下崎由加里、明日菜、池田篤史、岩本千尋、坪川尚史、上垣健太郎、宮澤孝介、中谷純也、本間大輔、小林東　演出助手／朝倉舞彩　製作進行／樋田順一　美術／山口大悟郎　総作画監督／山岡直子　作画監督／松浦仁美　絵コンテ／菱田正和　演出／平池綾子

【第7話 STAFF】 脚本／井上亜樹子　原画／上野ケン、星川信芳、田中伸昭、清水隆正、安田陽子、野津美智子、斉藤玲子、柴田知波、上杉遵史、大久保俊介、板岡錦　背景／飯野敏典、田中里緑、いいだりえ、山下千歌、西田渚、Toei Phils.、ルーベン・オレンセ　CGディレクター／髙橋友彦　デジタルアーティスト／松田範雄、宮本美貴、海老沢大生、柳竜一、Darril Padua、Michael De Vera、Jeffrey Picaso、Francis Cayetano　演出助手／桐山貴央　製作進行／柿田智子　美術／黄国威、本間禎章　総作画監督／宮本絵美子　作画監督／上野ケン　演出／志水淳児

第10話 ありえな〜い！ウエイトレスさんは大忙し！

◀はなは、さあや＆ほまれのようにできないことを悩み、プリキュアに変身できなくなる

おしごとスイッチ・オン！ ウエイトレス

▲さあやは料理の調理時間を記憶して客にアドバイス、ほまれはローラースケートで迅速に配膳する

▼はなに「なんでもできる可能性がある」と言えず後悔する店主のトゲパワワでオシマイダーを発注

▶◀はぐたんは、はなをオシマイダーの攻撃から守るためアスパワワを使いきってしまう

うまく手伝いができずに落ちこむはながプリキュアに変身できない!?

はなたちは、はなの母・すみれが携わっているタウン誌の連載記事「キラッとお仕事しChao（ちゃお）！」の記念すべき1回目の取材で、「はぐくみフードフェスティバル」のウエイトレスを体験。さあや＆ほまれはてきぱきと仕事をこなすが、客が少ないたこ焼き店の担当になったはなは、ふたりに比べて「自分は何もできない」と落ちこむ。そこへ左遷寸前で焦るパップルが現れ、たこ焼き店店主のトゲパワワでオシマイダーを発注。自信喪失したはなが変身できなくなり、キュアアンジュとキュアエトワールが立ち向かう。オシマイダーの攻撃を食い止めて退けたのは、なんとはぐたんだった。だが、アスパワワを使いきったはぐたんは、ぐったりとしてしまった。

第11話 私がなりたいプリキュア！響け！メロディソード！

▶◀プリキュアを辞めると言いだすはな。彼女の悩みを知った母はやさしくエールを贈る

▶ミライクリスタルローズは「プリキュアの剣」にその姿を変える

アイテムGET！ ミライクリスタルローズ

▶キュアエールに芽生えた「逃げない」強さや「みんなを元気にしたい」という想いから誕生

◀▼オシマイダー化して苦しむチャラリート。キュアエールは、彼をあたたかくHUGする

◀エールタクト、アンジュハープ、エトワールフルートとして、3人で「トリニティ・コンサート」を放つ

アイテムGET！ メロディソード

プリキュア3人の新たなアイテム「メロディソード」が誕生する♪

自分を責めるはなは、自分はプリキュア失格と思いこんでしまい、みんなのもとを去る。だが翌朝、家を出たはなをさあや＆ほまれが待っていた。ミライパッドが示すのびのびタワーへ向かうと、はぐたんが目を覚ます。パップルによって巨大オシマイダーと化したチャラリートが街に出現する。キュアエールに変身できたはなの「みんなを笑顔にしたい」との想いからミライクリスタルローズが生まれ、剣に変形する。だが「必要なのは剣じゃない」というキュアエールに応えるように剣は3つの「メロディソード」になり、3人が奏でるメロディでチャラリートを包みこむ。笑顔を取り戻したはなに、はぐたんは初めて発する言葉で「ママ」と呼びかけるのだった。

第12話 ドキドキ！みんなでパジャマパーティー！

▲はぐたんにかわいい歯が生えた。みんなで離乳食を作って食べさせる♪

▲ホラー映画鑑賞で目が冴えて眠れなくなったはなたちは、朝まで話に興じることにする

▶ハリーとはぐたんはクライアス社が時間を止めてしまった未来から逃げてきたのだった

▲ルールーは、朝食の支度をするすみれの背後に忍びよって、記憶を操作する光を放つ

ハリーとはぐたんは未来の世界から時間を遡（さかのぼ）って逃げてきた！

はなたちは「ビューティーハリー」でパジャマパーティーを開く。夕飯のたこ焼きを食べているとき、みんなははぐたんに歯が生えたことに気づき、離乳食を作って食べさせる。星空の下、ハリーは、はなたちに自分たちが未来から来たことを打ち明ける。彼がそうしたのは「メロディソードを得た3人ならば、明るい未来を切り開ける」と心の底から思ったからだ。そこへパップルが発注したオシマイダーが出現するが、力を合わせたプリキュアが退ける。翌朝、はなの家にクライアス社のルールーが訪ねてきて、すみれの記憶を操作してしまう。そしてすみれは、帰宅したはなに「知り合いの娘さんを預かることになった」と言ってルールーを紹介するのだった。

【第12話 STAFF】 脚本／村山功　原画／江口善、仲理沙、吉森直子、加地真理子、小林万理、小川凜太郎、武元一貴、細萱明良、高波祐太、曽根亜矢子、内田広之、矢木正之、阿部千恵子、岡村康平、藤田裕子、諏訪昌夫、たけだかずひさ、平岡正幸、森亜弥子、濱口頌平、関暁子、池内直子、中村叶子、関谷明日香、古谷涼香、青木香菜、桂木ななみ、糠野智加、美馬健二、片山敬介、斉藤香、原田節子、松田千織、長田雄樹、清水隆正、矢田梓、加宮四楼、増田誠治、完甘美也子　背景／デザインオフィス・メカマン、高橋英次、石原信明、上原里香、手嶋直子、原英里佳　CGディレクター／児玉徹郎　デジタルアーティスト／たかあき、下崎由加里、明日菜、池田篤史、岩本千尋、坪川尚史、上垣健太郎、宮澤孝介、中谷純也、本間大輔、小林東　製作進行／加集和人、巴山亨樹　美術／山口大悟郎　総作画監督／山岡直子　作画監督／池内直子、森亜弥子、濱口頌平　演出／関暁子

【第11話 STAFF】 脚本／坪田文　原画／増田誠治、完甘美也子、松田千織、丸山匡彦、原田節子、佐々木瞳、楢崎朝子、芹田明雄、速水広一、北原章雄、野津美智子、田中伸昭、高井浩一、宮島彩、上野ケン、東出太、松井京介、矢田梓、北田美弥子、大内智美、上久保聡美、大久保俊介、金子利恵、安田陽子、鈴木沙知、郡司智一、Toei Phils.、藤原未来夫、濱野裕一　背景／今井美紀、小野寺美由紀、岩谷邦子、土井裕子、青柳ゆづか　CGディレクター／高橋友彦　デジタルアーティスト／松田範雄、宮本美貴、海老沢大生、柳竜一、Darril Padua、Michael De Vera、Jeffrey Picaso、Francis Cayetano　演出助手／桐山貴央　製作進行／樋田順一　美術／倉橋隆　総作画監督／宮本絵美子　作画監督／増田誠治　演出／畑野森生

【第10話 STAFF】 脚本／広田光毅　原画／ジュティゼル・バルトラソ、ポール・ザルディバー、フランクリン・タマング、アレハンドロ・ベレン、レジー・マナバット、アイバン・ミナ、チャールズ・ヴィラヌエバ、デニス・カブラオ、ボビー・デラベーニャ、ロメオ・アンニョヌエボ、アルフレッド・レイエス、フリッツ・ウラング、ノエル・アンニョヌエボ、ジョーイ・カランギアン、アーノルド・ジョセフ、レム・バレンシア、シーザー・デ レオン、マービン・メンドーサ、アレン・ジェラルディーノ　背景／ビック・スタジオ、榛名恭子、藤倉桃子、関根悠姫、永原かれん　CGディレクター／児玉徹郎　デジタルアーティスト／たかあき、下崎由加里、明日菜、池田篤史、岩本千尋、坪川尚史、上垣健太郎、宮澤孝介、中谷純也、本間大輔、小林東　演出助手／中島啓太郎　製作進行／柿田智子　美術／大西穣　総作画監督／山岡直子　作画監督／アリス・ナリオ、フランシス・カネダ　絵コンテ／小山賢、三上雅人　演出／三上雅人

▲▶はなと同じクラスに転入したルールーは、学力と運動能力に加えてルックスも抜群なので、瞬く間に学校のアイドルになった

▲▶思いやる心を理解できないルールーは、手巻き寿司パーティーをむげに断り、みんなをドン引きさせる

▲▼オシマイダーの戦いを中断させてキュアエールと会話を交わしたルールーは、潜入調査を継続する

▶「はなに悪印象を持たれた」と判断したルールーは、オシマイダーを発注するいつもの方法に作戦を変更

第13話 転校生はフレッシュ&ミステリアス!

アンドロイドのルールーには歓迎の気持ちが理解できない

ルールーははなと会ったことがある口ぶりだが、はなは思い出せない。ルールーの狙いは、はな=キュアエールの力の秘密を解明することだ。はなのクラスに転入したルールーは学業もスポーツも万能で、男子にモテモテ。だがルールーは、はなの発案で開催した歓迎会を「理解不能」と一蹴。感じの悪いルールーに話しかける者は激減する。ルールーは潜入捜査の続行を不可能と判断し、オシマイダーを繰り出すこれまでどおりの調査に切り替える。ところが、まだルールーの正体に気付いていないキュアエールに「家族になろう。好きだから」と言われたルールーは、胸に不思議な痛みを覚える。オシマイダーを退けられたルールーは潜入調査を続けることにした。

第14話 はぎゅ～! 赤ちゃんスマイルめいっぱい!

◀▼さあやが持っていたテキストを暗記するルールーに、さあやはライバル心を燃やす!?

▲さあやのミライクリスタルネイビーをミライパッドにセットして変身。エプロンが素敵

おしごとスイッチ・オン! 保育士

◀ルールーは、自分が発注したオシマイダーの前に立ちはだかって子どもたちを守った!?

ルールーのなかに赤ちゃんをかわいいと思う心が芽生えた!?

はなたちの仕事体験取材の2回目は保育士。はぐたんとハリー、ルールーも参加して、はなたちは1歳児の面倒を見る。ルールーは、みんなが必死で赤ちゃんの世話をする理由をはなに「かわいいから」と説明されても理解できない。だが、赤ちゃんの寝顔を見て微笑むルールーを見たさあやに「ルールーもかわいいと思っている」と告げられる。赤ちゃんの泣き声に苦情を訴える女性のトゲパワワを感知したルールーは、オシマイダーを発注。ところが、子どもたちに危険が迫るのを目にしたルールーは、思わずオシマイダーの前に立ちはだかる。そして動きを止めたオシマイダーをプリキュアが退ける。その夜、疲れきったはなは赤ちゃんよりも早く眠りについた。

第15話 迷コンビ…? えみるとルールーのとある日

◀えみるが弾くギターと歌声に感動するルールー。だが、えみるの兄・正人はギター否定派

▲◀「事故が起こる前にみんなを守る」キュアえみ～る。特売品の卵を入手するルールー

▼はぐたんが「ほまれ、さあや」と、それぞれの名前をしゃべったことで、ふたりは大喜び

◀▲逃げ遅れた少年を助けたえみるは、キュアエールに「あなたもヒーロー」と言われて歓喜

えみるの歌を聴いたルールーに存在しない感情が湧き上がる!

卵を買いに出かけたルールーは、プリキュアをマネた衣装のえみると出会う。人助けをしたい気持ちが空回りするえみるは失敗の連続。だが、ルールーは「みんなが笑顔になっている」と支持する。それを喜んだえみるはルールーを自宅に招き、音楽を知らないルールーに、秘密の趣味のギターで弾き語りする。歌に衝撃を受け、えみるの兄でギターを否定する正人に怒るなど、ルールーは自分のなかに湧き上がる感情に驚きを隠せない。パップルによって発注されたオシマイダーが出現。危険を顧みずに子どもを助けたえみるに、ルールーは自分も以前(14話)同じことをしたと語る。えみるは「一緒にプリキュアをやろう」と誘うが、ルールーはきっぱりと断った。

【第15話 STAFF】 脚本/成田良美　原画/大田和寛、赤田信人、松浦仁美、原田節子、完甘美也子、下谷美保、皆川祐輝、高橋任治、福原恵次、金子利恵、野津美智子、安田陽子、矢田梓、鈴木沙知、長田雄樹、涂泳策、松井京介、本吉悟、加宮四楼、上久保聡美、北田美弥子、松田千織、Toei Phils.　背景/飯野敏典、いいだりえ、山下千歌、黄国威、西田渚、Toei Phils.、ルーベン・オレンセ　CGディレクター/高橋友彦　デジタルアーティスト/松田範雄、宮本美貴、海老沢大生、柳竜一、陳璐、金子汐里、Darril Padua、Michael De Vera、Jeffrey Picaso、Francis Cayetano　演出助手/桐山貴央　製作進行/梶原航平　美術/田中里緑、本間禎章　総作画監督/宮本絵美子　作画監督/大田和寛　演出/田中裕太

【第14話 STAFF】 脚本/広田光毅　原画/郡司智一、本吉悟、斉藤玲子、廣中美佳、松田千織、高橋任治、安田陽子、清水隆正、北田美弥子、星川信芳、真中孝之、上久保聡美、野津美智子、涂泳策、Toei Phils.　背景/ビック・スタジオ、藤倉桃子、関根悠姫、永原かれん、西田渚　CGディレクター/児玉徹郎　デジタルアーティスト/たかあき、下崎由加里、明日菜、池田篤史、岩本千尋、坪川尚史、上垣健太郎、宮澤孝介、中谷純也、本間大輔、小林東　演出助手/中島啓太郎　製作進行/柿田智子　美術/大西穣　総作画監督 /山岡直子　作画監督/なまためやすひろ　演出/志水淳児

【第13話 STAFF】 脚本/田中仁　原画/青山充　背景/山下千歌、黄国威、本間禎章、牟田いずみ、田中里緑、西田渚、Toei Phils.、ネリット・アクーニャ　CGディレクター/高橋友彦　デジタルアーティスト/松田範雄、宮本美貴、海老沢大生、柳竜一、陳璐、金子汐里、Darril Padua、Michael De Vera、Jeffrey Picaso、Francis Cayetano　演出助手/朝倉舞彩　製作進行/田口美月　美術/飯野敏典　総作画監督/宮本絵美子　作画監督/青山充　演出/角銅博之

みんなのカリスマ！？ほまれ師匠はつらいよ　第16話

▼じゅんなに迷惑をかけてばかりのあきは、しっかりするために、ほまれに弟子入りを志願。ほまれに嫉妬していたじゅんなは、あきの真意を知り、そんなあきを応援し続けると約束した

▲幼稚園からずっと一緒の仲よしだったあき＆じゅんなのケンカに巻き込まれて、ほまれはぐったり

◀▲プリキュアの秘密を知っていたルールーに驚く一堂。その目前でルールーが機能停止

社員が仲間割れ？ ルールーがパップルの攻撃で機能停止に！

同級生の百井あきがほまれに弟子入りを志願するが、あきの幼なじみの十倉じゅんなは反対。ほまれはいがみ合うふたりに困惑する。一方で、さあや＆ほまれを観察するルールーは、ふたりもプリキュアだと察知。パップルはルールーにプリキュアの変身アイテムの調査を指示し、あき＆じゅんなのトゲパワワでオシマイダーを発注。プリハートがないほまれは変身できない。だが、プリキュアに情が移ったルールーは、盗んだプリハートをほまれに返す。キュアエトワールの活躍で、あき＆じゅんなのトゲパワワが消失。オシマイダーを退けたプリキュアがルールーに事情を聞こうとすると、強烈な閃光がルールーを直撃。機能停止したルールーをパップルが回収した。

哀しみのノイズ…さよなら、ルールー　第17話

▲▶ルールーは、はなたちをだましてきた自分を責めながら、キュアエールと拳を交える

◀試作品のアンドロイド専用パワードスーツを装着したルールー。目的は打倒プリキュア

▲はなたちは、プログラムが上書きされクライアス社と決別したルールーを温かく迎える

▲▼パップルがルールーの不要なデータを削除。リストルが戦闘用プログラムに変える

戦闘用プログラムに変更されたルールーが3人の前に再び戻る

アンドロイドだったルールーは、はなたちとの友情の記憶を消去されて、プログラムを戦闘用に書き換えられる。再び3人の前に現れたルールーは「プリキュアを倒す」と言い、パワードスーツを装着して襲いかかる。戦闘に活用できるプリキュアのデータはそのままなので3人は大苦戦。ところが、ルールーは記憶の完全消去を拒否したので、友情の記憶と攻撃プログラムの板挟みに苦しむ。プリキュアにパワードスーツを破壊されて記憶を取り戻したルールーは、さらに激しい胸の痛みに襲われる。それは、みんなをだました自分を責める気持ち。ルールーに生まれた心だ。クライアス社と決別し、3人のもとへと戻るルールー。その一部始終を、えみるが見ていた。

でこぼこコンビ！心のメロディ！　第18話

▲記憶操作が解けたすみれは、ルールーに「復活カレー」を振る舞って「失敗しても取り戻すことができる」と教えてくれた

◀えみるは、ルールーとふたりでプリキュアを目指そうとする

▲えみるは、ギターの曲に歌詞をつけた「キミとともだち」を完成させる。一緒に歌うふたりの心があふれ出した

えみるとルールーはプリキュアを目指す心の友・親友なのです……

ルールーは、すみれの記憶を元に戻せば、自分は野乃家を追い出されると覚悟する。しかし、すみれは「たいていのことはやり直せる」と言ってルールーを受け入れてくれる。一方えみるは、ルールーがアンドロイドと知って驚くものの「一緒にプリキュアになろう」と誘う。心がない自分はプリキュアにはなれないと落ちこむルールー。えみるがギターを弾いてルールーを励まそうとしていると、街にオシマイダーが出現。裏切ったルールーを「心がない機械人形」とバカにするパップル。えみるは「心があるから私たちは親友なのです」と反論。プリキュアがオシマイダーを退けることで街に平和が戻る。えみるは、自分が作った曲をルールーと一緒に歌うのだった。

【第18話 STAFF】 脚本／坪中仁文　原画／星川信芳、増田誠治、ボビー・デラ ベーニャ、アレハンドロ ジョン・ペレン、ロメオ・アンニョヌエボ、デニス・カブラオ、ジョーイ・カランギアン、レジー・マナバット、ジュディ ゼル・バルトラソ、アイバン・ミナ、ノエル・アンニョヌエボ、ユージン・アイソン　背景／小野寺美由紀、岩谷邦子、土井裕子、村田真理恵、西田渚、李凡善、studio AR.T.ON、柳煥錫、黄琇詠、徐桂星　CGディレクター／児玉徹郎　デジタルアーティスト／たかあき、下崎由加里、明日菜、池田篤史、岩本千尋、坪川尚史、上垣健太郎、宮澤孝介、中谷純也、本間大輔、小林東　演出助手／中島啓太郎　製作進行／柿田智子、東雄太　美術／今井美紀　総作画監督／山岡直子　作画監督／フランシス・カネダ、アリス・ナリオ　演出／宮元宏彰

【第17話 STAFF】 脚本／田中仁　原画／上野ケン、北野幸広、東出太、鳥我井克美、完甘美也子、田中伸昭、冨木由美子、小原広志、伊藤哲也、杉本幸子、荒川絵里花、奥山鈴奈、飯島秀一、石川修、上久保聡美、Toei Phils.　背景／徳重賢、田中里緑、本間禎章、Toei Phils.、エルウィン・サデーア　CGディレクター／高橋友彦　デジタルアーティスト／松田範雄、宮本美貴、海老沢大生、柳竜一、陳璐、金子汐里、Darril Padua、Michael De Vera、Jeffrey Picaso、Francis Cayetano　演出助手／朝倉舞彩　製作進行／田口美月　美術／黄国威　総作画監督／宮本絵美子　作画監督／上野ケン　絵コンテ／八島善孝　演出／ひろしまひでき

【第16話 STAFF】 脚本／村山功　原画／渡邊巧大、森佳祐、大久保俊介、土上いつき、楢崎朝子、松井京介、廣中美佳、野津美智子、近響子、原田節子、矢田梓、Toei Phils.　背景／デザインオフィス・メカマン、高橋英次、石原信明、上原里香、手嶋直子、原英里佳、西田渚　CGディレクター／児玉徹郎　デジタルアーティスト／たかあき、下崎由加里、明日菜、池田篤史、岩本千尋、坪川尚史、上垣健太郎、宮澤孝介、中谷純也、本間大輔、小林東　製作進行／星野和也、巴山亨樹　美術／山口大悟郎　総作画監督／山岡直子　作画監督／渡邊巧大　絵コンテ／渡邊巧大　演出／川崎弘二

第19話 ワクワク!憧れのランウェイデビュー!?

自分の自由な心を大切にすれば女の子だってヒーローになれる

えみるとルールーの歌を聴いたアンリは、ふたりにファッションショーへの出演を誘う。ショーのタイトルは「女の子もヒーローになれる」。はなたちは、絵描きさんの衣装に変身してショーの看板を制作。ショーの直前、頭が固くて常識にとらわれている正人がえみるを連れ帰ろうとするが、はなとアンリに追い返されて正人はいら立つ。クライアス社の新幹部であるジェロスは、正人のトゲパワワでオシマイダーを発注する。オシマイダーは、アンリの「自分の心を大切にする」という信念にひるみ、プリキュアに退けられる。ショーは大成功し、えみるとルールーは「ふたりでプリキュアを目指す」と宣言。ところが、変身に必要なプリハートは、残りひとつだ。

おしごと、スイッチ・オン! 絵描きさん

◀はぐたんのお遊びをヒントに文字の周囲を花びらのように手形で囲むデザインの看板を制作

◀「自分の心に制約をかけることは人生の無駄」というアンリの言葉に正人はショック

▶アンリは、オシマイダーを通して、正人に「キミの心をもっと愛して」と語りかける

▼クライアス社の新幹部・ジェロスが正人のトゲパワワで発注したオシマイダー。右手でアンリを捕獲している

▲プリハートは、あとひとつ!?
▶えみるとルールーはふたりでプリキュアを目指すと決意する

第20話 キュアマシェリとキュアアムール!フレフレ!愛のプリキュア!

ふたりの愛の力が奇跡を招いて愛のプリキュアコンビが誕生!

はなが風邪でダウン。仲間の夢がかなうのを流れ星に願い、うっかり屋外で寝たからだ。えみるがギターを弾くことを認めた正人は、ふたり分のライブのチケットをえみるにプレゼントして、アンリにこれまでのことを謝る。えみるとルールーが開演を待つライブ会場に、パップルが発注したオシマイダーが出現。駆けつけたキュアエールを応援するえみるからミライクリスタルレッド、ルールーからミライクリスタルパープルが生まれる。さらに、ひとつのプリハートがふたつに増えるという奇跡が起こり、えみるとルールーはキュアマシェリとキュアアムールに変身。オシマイダーを退ける。ほまれ&さあやも願いをかなえたものの、はなは風邪をぶり返してしまった。

◀正人から贈られたライブチケットを手にして、えみるとルールーは笑顔で会場に行く

▲一緒にプリキュアになりたい——ふたりの願いがかなう、プリハートがふたつになった

アイテムGET! ミライクリスタルレッド

アイテムGET! ミライクリスタルパープル

▶キュアマシェリとキュアアムールは「大好き∞無限POWER」を口ずさみながら戦う!

【第20話 STAFF】 脚本/坪田文　原画/松浦仁美、増田誠治、原田節子、田中伸昭、美馬健二、山岸正和、芹田明雄、高井浩一、大久保俊介、上久保聡美、松尾俊亮、丸山匡彦、赤田信人、完甘美也子、A-Line、Toei Phils.、板岡錦、星野玲香　背景/デザインオフィス・メカマン、高橋英次、本多敬、石原信明、上原里香、志賀友香、山下千歌　CGディレクター/高橋友彦　デジタルアーティスト/松田範雄、宮本美貴、海老沢大生、鈴木知美、佐々木俊宏、冨田将也、渡部弘之、Darril Padua、Michael De Vera、Dindo Tagubasi、Narciso Tagros　演出助手/朝倉舞彩　製作進行/樋田順一　美術/山口大悟郎　総作画監督/山岡直子　作画監督/松浦仁美　絵コンテ/佐藤順一　演出/三上雅人

【第19話 STAFF】 脚本/坪田文　原画/青山充、高橋任治　背景/山下千歌、濱野英次、牟田いずみ、土居ゆりの、田中里緑、西田渚、アテネアートスタジオ、枚浦正一郎、斉藤信二、大谷正信、木下千春、赤保谷則子、山本真生、勝又アイ子、Toei Phils.、ネリット・アクーニャ　CGディレクター/高橋友彦　デジタルアーティスト/松田範雄、宮本美貴、海老沢大生、柳竜一、陳聡、金子汐里、Darril Padua、Michael De Vera、Jeffrey Picaso、Francis Cayetano　演出助手/桐山貴央　製作進行/梶原航平　美術/飯野敏典　総作画監督/宮本絵美子　作画監督/青山充　演出/角銅博之

▲ハリーは、20話でえみるがルールーにプリハートを譲ろうとした心を「プリキュアそのものや」と褒めたたえる

第21話 大暴走？ えみるがなりたいプリキュア！

やる気が空回りするえみるにはプリキュアの資格がない……!?

プリキュアになって張りきるえみるは、失敗の連続でルールーに八つ当たりしてしまう。悲しさとえみるへの怒りを覚える自分に混乱するルールーに、はな&さあやは「えみるが大好きだからこそ腹を立てている」と教える。ハリーは、落ちこんだえみるに「あんさんには十分プリキュアの資格がある」と励ます。えみるとルールーが一緒に歌って心を通わせていると、パップルが発注したオシマイダーが出現。5人の協力で退けたが、戦いに巻きこまれて、えみるのギターが壊れてしまう。えみるは代わりのメロディソードを望む。それに応えるようにはぐたんが空に向けて叫ぶと、なんと『ふたりはプリキュア』のキュアブラックとキュアホワイトが降ってきた。

▲歌はえみるとルールーの心をつなぐもの。それに欠かせないえみるのギターがオシマイダーとの戦いで壊れた

▶せがまれてもメロディソードは譲れないのだ
◀はぐたんから大空へ放たれた光から人影が!?

第22話 ふたりの愛の歌！ 届け！ ツインラブギター！

えみるとルールーが友の助けでどんなことでも言い合える仲に

キュアブラック・美墨（みすみ）なぎさとキュアホワイト・雪城（ゆきしろ）ほのかは、別の世界のプリキュア。ふたりは、壊れたギターをめぐってぎくしゃくするえみるとルールーに仲直りの方法をアドバイスする。お互いの本音をぶつけることで仲直りしたえみるとルールーは、ハートピーズのブレスレットと手作りギターを交換。そこへ、成績不振と失恋で自暴自棄になったパップルがオシマイダー化して出現。彼女を救おうとするキュアマシェリとキュアアムールの愛の心から「ミライクリスタルルージュ」と「ミライクリスタルバイオレット」が生まれ、同時に「ツインラブギター」が誕生する。そのメロディでパップルを包みこむ。戦いが終わり、なぎさ&ほのかは元の世界へ帰った。

◀ルールーは手作りギターを、えみるはハートピーズのブレスレットを互いにプレゼント

▲本音をぶつけたふたりは、互いに相手を大切に想っていることを知ることで、絆が深まった

▲左から美墨なぎさと雪城ほのか。悪の勢力「ドツクゾーン」から5つのプリズムストーンを奪還するために戦う

▼ルールーの手作りギターもおそろい。バンド活動をスタート

▼登場作品は『ふたりはプリキュア』『ふたりはプリキュア Max Heart（マックスハート）』

▲▶パップルを説得して「愛する心」を呼び覚まさせたキュアマシェリとキュアアムールに専用アイテムが誕生

【第22話 STAFF】 脚本／成田良美　原画／高橋任治、松田千織、青山充、清水隆正、矢田梓、佐々木瞳、廣中美佳、楷﨑朝子、斉藤香、完甘美也子、濱野裕一、増田誠治、佐藤友子、松尾俊亮、上久保聡美、佐藤瞬、アニタス神戸、Toei Phils.、板岡錦、上野ケン　背景／土井裕子、佐藤千恵、陳娟年、studio AR.T.ON、柳煥錫、安恩倞、李智恩　エンディング監督／宮本浩史　CGディレクター／カトウヤスヒロ　CGアニメーター／小林弘記、本岡宏紀、関祖輝、宮澤孝介、田村和弘、松井一樹、浅野絵梨香、代田邦紀　デジタルアーティスト／松浦太郎、佐藤裕記　コンポジットアーティスト／石塚恵子、新井啓介、佐々木果南、松浦義孝、杉山攝、木全俊明、佐々木真美、松田範雄　演出助手／桐山貴央　製作進行／東雄太　美術／今井美紀、李凡善、西田渚　総作画監督／山岡直子　作画監督／爲我井克美　絵コンテ／座古明史　演出／平池綾子

【第21話 STAFF】 脚本／広田光毅　原画／関暁子、池内直子、森亜弥子、細萱明良、江口茜、小林万理、加地真理子、林弘子、仲理沙、吉森直子、小川凜太郎、関谷明日香、藤田裕子、朱暁玥、諏訪昌夫、内田広之、山内大輔、木藪てん、菅原裕幸、青木香奈、糠野智加、たけだかずひさ、武元一貴、佐藤瞬、中村叶子、古谷涼香、桂木ななみ、ラインファーム、石井しずく、正田なびき　背景／本間禎章、飯野敏典、山下千歌、黄国威、牟田いずみ、濱野英次、土居ゆりの、Toei Phils.、ルーベン・オレンセ　CGディレクター／児玉徹郎　デジタルアーティスト／たかあき、下崎由加里、明日菜、池田篤史、岩本千尋、坪川尚史、上垣健太郎、宮澤孝介、中谷純也、本間大輔、小林東　製作進行／加集和人、巴山亨樹　美術／田中里緑　総作画監督／宮本絵美子　作画監督／池内直子、森亜弥子　演出／関暁子

▲仲間に倒されたダイガンは治療してくれたキュアアンジュの前で消滅

▼彼の夢は、人々が微笑みを絶やさず、花が咲き乱れる美しい「理想の王国」を作ること

第23話 最大のピンチ! プレジデント・クライあらわる!

時間を止めるクライの目的とは人々を笑顔のままにすること!?

夏休み目前。クライアス社の幹部・ダイガンが出撃するが、同僚のドクター・トラウムに倒される。プリキュアも、オシマイダーを強化させた猛オシマイダーに苦戦する。そこへ、本を手にした男性でクライアス社社長のジョージ・クライが現れる。プリキュアのミライクリスタルを奪ったクライは「人々がずっと笑顔のままでいられるように」との想いから時間を止める。停止した時間のなか、はぐたんの泣き声を聞いたはなが動き出して、キュアエールが復活。時間が再び動き出すとクライは退散し、再びミライクリスタルに力が宿ったプリキュアは猛オシマイダーを退ける。戦いの激化を予想して不安を覚えるみんなだが、前向きなはなの言葉で元気を取り戻した。

▼「新たな苦しみがなければ人々は笑顔でいられる」という理屈で時間を止めるクライ

▲ダイガンがトゲパワワで発注したのは、今まで登場したものと同じタイプのオシマイダー。トラウムは、パワーアップ型の猛オシマイダーを発注する

▶時間が停止したなかで響くはぐたんの泣き叫ぶ声がはなに届き、動けるようになった!

▼「これまでどおり楽しいことをする」というはなの前向きな言葉で、5人は元気を取り戻すのだった……

第24話 元気スプラッシュ! 魅惑のナイトプール!

みんなのアスパワワがプリキュアの力になる!

夏休みが到来。はなたちが会場をデザインしたナイトプールは大賑わい。ミライパッドで「アイドル」コスチュームに変身したえみるとルールーのライブに、みんなノリノリだ。しかし、はなはクライの恐ろしさと「頑張らなくては」という責任感の板挟みで笑顔がこわばる。そこにジェロスがタクミとジンジンと共に現れ、猛オシマイダーを発注。えみるとルールーの歌で人々にアスパワワがあふれるのを見たはなは、自分たちがみんなの未来を守るだけでなく、人々が自分たちに力をくれることに気づく。プリキュアは、みんなからもらった力で猛オシマイダーを撃退。チャラリートやダイガンと芸能事務所を設立したパップルは、えみるとルールーをスカウトした。

▲えみるとルールーは、音楽ユニット「ツインラブ」を結成して「LOVE&LOVE」を熱唱する!

◀ふたりの演奏を堪能している人々の笑顔を見たはなは、それがプリキュアの力になると知る

▲クライアス社は新体制となり、リストルに加えて新たな幹部としてジェロスとビシンが正式に着任

▲元気に振る舞うはなだが、クライの恐ろしさに震え、人々の未来を守らねばならない重責に苦しむ

▲▶プリキュアに倒された3人は「芸能事務所・前向き明日エージェンシー」を設立させていたのだ

【第24話 STAFF】 脚本／村山功　原画／和田喜彰、藤井芳徳、川島太郎、中澤あこ、遠藤香、小林静梨奈、志賀祐香、榎本勝紀、小泉寛之、片山敬介、矢田梓、佐藤瞬、郡司智一、会津五月　背景／デザインオフィス・メカマン、高橋英次、石原信明、上原里香、手嶋直子、田中里緑、山下千歌、飯野敏典　CGディレクター／高橋友彦　デジタルアーティスト／鈴木知美、佐々木俊宏、冨田将也、渡部弘之、ダリル・パドゥア、マイケル・デヴェラ、ティンド・タグバシ、ナルシーソ・タグロス、海老沢大生、宮本美貴　演出助手／朝倉舞彩　製作進行／星野和也　美術／山口大悟郎　総作画監督／山岡直子　作画監督／高橋晃　演出／畑野森生

【第23話 STAFF】 脚本／坪田文　原画／星川信芳、完甘美也子、福原恵次、田中伸昭、安田陽子、北田美弥子、野津美智子、原田節子、松井京介、松田千織、金子利恵、上久保聡美、赤田信人、寺本彰、Toei Phils.、デニス・カブラオ、飯飼一幸、矢田梓、増田誠治、藤原未来夫　背景／本間禎章、徳重賢、飯野敏典、濱野英次、土居ゆりの、Toei Phils.、エルウィン・サデーア　CGディレクター／竹野智史　デジタルアーティスト／山平拓磨、内山知亜莉、ガイ・バウテンカービー、内村翔太、石原翔太、和田浩稔、仁田原力、澤井邦男、木原中　演出助手／中島啓太郎　製作進行／田口美月　美術／黄国威　総作画監督／宮本絵美子　作画監督／赤田信人　演出／志水淳児

夏祭りと花火とハリーのヒミツ 第25話

▲浴衣に身を包んだ一行は、くじ引きや射的などをして縁日を楽しむ

首の鎖をはずされたハリーは巨大で凶暴なモンスターに変身

浴衣姿のはなたちが神社の夏祭りを満喫。はぐたんを抱いたハリーとほまれが花火の席取りのために山の頂上へ向かう。彼らの前に現れたのは、クライアス社の新幹部・ビシン。彼は、駆けつけたはなたちに、自分とハリーは未来の世界の仲間で、ハリーはクライアス社を裏切った元社員だと暴露。ビシンに首輪を壊されたハリーは巨大な獣と化す。改造手術を受けたハリーの本当の姿だ。キュアエトワールの呼びかけでハリーのなかでアスパワワとトゲパワワがぶつかり合う。プリキュアに退けられて元の姿に戻ったハリーがクライアス社と戦う意志を告げると、ビシンは「また来る」と言い残して去る。笑顔が戻ったハリーたちを祝うように花火が打ち上がった。

◀ビシンは未来の世界でのハリーの仲間。制御装置の首の鎖を壊されたハリーは怪物に変身!

▲キュアエトワールが差し出した手にやさしく触れるハリー。心の奥は怪物化していないのだ

大女優に密着! さあやとおかあさん 第26話

▶さあやの母のドラマにゲスト出演する蘭世。食材のねぎを店に持ちこむ農家のねぎ娘役だ

◀撮影所の人々から昔の母の話を聞いたさあやに幼い日の母とのなつかしい思い出が蘇る

◀母に共演の夢を伝えるさあや。だが、女優になりたいのかは、まだわからない

幼い日に抱いた、さあやの夢は「TVの向こう側」へ行くこと

CMで人気者になったさあやは、母で女優のれいらがどう思うのかを尋ねることを決意。はなたちと一緒にドラマの撮影所を訪れたさあやに、れいらは「女優だけがさあやの道ではない」と答える。母の真意をつかみかねるさあやに、撮影所の人々は「子育ても撮影も頑張るれいらを助けるため、赤ん坊のさあやを世話した」とアドバイスする。不器用な母が頑張る姿を思い出すさあやの胸に「母がいるTVの向こう側へ行きたかった夢」が蘇る。ジェロスが猛オシマイダーを発注するが、キュアアンジュが動きを止めてキュアマシェリとキュアアムールが撃退。さあやはれいらに「いつか共演したい」という今の夢を伝え、母がいる高みへ絶対に登ってみせると誓った。

先生のパパ修行! こんにちは、あかちゃん! 第27話

▶◀内富士先生の父親になる修行に乗じて、チャラリートとハリーのモテ男対決が勃発!?

▲命が生まれる瞬間に立ち会ったさあやのなかにも、新たな夢が生まれた

▲父親の覚悟とは、赤ちゃんのために、どんな苦労もいとわずに立ち向かう勇気と根性だ

▲「親の気持ちが少しわかる」というトラウムは、ルールーと一緒に写った写真を持っている

赤ちゃんを産むお母さんは大変 お父さんになる新米パパも大変

奥さんの出産予定日が迫る内富士先生は、父親になる覚悟を学ぶために、森太郎のもとで修行する。森太郎は「HUGMAN」で内富士先生に荷物運びや掃除、接客を体験させる。それは内富士先生自身に「赤ちゃんのためならばなんでもできる」と覚悟させるため。そのうえで「何をすればいいのかは赤ちゃんが教えてくれる」とアドバイス。奥さんの陣痛が始まり、産婦人科病院で無事に赤ちゃんが誕生。そこにトラウムが現れて猛オシマイダーを発注。だが、赤ちゃんを気遣うキュアアンジュに「大きな音を立てないで!」と注意され、猛オシマイダーはペースをくずされたままプリキュアに退けられる。はなは、3人になった内富士先生一家を応援するのだった。

【第25話 STAFF】 脚本/田中仁 原画/青山充、山岸正和 背景/studio AR.T.ON、柳煥錫、黃琇詠、徐柱星、崔有眞、高智榮、朴吉用、安恩倧、李智恩、牟田いずみ、西田渚 CGディレクター/竹野智史 デジタルアーティスト/山平拓磨、内山知亜莉、ガイ・バウテンカービー、内村翔太、石原翔太、和田浩稔、仁田原力、澤井邦男、木原中、宮澤孝介 演出助手/桐山貴央 製作進行/梶原航平 美術/李凡善 総作画監督/宮本絵美子 作画監督/青山充 演出/角銅博之

【第26話 STAFF】 脚本/成田良美 原画/美馬健二、田中伸昭、星川信芳、完甘美也子、野津美智子、清水隆正、小林陽奈、芹田明雄、北田美弥子、楢崎朝子、斉藤玲子、冨木由美子、Toei Phils. 背景/牟田いずみ、本間禎章、田中里緑、山下千歌、黄国威、濱野英次、土居ゆりの、Toei Phils.、ネリット・アクーニャ CGディレクター/高橋友彦 デジタルアーティスト/鈴木知美、佐々木俊宏、冨田将也、渡部弘之、ダリル・パドゥア、マイケル・デヴェラ、ディンド・タグバシ、ナルシーソ・タグロス、海老沢大生、宮本美貴 演出助手/中島啓太郎 製作進行/樋田順一 美術/飯野敏典 総作画監督/山岡直子 作画監督/美馬健二 演出/田中裕太

【第27話 STAFF】 脚本/広田光毅 原画/ジョーイ・カランギアン、ジュディ ゼル・バルトラソ、チャールズ ジョセフ・ヴィラヌエバ、デニス・カブラオ、ロメオ・アンニョンヌエボ、アレン・ジェラルディーノ、ユージン・アイソン、アルフレッド・レイエス、レスティ・ロケ、レム・バレンシア 背景/岩谷邦子、土井裕子、小野寺美由紀、飯野敏典、西田渚 CGディレクター/竹野智史 デジタルアーティスト/山平拓磨、内山知亜莉、ガイ・バウテンカービー、内村翔太、石原翔太、和田浩稔、仁田原力、澤井邦男、木原中、宮澤孝介 演出助手/村上漢 製作進行/東雄太 美術/今井美紀 総作画監督/宮本絵美子 作画監督/フランシス・カネダ、アリス・ナリオ 演出/川崎弘二

◀もぐもぐを憧れのりりーに会わせてあげたいほまれたちは、厳しい特訓で彼を鍛える！

第28話 あのコのハートをキャッチ♡フレフレ！もぐもぐ！

もぐもぐがにゃんこにひと目ぼれ♡好きな気持ちは種族を超える!?

もぐもぐが、ペットフードのCMに出てくる猫・りりーにひと目ぼれ。オーディションに優勝すればりりーと共演できると知り、はなたちはもぐもぐを特訓。ルールーは「種族が違う犬と猫の恋はかなわない」と、種族の違いを自分と人間に置き換えてさびしくなる。だが、えみるの「好きな気持ちに種族の違いはない」という言葉に励まされる。オーディション当日。ビシンの猛オシマイダーが出現して、もぐもぐは怯えるが、勇気を出して取り残された少女を救う。プリキュアが猛オシマイダーを退けるものの、オーディションは中止となる。もぐもぐが助けた少女はりりーの家族だった。りりーはもぐもぐに感謝のキスを贈り、ルールーはえみるを抱きしめた。

▶種族の違いを悲しむルールー。えみるは「歌の想いに種族は無関係」と励ます

▲りりーは、家族の女の子を救ってくれたもぐもぐに感謝の熱いキスをプレゼント！　もぐもぐの恋は成就した!?

おしごとスイッチ・オン！ アイドル

▶CMオーディションの前座として「ツインラブ」が「LOVE&LOVE」を熱唱した

第29話 ここで決めるよ！おばあちゃんの気合のレシピ！

亡きおじいちゃんとの思い出の味 たんぽぽ堂名菓「希望まんじゅう」

はなは、夫に先立たれた祖母・庵野たんぽぽが営む和菓子店「たんぽぽ堂」へみんなを連れていく。常連客のヨネさんは味が落ちたと嘆くが、それはたんぽぽ自身もわかっている。腰を痛めたたんぽぽが入院。はなはヨネさんから聞いた、かつて店で売っていた「希望まんじゅう」を祖父のレシピをもとに再現。差し入れに涙するたんぽぽは「夫との思い出の味を落としたくないので作れなかった」と語る。ジェロスが発注した猛オシマイダーの攻撃をたんぽぽが巨大なへらで打ち返して店を守り、プリキュアが撃退。たんぽぽは希望まんじゅうで昔の店の味を取り戻し、ヨネさんは力仕事を買って出る。はなは祖母のようなイケてるおばあちゃんになりたいと思った。

▶常連客である精米店のヨネさんは、たんぽぽが作る和菓子の味が落ちていることを心配

▼ひとりで和菓子店を営むたんぽぽおばあちゃん。重労働がたたって、腰痛で入院してしまう

◀▲はなたちが作った希望まんじゅうは、入院で気落ちするたんぽぽに、希望と元気を与えたのだ

第30話 世界一周へGOGO！みんなの夏休み！

世界一周旅行の最後を飾るのは「天狗伝説」が残る日本の温泉

夏休み終盤。はなたちは、愛崎家の自家用飛行機で世界旅行へ出発。ことりも一緒だ。各地で「キュアスタ」映えする写真を撮って思い出作りをするはなたち。旅の締めくくりは「天狗が入浴した」という伝説がある温泉宿・天狗館。えみるとルールーの「タンバリンダンス」で盛り上がっているところへトラウムが現れる。猛オシマイダーの攻撃でプリキュアが大ピンチ。「時間が止まれば楽しい時間が永遠に続く」とうそぶくトラウムに対して、キュアマシェリとキュアアムールが「私たちの夏休みは思い出として永遠に心のなかにある」と反論。突然に巻き起こる風に飛ばされた猛オシマイダーをプリキュアが退ける。風を起こしたのは天狗だったのかもしれない。

▲「愛崎家プライベートジェットでめぐる世界7都市の旅」へテイクオフ

おしごとスイッチ・オン！ ダンサー

▲CAとなった5人は、ことりとハリーへの機内食サービスの質を競う！

おしごとスイッチ・オン！ CA（キャビンアテンダント）

◀旅の最後は熱海の温泉。クライアス社ではウソの理由で温泉出張を止められていたルールーの希望だった

▲ギターがないので「LOVE&LOVE」の曲に合わせて「タンバリンダンス」を披露した

【第30話 STAFF】 脚本／村山功　原画／関暁子、森亜弥子、細萱明良、江口薔、加地真理子、仲理沙、小川瀧太郎、岡村康平、藤田裕子、関谷明日香、朱暁玥、諏訪昌夫、内田広之、木藪てん、谷口健太、油布京子、北田久登、近響子、菅原裕幸、青木香奈、糠野智加、たけだかずひさ、武元一貴、伊藤篤志、高波祐太、曽根亜矢子、中村叶子、池内直子、小林万理、Revival　背景／studio AR.T.ON、柳煥錫、黃琇詠、徐桂星、崔有眞、高智榮、朴吉用、安恩倧、李智恩、西田渚　CGディレクター／高橋友彦　デジタルアーティスト／鈴木知美、佐々木俊宏、冨田将也、渡部弘之、ダリル・バドゥア、マイケル・デヴェラ、ディンド・タグバシ、ナルシーソ・タグロス、海老沢大生、宮本美貴　演出助手／加集和人、巴山亨樹　美術／李凡善、総作画監督／山岡直子、作画監督／池内直子、森亜弥子、小川一郎　演出／関暁子

【第29話 STAFF】 脚本／有賀ひかる　原画／上野ケン、高橋任治、青山充、佐々木瞳、松田千織、安田陽子、鈴木沙知、加宮四楼、増田誠治、完甘美也子、野津美智子、Toei Phils.、ロメオ・アンニョンヌエボ、アイバン・ミナ、アルフレッド・レイエス、アレン・ジェラルディーノ　背景／本間禎章、飯野敏典、今井美紀、山下千歌、土井裕子、佐藤千恵、濱野英次、土居ゆりの、西田渚、Toei Phils.、エルウィン・サデーア　CGディレクター／竹野智史　デジタルアーティスト／山平拓磨、内山知亜莉、ガイ・バウテンカービー、内村翔太、石原翔太、和田浩稔、仁田原力、澤井邦男、木原中、宮澤孝介　演出助手／田中雅史　製作進行／星野和也　美術／田中里緑　総作画監督／宮本絵美子　作画監督／上野ケン　演出／平池綾子

【第28話 STAFF】 脚本／井上亜樹子　原画／星川信芳、福原恵次、郡司智一、本吉悟、廣中美佳、斉藤玲子、大久保俊介、原田節子、大内智美、上久保聡美、北野幸広、石川修、Toei Phils.、籔本陽輔　背景／デザインオフィス・メカマン、高橋英次、石原信明、上原里香、黄国威、山下千歌、Toei Phils.、ルーベン・オレンセ　CGディレクター／高橋友彦　デジタルアーティスト／鈴木知美、佐々木俊宏、冨田将也、渡部弘之、ダリル・バドゥア、マイケル・デヴェラ、ディンド・タグバシ、ナルシーソ・タグロス、海老沢大生、宮本美貴　演出助手／朝倉舞彩、山村のどか　製作進行／田口美月　美術／山口大悟郎　総作画監督／山岡直子　作画監督／なまためやすひろ　絵コンテ／村上貴之　演出／ひろしまひでき

◀はなは、前の学校では右目を隠したヘアスタイル。周囲から孤立して転校したのだった

時よ、すすめ！メモリアルキュアクロック誕生！

メモリアルキュアクロックでチアフルスタイルへチェンジ！

2学期が始まり、はなが前に通っていた学校の友達・エリが現れる。はなはエリをかばい、孤立して転校した。エリははなに謝れなかったことを後悔し、はなは自分の行動でエリに嫌われたと思っている。さあやたちの歌の応援で勇気をもらったはなはエリとまた友達になる。ジェロスの部下のジンジンとタクミが新しいメカを勝手に持ち出して、みんなの時間を停止するが、メカが暴走してジンジンとタクミが怪物化。仲間のおかげで自分の時間を進められたキュアエールが得たミライクリスタルチアフルにより「メモリアルキュアクロック」が誕生する。プリキュアはチアフルスタイルになり、「プリキュア・チアフル・アタック！」でジンジンとタクミを包んだ。

◀チアリーディング部の発表会のメイク役を買って出たはなは、再びエリと友達になれた

▲◀融合したジンジンとタクミ。ジェロスは「仲間なら最後くらい私の役に立て」と切り捨てる

▲▶ジンジンとタクミが勝手に持ち出したのは、光を浴びた者の時間を止めてしまう新メカだ

▶ミライクリスタルチアフルを装着したミライパッドがメモリアルキュアクロックになり、さらなる変身を遂げた

これって魔法？ ほまれは人魚のプリンセス！

深層心理を映し出すVR空間にハリーの一番大切な女性が登場

ハリーがクライアス社に戻らない理由を知りたいビシンは、トラウムの発明品の「深層心理をVR空間に変える装置」を試す。猛オシマイダーのなかにハリーを捕らえる計画だが、一緒にキュアエトワールも入ってしまう。VR空間は、ほまれが直前に読んだ絵本『人魚姫(にんぎょひめ)』の世界。彼女が人魚姫でハリーが王子。ふたりの前に、ハリーが一番大切に思う人物が現れる。ベールで顔は見えないが、女性だ。ビシンは自分がハリーの一番大切な相手ではないことにショックを受け、ほまれも失恋した人魚姫のように泡になりかける。キュアエールの呼びかけでキュアエトワールが目覚め、ハリーを抱えてVR空間から脱出。ほまれは、ハリーへの想いを胸に秘めておくことにした。

▶◀フィギュアスケートの参考に『人魚姫』を読んだほまれ。VR空間で人魚姫に変身!?

▲▶舞踏会でほまれがハリーへの想いを口にしようとしたとき、ハリーの想い人が現れた

▲VR空間を脱出したキュアエトワール。ハリーへの想いを胸の奥にしまい込んだ

【第32話 STAFF】 脚本／田中仁　原画／和田喜彰、藤井芳徳、川島太郎、中澤あこ、遠藤香、小林静梨奈、志賀祐香、榎本勝紀　背景／デザインオフィス・メカマン、高橋英次、石原信明、上原里香、田中里緑、佐藤美幸、陳炯年、いいだりえ、山下千歌、鈴木祥太、西田渚、Toei Phils.、ルーベン・オレンセ　CGディレクター／竹野智史　デジタルアーティスト／山平拓磨、内山知亜莉、ガイ・バウテンカービー、内村翔太、石原翔太、和田浩稔、仁田原力、澤井邦男、木原中、宮澤孝介　演出助手／朝倉舞彩、山村のどか　製作進行／樋田順一　美術／山口大悟郎　総作画監督／山岡直子　作画監督／高橋晃　絵コンテ／村上貴之　演出／三上雅人

【第31話 STAFF】 脚本／坪田文　原画／青山充、松田千織、丸山匡彦、矢田梓、清水隆正、会津五月、芹田明雄、完甘美也子、福原惠次、北田美弥子、野津美智子、田中沙希、田中伸昭、加宮四楼、上久保聡美、鈴木沙知、近響子、郡司智一、Toei Phils.、レジー・マナバット、ロメオ・アンニョンヌエボ、アルフレッド・レイエス、アニタス神戸、濱野裕一　背景／本間禎章、徳重賢、山下千歌、土居ゆりの、濱野英次、Toei Phils.、ネリット・アクーニャ　CGディレクター／高橋友彦　デジタルアーティスト／町田政彌、竹内恒雄、ダリル・パドゥア、マイケル・デヴェラ、ティンド・タグバシ、ナルシーソ・タグロス、海老沢大生、宮本美貴　演出助手／中島啓太郎　製作進行／梶原航平　美術／黄国威　総作画監督／宮本絵美子　作画監督／板岡錦　演出／角銅博之

▲ルールーの首のチョーカーを直すアンリの姿を、熱愛シーンにでっち上げる!?

▲「ツインラブ」にアンリの取材の仕事が入るが、えみるは緊張。はなたちがバトンタッチする

◀停止した音楽の代わりに「ツインラブ」の演奏と観客の手拍子がアンリをバックアップ

◀▲リストルがアンリを勧誘するのは、彼が心の奥で「時間を止めたい」と想っているから!?

第33話 要注意! クライアス社の採用活動!?

クライアス社のリストルが勧誘 アンリの明日は明るくない!?

えみるとルールーのユニット「ツインラブ」の人気が高まるが、歌を批判する意見もあり、えみるは悩む。刺激的な映像を求める取材ディレクターがアンリとルールーの熱愛をでっち上げようとする。心が乱れたアンリをリストルがスカウト。それを聞いていたえみるの必死の説得と悩みの告白でアンリは心が安らぎ、えみるも元気になった。アイスショーの途中で音楽がストップするトラブルを「ツインラブ」の生演奏とのコラボで乗りきるアンリ。リストルが発注する猛オシマイダーに連れ去られたアンリはリストルのスカウトを断る。プリキュアが猛オシマイダーを退けて、アンリには笑顔が戻ったが、クライはアンリが深刻な問題を抱えていることを知っていた。

第34話 名探偵ことり! お姉ちゃんを調査せよ!

▶ことりと、キュアエールFC(ファンクラブ)会長の千瀬ふみと◀吹奏楽部の阿万野ひなせは、はなに好意的

▶◀キュアエールがことりに言った「どこにいても助けるから」は、はなが前に言った言葉

▼「お姉ちゃんはもしかして……」と思いつつ、今は詮索せず、はなと一緒に眠ることり

▲プリキュアを苦しめるジェロスに直接立ち向かうことりたちからアスパワワがあふれ出す!

ドジだけど誰かのために頑張るお姉ちゃんのようになりたい!

ことりは「はなはプリキュアに迷惑をかけているのでは?」と疑い、お詫びをするため、はなの同級生の千瀬ふみとや阿万野ひなせと共にキュアエールを探し回る。「プリキュアのようなかっこいい姉が欲しかった」と嘆くことりは、ひなせの「誰かのために頑張るはなは素敵」という言葉を聞いてうれしくなる。そこへ、追いつめられてパンク風にイメチェンしたジェロスが発注した猛オシマイダーが出現。苦戦するプリキュア。だが「かっこいいお姉ちゃんみたいになりたい」と願うことりたちからアスパワワが生まれ、元気づけられたプリキュアは猛オシマイダーを退ける。ことりは、今はキュアエールの正体を確かめないままにして、はなと一緒に眠るのだった。

おしごとスイッチ・オン! お医者さん

▶医者の仕事にチャレンジする5人。病気やケガで入院している患者との触れ合いは大変

▼愛情や想いが新たな命へ伝わること、それに携わる医者という仕事のすばらしさを実感するさあや

▲▼トラウムは、咆吼やドリルの音が静かなタイプの猛オシマイダー(騒音対策仕様)を用意

▶「弟なんかいらない!」と泣きじゃくるあやを、さあやは「我慢しなくていい」と心やさしく励ます

第35話 命の輝き! さあやはお医者さん?

病院での研修で医者の役作り 演技のつもりが本気になった!?

さあやは、次回作の医者の役作りのため、内冨士先生の赤ちゃんが生まれた病院で研修させてもらう。はなたちも一緒だ。さあやは、妊婦の疑似体験などを通して、命の尊さや母親の偉大さ、それを守る医者の大切さを学ぶ。そんななか、さあやは、母親の帝王切開手術を控える少女・川上あやと出会う。あやは、生まれてくる弟に大好きな母親を奪われると思いこみ、さびしさを我慢していた。さあやの励ましで母親に素直な気持ちを伝えるあや。それが帝王切開手術に臨む母親を勇気づける。そこに現れたトラウムの猛オシマイダー(騒音対策仕様)をキュアアンジュたちが撃退。無事に弟が生まれて喜ぶあやの笑顔を目にしたさあやは、医者を素敵な仕事だと思った。

【第35話 STAFF】 脚本/広田光毅 原画/星川信芳、松田千織、藤原未来夫、星野玲香、完甘美也子、廣中美佳、田中伸昭、安田陽子、近響子、冨士池圭恵、高橋任治、三木達也、永島英樹、増田誠治、Toei Phils. 背景/studio AR.T.ON、柳煥錫、黃琇詠、徐柱星、崔有眞、高智榮、朴吉用、安恩倧、李智恩 CGディレクター/髙橋友彦 デジタルアーティスト/町田政彌、竹内恒雄、ダリル・パドゥア、マイケル・デヴェラ、ティンド・タグバシ、ナルシーソ・タグロス、海老沢大生、宮本美貴 演出助手/朝倉舞彩 製作進行/星野和也 美術/李凡善 総作画監督/宮本絵美子 作画監督/美馬健二 演出/畑野森生

【第34話 STAFF】 脚本/有賀ひかる 原画/完甘美也子、星川信芳、清水隆正、福原恵次、田中伸昭、柴田知波、松田千織、上久保聡美、増田誠治、赤田信人、Toei Phils. 背景/本間禎章、黄国威、濱野英次、土居ゆりの、牟田いずみ、Toei Phils.、エルウィン・サデーア CGディレクター/竹野智史 デジタルアーティスト/山平拓磨、内山知亜莉、ガイ・バウデンカービー、内村翔太、石原翔太、和田浩稔、仁田原力、澤井邦男、木原中、宮澤孝介 演出助手/田中雅史 製作進行/田口美月 美術/飯野敏典 総作画監督/山岡直子 作画監督/赤田信人 演出/志水淳児

【第33話 STAFF】 脚本/坪田文 原画/松浦仁美、原田節子、郡司智一、廣中美佳、本吉悟、斉藤玲子、北田美弥子、楢崎朝子、大久保俊介、上久保聡美、平林孝、小澤誠、野津美智子、服部益実、山岡直子、Toei Phils. 背景/佐藤千恵、土井裕子、岩谷邦子、小野寺美由紀 CGディレクター/髙橋友彦 デジタルアーティスト/町田政彌、竹内恒雄、ダリル・パドゥア、マイケル・デヴェラ、ティンド・タグバシ、ナルシーソ・タグロス、海老沢大生、宮本美貴 演出助手/村上漢 製作進行/東雄太 美術/今井美紀 総作画監督/宮本絵美子 作画監督/松浦仁美 演出/鎌谷悠

フレフレ！伝説のプリキュア大集合!!

第36話

時間を止められたほかの世界のプリキュアがやってきた……！

時間を操る装置を完成させたトラウムは、歴代プリキュアの世界の時間までも止めてしまう。『キラキラ☆プリキュアアラモード』の妖精たちが暮らすいちご山と『魔法つかいプリキュア！』の魔法界の時が止められて、逃れてきたプリキュアがはなたちと合流する。彼女たちは2組に分かれ、ほかのプリキュアを探す。ほまれたちは『フレッシュプリキュア！』の桃園ラブ、はなたちは『Yes！プリキュア5』の夢原のぞみと出会う。そこへ現れたオシマイダーにより、さらに各地の時間が停止。動けるのは攻撃をしのいだプリキュアだけだ。トラウムは「残されたプリキュアはおまえたちだけだ」と勝ち誇る。しかし、時間停止を免れたプリキュアはほかにもいた。

▲『キラキラ☆プリキュアアラモード』の伝説のパティシエ・プリキュアの６人。スイーツに宿る「キラキラル」を奪おうとする闇の存在・ノワールとしもべたちを相手に戦った

▶宇佐美いちか（キュアホイップ）とスイーツショップ「キラキラパティスリー」の仲間が空から落ちてきた

▲左から、朝日奈みらい（キュアミラクル）、花海ことは（キュアフェリーチェ）、十六夜リコ（キュアマジカル）。『魔法つかいプリキュア！』の３人

▲◀『魔法つかいプリキュア！』のプリキュアは、人間界（ナシマホウ界）と魔法界のふたつの世界を舞台に、闇の魔法つかい（ドクロクシー）や終わりなき混沌（デウスマスト）と戦った

▲時間を操作できるパワードスーツ。時間を戻しすぎて組み立て前のバラバラな状態に!?

▲『Yes！プリキュア5』『Yes！プリキュア5GoGo!』の敵役だったブンビーが現れた

▶◀2組に分かれてほかのプリキュアを探す一同。ルールーたちは空を、はなたちは陸を行く

◀『Yes！プリキュア５』『Yes！プリキュア５GoGo！』のひとり。パルミエ王国を滅ぼした悪の集団「ナイトメア」、価値あるものを保護（強奪）する謎の組織「エターナル」と戦った

キュアドリーム
（声／三瓶由布子）

◀『フレッシュプリキュア！』の伝説の戦士４人のひとり。パラレルワールド（並行世界）のスウィーツ王国からの要請で、総統メビウスが統治している管理国家「ラビリンス」と戦った

キュアピーチ
（声／沖佳苗）

▲以前にプリキュアが退けたオシマイダーが再び登場。攻撃すると周辺の時間が停止する

◀▲歴代のプリキュアのみんなも時を止められてしまう

【第36話 STAFF】 脚本／村山功　原画／アイバン・ミーナ、アレン・ジェラルディーノ、シーザー・デ レオン、ロメオ・アンニョンヌエボ、フリッツ・ウラング、レジー・マナバット、ノエル・アンニョンヌエボ、フランクリン・タマング、レム・バレンシア、アーノルド ジョセフ・デルモンテ、ジョーイ・カランギアン、エド マーチン・クリストモ　背景／デザインオフィス・メカマン、高橋英次、本多敬、石原信明、上原里香、飯野敏典、山下千歌、陳炯年、西田渚　エンディング監督／宮本浩史　CGディレクター／カトウヤスヒロ　CGアニメーター／小林弘記、本岡宏紀、関祖輝、宮澤孝介、田村和弘、松井一樹、浅野絵梨香、代田邦紀　デジタルアーティスト／松浦太郎、佐藤裕記　コンポジットアーティスト／石塚恵子、新井啓介、佐々木果南、松浦義孝、杉山廉、木全俊明、佐々木真美、松田範雄　演出助手／中島啓太郎　製作進行／梶原航平　美術／山口大悟郎　総作画監督／山岡直子、宮本絵美子　作画監督／アリス・ナリオ、フランシス・カネダ　絵コンテ／村上貴之　演出／ひろしまひでき

◀▲トラウムのパワードスーツが暴走して、トラウムが巨大なオシマイダーと化す。プリキュアをサポートする妖精たちもビックリ！

トラウムの暴走を止めるために プリキュアオールスターズが集結

トラウムのパワードスーツは、攻撃を受けても時間を戻して元どおりになる手強い相手。別の場所にいたキュアエトワールたちと合流し、チアフルスタイルに変身したキュアエールたちが反撃。時間を操る装置を破壊されたトラウムは暴走してしまう。世界中のアスパワワがトゲパワワに変換され、無数のオシマイダーと猛オシマイダーが出現。ほかの世界のプリキュアのみんなが駆けつけて、プリキュアオールスターズが勢ぞろいする。トラウムは地球より巨大化。だが、決してあきらめないキュアエールたちの手に「ミライブレス」が誕生。プリキュアのみんなの想いを込めた「プリキュア・オール・フォー・ユー！」でトラウムを退けると、再び時間が動き出した。

▲シャイニールミナスは『ふたりはプリキュア Max Heart』に登場した3人目の戦士。闇の力と戦いながら「光の園」のクイーンを復活させるために、12のハーティエルを集めた

キュアトゥインクル (声／山村響)
キュアマーメイド (声／浅野真澄)
キュアスカーレット (声／沢城みゆき)
キュアフローラ (声／嶋村侑)

◀▲『Go！プリンセスプリキュア』の4人。大魔女ディスピア率いる「ディスダーク」が支配する「ホープキングダム」の解放と、究極のプリンセス「グランプリンセス」を目指した

▲『スマイルプリキュア！』の5人。おとぎ話の悪役が集まる「バッドエンド王国」に襲われる絵本の国「メルヘンランド」を救うため、幸せの力の源「キュアデコル」を回収した

▲『ドキドキ！プリキュア』の5人。地球とは別の世界のトランプ王国を滅ぼした闇の勢力「ジコチュー」が地球へ侵攻。5人は地球の大貝町とトランプ王国の平和のために戦った

▲『ハピネスチャージプリキュア！』の4人。地球はクイーンミラージュ率いる「幻影帝国」に侵略され、それに立ち向かう世界各地のプリキュアは少女の憧れの存在になっていた

▲『ふたりはプリキュア Splash☆Star』。世界と生命を滅ぼそうとする「アクダイカーン」率いる「ダークフォール」と戦い、妖精の故郷「泉の郷」の「7つの泉」を取り戻した

▲『ハートキャッチプリキュア！』の「こころの大樹」の妖精に選ばれた4人。「こころの大樹」と「こころの花」を枯らして地球と人間の砂漠化を企てる「砂漠の使徒」に立ち向かった

▲『スイートプリキュア♪』の4人。人間の世界とは別の世界にある音楽の国同士の「伝説の楽譜」をめぐる争いで人間の世界にばらまかれた「音符」を取り戻す戦いを繰り広げた

▲5人のミライブレスからあふれるアスパワワと、歴代プリキュア、そして妖精やプリキュアに関わったみんなの想いも合わさって、地球より大きくなったトラウムを包みこんだ

▶5人が友情の証としてハートアクセメーカーで作った「ハートビーズのブレスレット」が変形した

▶右の5人はキュアドリームの仲間。ミルキィローズだけは『Yes！プリキュア5GoGo！』で途中加入したプリキュア。左の3人は『フレッシュプリキュア！』のキュアピーチの仲間だ

【第37話 STAFF】 脚本／村山功　原画／青山充、板岡錦、藤原舞　背景／本間禎章、黄国威、西田渚、山下千歌、飯野敏典、陳娟年、土居ゆりの、濱野英次、Toei Phils.、ネリット・アクーニャ　エンディング監督／宮本浩史　CGディレクター／カトウヤスヒロ　CGアニメーター／小林弘記、本岡宏紀、関祖輝、宮澤孝介、田村和弘、松井一樹、浅野絵梨香、代田邦紀　デジタルアーティスト／松浦太郎、佐藤裕記　コンポジットアーティスト／石塚恵子、新井啓介、佐々木果南、松浦義孝、杉山嶺、木全俊明、佐々木真美、松田範雄　演出助手／山村のどか　製作進行／樋田順一　美術／田中里緑　総作画監督／宮本絵美子　作画監督／青山充　演出／田中裕太

第38話 幸せチャージ！ハッピーハロウィン！

ハロウィンは「会えなくなった人に会えるかもしれない日」

ハロウィンのイベント用の仮装作りに励むはなたち。未来ではすたれた風習なので、ルールーとハリーは初体験である。「会えなくなった人に会えるかもしれない日」と教えられたハリーは切なげな表情を浮かべる。同じころ、移動販売車でイベント用の菓子作りに苦労するダイガンにリストルが復職を勧めていた。ハロウィン当日。ダイガンが猛オシマイダーを発注してイベント会場は大混乱するが、はなたちがプリキュアショーを装って猛オシマイダーを退ける。パップルは、ダイガンが作った菓子は子どもに人気として彼を励ます。時が止まった未来を想うハリーは元気がない。ハリーには、プリキュアに仮装したはぐたんの姿に、ある女性の幻が重なって見えた……。

◀リストルは「特別室長のポジションを与える」という甘い言葉でダイガンを誘うが……

▶みんなで作ったハロウィンの仮装コスチュームを何着も着替えさせられて疲れたのか、はぐたんはおかんむり!?

▲はぐたんに重なって見える女性は、32話のVR世界でハリーと共にダンスした人物に似ている

第39話 明日のために…！みんなでトゥモロー！

ハリーの故郷だったはぐくみ市 はなたちの町の時間が止まる!?

はなたちが未来のハリーたちの故郷である「ハリハリ地区」へ飛ばされる。ハリーは、クライアス社に協力したのに故郷が業火に包まれた悲劇を思い出す。彼らの前に現れたリストルは、時が止まったそこは「未来のはぐくみ市」であることを明かして猛オシマイダーを繰り出す。未来と奇跡を信じるようになったハリーの想いを受けとめたプリキュアは、猛オシマイダーを撃退。「未来は愛おしいもの」というキュアエールの言葉を受けて神々しいマザーが現れる。ミライクリスタルマザーハートが生まれて、新たなスタイルへ変身したプリキュアはリストルを退ける。マザーが発する温かな光のなかで、キュアエールは見知らぬ女性に「未来を救って」とお願いされた。

▲強大な力に逆らうのは無意味とするリストルはハリーにミライクリスタルホワイトの譲渡を迫る

▲クライアス社に協力する以前のハリー、リストル、ビシンの故郷だった「ハリハリ地区」は焼失したのだった

▶ミライクリスタルホワイトが輝き、のびのびタワーを見下ろすほど巨大なマザーが蘇る

▲マザーが放つ、やさしくて温かい光を浴びたミライクリスタルホワイトが進化したもの

◀チアフルスタイルをベースとして、5人の背には虹色に輝く妖精のような羽が追加された

◀▲マザーが蘇ったことをなぜか喜ぶクライ。彼につかみかかったリストルは、うめくように「おまえが……憎い」と言うと倒れこむ

◀▶マザーの温かい光に包まれたキュアエールは、プリキュアのような見た目の女性と会話を交わす

【第39話 STAFF】 脚本／坪田文　原画／和田喜彰、藤井芳徳、川島太郎、中澤あこ、遠藤香、小林静梨奈、志賀祐香、榎本勝紀、濱野裕一、丸山匡彦、小泉寛之、松田千織、完甘美也子　背景／飯野敏典、本間禎章、徳重賢、濱野英次、土居ゆりの、西田渚、Toei Phils.、ルーベン・オレンセ、ディノ・サントス　CGディレクター／高橋友彦　デジタルアーティスト／町田政彌、竹内恒雄、ダリル・パドゥア、マイケル・デヴェラ、ディンド・タグバシ、ナルシーソ・タグロス、ニコ・サベロン、キム・バンテ、ジェトロ・サイソン、海老沢大生　演出助手／村上漢　製作進行／田口美月　美術／黄国威　総作画監督／宮本絵美子　作画監督／高橋晃　絵コンテ／座古明史　演出／川崎弘二

【第38話 STAFF】 脚本／横手美智子　原画／星川信芳、佐々木瞳、田中夕梨子、北田美弥子、鰐渕和彦、高山さくら、松田千織、佐藤友子、上野ケン、原田節子、矢田梓、小澤誠、大久保俊介、Toei Phils.、アイバン・ミーナ、ジョーイ・カランギアン、ジュディ・ゼル・バルトラソ　背景／ビック・スタジオ、春菜恭子、北畠太郎、関根悠姫、永原かれん、田中愛、大西穣、岩谷邦子、小野寺美由紀、土井裕子、佐藤千恵、門口亜矢、佐藤美幸、西田渚　CGディレクター／竹野智史　デジタルアーティスト／山平拓磨、内山知亜莉、ガイ・バウテンカービー、内村翔太、石原翔太、和田浩稔、仁田原力、澤井邦男、木原中、宮澤孝介　製作進行／東雄太　美術／今井美紀　総作画監督／山岡直子　作画監督／上野ケン　演出／平池綾子

第40話 ルールーのパパ!? アムール、それは…

◀トラウムがはなたちを未来へ飛ばしたのは、クライを倒す力があるのかを試すためだった

◀ハリーに彼の怪物化を抑える首の鎖をつけてくれたのは、キュアトゥモローだったのだ

▼▶はぐたんの正体は、未来のキュアトゥモロー。未来のキュアトゥモローは、ハリーと共に未来から現在へ時を越えてやってくるときにアスパワワを使い果たし、赤ちゃんの姿に戻ってしまったのだった

はぐたんの正体はマザーの力を秘めたキュアトゥモローだった

みんなを未来へ飛ばしたのは、トラウム。彼は、無事に戻ってきたはなたちを信頼し、未来で起きた悲劇を語る。未来のクライは、未来のプリキュアのひとりで「未来を育む女神・マザー」の力を宿すキュアトゥモローを捕らえて時を止めようとした。だが、クライアス社の改造手術を受けて拘束中のハリーが「未来は輝く」と信じるキュアトゥモローを連れて逃げ、マザーの最後の力で過去へ来た。はぐたんは、未来のキュアトゥモローなのだ。そこへ、はぐたんの奪取をクライから命じられたジェロスが猛オシマイダーで襲来する。トラウムがキュアアムールのピンチを救い、プリキュアが猛オシマイダーを撃退。ルールーは、トラウムに少しだけ心を許したようだ。

▼トラウムに「お父さんだよ」と言われたルールーは、最初は拒絶したものの、直接言葉を交わしたことで気持ちが変化した。「一緒にご飯を食べましょう」と、彼に歩み寄る姿勢を見せる

◀トラウムがルールーを開発したのは、彼が「あの娘」と呼ぶ少女の代わりだったのか……

第41話 えみるの夢、ソウルがシャウトするのです!

悲しみをこらえるえみるから声とミライクリスタルが消滅!?

はぐたんを未来へ帰そうと誓うはなたち。だが、それはルールーやハリーとお別れするということ。悲しみを我慢するえみるは声が出なくなり、彼女とルールーのミライクリスタルが消えてしまう。えみるを溺愛する祖父は彼女を家にしばりつけようとする。それに反発する正人に「想いを叫んでいい」とあと押しされたえみるは家を飛び出す。「ルールーとずっと一緒にいたい」と訴えるえみるに、ルールーは「未来に歌と愛を伝えたい。未来で待っている」と約束。ふたりにミライクリスタルが戻る。ビシンはえみるの祖父のトゲパワワから猛オシマイダーを発注するが、プリキュアが撃退。ライブを成功させたえみるとルールーを囲み、みんなで素直に号泣した。

◀▲未来の時間を動かすために、はぐたん、ハリー、ルールーは、いつか未来に帰る……。その悲しみを無理矢理こらえるえみるからは表情が消えて、声が出なくなってしまった!?

◀▶正人に応援されたえみるはルールーに素直な想いをぶつけ、ルールーも真剣に応えた

◀▲あふれる涙を我慢せずに流し、泣きじゃくる5人。見守るハリーも思わずもらい泣き

▲未来で再会することを誓ったふたりのもとに、消えてしまったはずのミライクリスタルが戻ってくる

【第41話 STAFF】 脚本／坪田文　原画／関暁子、森亜弥子、池内直子、江口茜、加地真理子、仲理沙、小川凜太郎、岡村康平、藤田裕子、関谷明日香、諏訪昌夫、内田広之、木藪てん、油布京子、北田久登、近響子、青木香奈、榎野智加、武元一貴、高波祐太、曽根亜矢子、江崎稔、中村叶子、小林万理、朱暁玥、奥嶋大介、丸井駿、シグナル・エムディ、森田二惟奈、黒田掠美、玉井あかね、福地祐香　背景／ビック・スタジオ、春菜恭子、北畠太郎、関根悠姫、永原かれん、田中愛　CGディレクター／高橋友彦　デジタルアーティスト／町田政彌、竹内恒雄、ダリル・パドゥア、マイケル・デヴェラ、ディンド・タグパシ、ナルシーソ・タグロス、ニコ・サベロン、キム・パンテ、ジェトロ・サイソン、海老沢大生　製作進行／加集和人、巴山亨樹　美術／大西穣　総作画監督／宮本絵美子　作画監督／池内直子、森亜弥子　演出／関暁子

【第40話 STAFF】 脚本／坪田文　原画／清水隆正、完甘美也子、高橋任治、福原恵次、松田千織、芹田明雄、楢崎朝子、冨木由美子、安田陽子、近響子、小泉寛之、袴田裕二、増田誠治　背景／studio AR.T.ON、柳煥錫、黃琇詠、徐柱星、崔有眞、高智榮、朴吉用、安恩僚、李智恩　CGディレクター／竹野智史　デジタルアーティスト／山平拓磨、内山知亜莉、ガイ・バウデンカービー、内村翔太、石原翔太、和田浩稔、仁田原力、澤井邦男、木原中、宮澤孝介　演出助手／山村のどか　製作進行／星野和也　美術／李凡善　総作画監督／山岡直子　作画監督／増田誠治　絵コンテ／角銅博之　演出／朝倉舞彩

▲故障した脚を何度も手術しているアンリは、次の大会で有終の美を飾ろうとするが、会場へ向かう途中に、自動車事故に巻き込まれる

第42話 エールの交換！これが私の応援だ!!

負傷してスケート界を離れても アンリには無限の可能性がある

選手として最後の出場となる大会の会場へ向かうアンリが、自動車事故に巻き込まれる。病院のベッドで絶望する彼は、リストルの誘いに乗ってしまう。リストルは、会場へ連れ出したアンリをトゲパワワの棺に閉じ込め、アンリの悲報に嘆く観客のトゲパワワで猛オシマイダーを発注。攻撃を命じるのはアンリだ。しかし、プリキュアのミライブレスから放たれる光に包まれたアンリは、なりたい姿・キュアアンフィニに変身。猛オシマイダーが退けられるとアンリは負傷した身体に戻るが、前向きに「なりたい自分を探す」と決意する。はなは「人々の心に新しい世界へ飛び立つ翼を生やすような応援をしたい」と願い、さあやとほまれも、なりたい自分に思いを馳せた。

◀リストルの誘いに乗ったアンリは、強い絶望感に包まれてトゲパワワの棺に閉じこもる

▲キュアエールの応援を受けたアンリは、トゲパワワでできた絶望の棺を打ち破る。「アンフィニ」はフランス語で「無限」。なんでもできる！ なんでもなれる！

▲キュアエールの「エール」はフランス語では翼。みんなの心に翼を生やすような応援がしたい！

▶39話でクライにつかみかかる反抗的な態度を取ったリストルは、クライに記憶や心を操作された。ハリーが何者なのかさえもわからない

第43話 輝く星の恋心。ほまれのスタート。

◀母は「もし傷ついても友達が涙を吹き飛ばしてくれる」と、ほまれの告白をあと押し

実らぬ恋と知りつつもハリーへ 想いの丈を打ち明けるほまれ

フィギュアスケートの大会が迫るほまれは、ハリーに応援されると赤面し、きつく当たる。それは恋。未来へ帰るハリーへのかなわぬ恋に悩むほまれに、母は「離婚したが、ほまれの父を好きになってよかった」と体験を語る。大会当日。ほまれは勇気を出して自分の恋心を伝えるが、想っている相手がいるハリーは「ほまれの気持ちには応えられない」と断る。はなの胸で涙を流してすっきりしたほまれは、演技に集中できた。そこへビシンと猛オシマイダーが出現。ビシンは、失恋したほまれは「明日なんていらない」と思っていると邪推するが、ほまれは「好きな人の幸せと輝く未来を願う」と反論。猛オシマイダーを退けた仲間に、ほまれは笑顔で優勝メダルを見せた。

▲演技の直前、ほまれは勇気を出して「あんたが好き」と告白。ハリーも正直に「気持ちを伝えたいやつがいる」という理由で断った

◀▼はなたちの胸で泣きじゃくることで恋に決着をつけたほまれは迷いのない演技を披露

◀▲失恋をバネにして見事に優勝したほまれ。ハリーは観客席から「おめでとう」と祝福する

▶32話にてハリーには想い人がいることを警告していたビシンは、失恋したほまれをあざ笑う

【第43話 STAFF】 脚本／坪田文　原画／田中伸昭、野津美智子、郡司智一、斉藤玲子、本吉悟、廣中美佳、上久保聡美、柴田知波、上杉遵史、長田雄樹、高井浩一、Toei Phils.　背景／山口大悟郎、上原里香、岩谷邦子、小野寺美由紀、土井裕子、佐藤千恵、西田渚　CGディレクター／髙橋友彦　デジタルアーティスト／町田政彌、竹内恒雄、ダリル・パドゥア、マイケル・デヴェラ、ディンド・タグバシ、ナルシーソ・タグロス、ニコ・サベロン、キム・パンテ、ジェトロ・サイソン、海老沢大生　演出助手／村上漢　製作進行／樋田順一　美術／今井美紀　総作画監督／宮本絵美子　作画監督／なまためやすひろ　絵コンテ／佐藤順一　演出／岩井隆央

【第42話 STAFF】 脚本／坪田文　原画／星川信芳、清水隆正、星野玲香、完甘美也子、田中伸昭、飯飼一幸、田中沙希、北田美弥子、楢崎朝子、上久保聡美、長田雄樹、加宮四楼、斉藤香、速水広一、宮本絵美子、Toei Phils.、ロデル・レディリヤス、レム・バレンシア、ロメオ・アンニョンヌエボ、フランクリン・タマング、アーノルド ジョセフ・デルモンテ、アイバン・ミーナ、増田誠治　背景／本間禎章、山下千歌、濱野英次、土居ゆりの、牟田いずみ、Toei Phils.、エルウィン・サデーア　CGディレクター／竹野智史　デジタルアーティスト／山平拓磨、内山知亜莉、ガイ・バウデンカービー、内村翔太、石原翔太、和田浩稔、仁田原力、澤井邦男、木原中、宮澤孝介　演出助手／中島啓太郎　製作進行／梶原航平　美術／飯野敏典　総作画監督／山岡直子　作画監督／赤田信人　絵コンテ／菱田正和、三上雅人　演出／三上雅人

第44話 夢と決断の旅へ！さあやの大冒険！

▲さあや＆れいらが出演する映画『薔薇の騎士と姫の夜明け』は、中世の女騎士団長と姫の物語。その世界のVR空間へみんなで入る

◀マキ先生は、最初は親と同じ外科医を目指したが、研修中に出合った産婦人科を選んだ

母が活躍する世界に触れたから さあやの新しい夢が見つかった

さあやの夢だった「母・れいらとの共演」が映画で実現。しかし、リストルによって、さあや母子と共に撮影の見学に来たはなたちと医者のマキ先生がVR空間に閉じ込められる。映画の物語を終えれば、脱出できるらしい。冒険のなかでマキ先生が医者を目指した理由を聞いたさあやは、医者になることを決意。リストルは、さあやの巣立ちに戸惑うれいらのトゲパワワで猛オシマイダーを発注し、そのなかにはぐたんを捕らえる。さあやが直接れいらの心に素直な気持ちを伝えることではぐたんを取り戻し、猛オシマイダーを退ける。元の世界に戻り、本当の撮影がスタート。アドリブで互いの想いを語るさあや＆れいら。ふたりの迫真の演技は監督たちを感動させた。

◀撮影終了後は女優を辞めて医師を目指す決意を語るさあや。れいらは、娘が夢を見つけたことはうれしいものの、さびしさも感じた

▲◀さあや＆れいらのセリフは、台本と違うアドリブ。迫真の演技なので監督的にはOK

▲▶さあやは、母がいる世界に触れることで新しい夢が見つかったことを感謝。その想いが伝わったれいらは猛オシマイダーから解放される

第45話 みんなでHUGっと！メリークリスマス☆

▲風邪をひいて寝こんでいるトナカイに代わって、トラウムのメカトナカイが出動！

▲▼サンタとトラウムがそりを操って、はな、えみる、はぐたんがそれぞれプレゼントを配る

おしごとスイッチ・オン！ 絵描きさん

◀包装紙に花の模様などの絵を描いて、みんなへ贈るプレゼントを綺麗にラッピングする

困っているサンタを手伝って みんなにプレゼントを届けます

ある日、空から落ちてきたサンタは、トナカイが風邪でプレゼントを運べないと訴える。そこで、トラウムがメカトナカイを用意する。はなたちが手伝ってプレゼントを配ると、街にあふれるアスパワワが集まって、のびのびタワーはクリスマスツリーのように輝いた。クリスマス当日。パップルたちが主催するパーティーの会場にジェロスが現れて、ジンジンとタクミが使ったメカのトゲパワワで自身を猛オシマイダー化。駆けつけたジンジンとタクミの説得で泣き出した彼女をプリキュアが撃退する。パーティー会場では、ルールーが「メリークリスマス、お父さん」と言い、トラウムに手製のカレーを差し出す。トラウムは、自分の涙のせいで、しょっぱく感じた。

◀▲「ツインラブ」をかばって「時間を止める光線」を浴びるトラウム。ジェロスは大量のトゲパワワを飲み込んで猛オシマイダー化！

◀撃退されたジェロスは、ジンジンとタクミがバイト先でもらってきたケーキでパーティーを開催♪

◀ルールーは、はなの母に教わった「復活カレー」をオリジナルの味付けでプレゼント♡

【第45話 STAFF】 脚本／坪田文　原画／青山充　背景／ビック・スタジオ、関根悠姫、北島太郎、近藤美幸、春菜恭子、永原かれん、田中愛　CGディレクター／高橋友彦　デジタルアーティスト／町田政彌、竹内恒雄、ダリル・バドゥア、マイケル・デヴェラ、ディンド・タグバシ、ナルシーソ・タグロス、ニコ・サベロン、キム・バンテ、ジェトロ・サイソン、海老沢大生　演出助手／中島啓太郎　製作進行／東雄太　美術／大西穣　総作画監督／宮本絵美子　作画監督／青山充　演出／角銅博之

【第44話 STAFF】 脚本／坪田文　原画／星川信芳、原田節子、福原恵次、完甘美也子、松田千織、北田美弥子、郡司智一、本吉悟、廣中美佳、小泉寛之、美馬健二、Toei Phils.、フリッツ・ウラング、レジー・マナバット、ユージン・アイソン、アルフレッド・レイエス、ボビー・デラ ペーニャ　背景／本間禎章、山下千歌、佐藤美幸、飯野敏典、濱野英次、土居ゆりの、西田渚、Toei Phils.、ネリット・アクーニャ　CGディレクター／竹野智史　デジタルアーティスト／山平拓磨、内山知亜莉、ガイ・バウデンカービー、内村翔太、石原翔太、和田浩稔、仁田原力、澤井邦男、木原中、宮澤孝介　演出助手／山村のどか　製作進行／田口美月　美術／田中里緑　総作画監督／山岡直子　作画監督／美馬健二　演出／志水淳児

▲クラスペディアの花束を抱えたクライは、エレベーターのなかで、はなに「プリキュアの戦いは無意味」と言う

クライ、ふたたび！永遠に咲く理想のはな 第46話

未来の時間が止まった原因は悪い心を持っている人間自身

はなの家にパップルやトラウムが集まって正月を祝う。のびのびタワーを訪れたはなは、エレベーターのなかでクライに出くわす。クライは「未来の時を止めたのは、悪い心を持つ人々自身。破滅に向かう前に救いたい」と語り、はなに「人間は悪い心を持っていないと言えるのか？」と問いかける。はなに孤立したつらい記憶が蘇るも、プリキュアとして「みんなの未来を守る」と力強く宣言。さあや＆ほまれが駆けつけるとクライは消える。翌朝、海上に出現したクライアス社ビルからトゲパワワが発射され、時を止めてしまう。さらにクライは、ビルを巨大なクライに変え、はぐたんを取り込む。救出に向かうプリキュアの前にリストルとビシンが立ちはだかった。

▲未来を奪う計画の総仕上げ。クライが稟議承認すると、海上に出現したクライアス社ビルから放たれるトゲパワワで時間が停止する

▶クライアス社のビルは巨大なクライと化して、はぐたんを捕らえて内部に取りこんでしまう

▼ミライパッドが「自分を使え」とばかりに輝き、プリキュアは猛オシマイダーの群れを「みんなでトゥモロー！」でまとめて退ける

最終決戦！みんなの明日を取り戻す！ 第47話

ハリー、リストル、ビシン激突 戦いはクライとの直接対決へ！

ビシンとリストルがプリキュアに襲いくる。助太刀するパップル、チャラリート、ダイガン、トラウムは苦戦。自分で首の鎖をはずして巨大獣と化したハリーが「もうやめよう」と呼びかけると、リストルに心が蘇る。それに怒るビシンも巨大化するが、リストルに謝罪されると泣きくずれ、プリキュアに退けられる。プリキュアはジェロス、ジンジン、タクミの協力で海上のクライアス社ビルへ向かう。クライは、キュアエールを檻に閉じ込め、その前でトゲパワワで拘束したプリキュア4人を苦しめる。仲間を想うキュアエールはくじけそうになるが、4人は拘束から脱け出す。しかし、キュアエールの檻を破壊して力を使い果たした4人は、深い穴の底へ落とされた。

◀猛オシマイダーの群れの多さにヘトヘトのパップルを、リストルとビシンが攻撃。それをハリーが食い止める！

▼プリキュアはジェロスたちの水上バイクとボートに乗り、海上のクライアス社ビルへ向かう

▲▶心を取り戻したリストル。その心変わりを許せないビシンが巨大化するが仲間を傷つけられず、プリキュアに撃退されて元に戻る

▶拘束から脱出した4人は2組に分かれて、クライの攻撃とキュアエールの救出に向かう

▲力を使い果たした４人は、クライが床に生み出した深く暗い穴の底へ落とされてしまう

▲クライは、キュアエールを檻に閉じ込め、４人を捕らえて雷の電撃を加えて苦しめる。仲間をこれ以上、苦しめたくないキュアエールは、時を止めることに同意しかけるが……

【第47話 STAFF】 脚本／坪田文　原画／田中伸昭、清水隆正、小泉寛之、鎬我井克美、芹田明雄、矢田梓、北田美弥子、上久保聡美、本吉悟、郡司智一、斉藤玲子、冨木由美子、松田千織、完甘美也子、仲條久美、Toei Phils.、ポール・アンニョンヌエボ、デニス・カブラオ、ジュディ・ゼル バルトラソ、アイバン・ミーナ、フランシス・カネダ、アリス・ナリオ、ノエル・アンニョンヌエボ　背景／本間禎章、飯野敏典、徳重賢、田中里緑、今井美紀、土居ゆりの、Toei Phils.、ルーベン・オレンセ、ディノ・サントス　CGディレクター／高橋友彦　デジタルアーティスト／町田政彌、竹内恒雄、ダリル・パドゥア、マイケル・デヴェラ、ディンド・タグバシ、ナルシーソ・タグロス、ニコ・サベロン、キム・パンテ、ジェトロ・サイソン、海老沢大生　製作進行／星野和也　美術／黄国威　作画監督／宮本絵美子、山岡直子　演出／川崎弘二

【第46話 STAFF】 脚本／坪田文　原画／下谷美保、高橋詩奈子、角田栞央、青木伸一、小谷ひとみ、小川祐妃、志賀岳、鈴木里沙、長澤達也、村上貴之、佐々木雄三、なかじまちゅうじ、杉山さよ、牧野太輔、皆川祐輝、入江綾子、メタスタジオ、リアススタジオ　背景／studio AR.T.ON、柳煥錫、黃琇詠、徐柱星、崔有眞、高智榮、朴吉用、安恩倞、李智恩、西田渚　CGディレクター／竹野智史　デジタルアーティスト／山平拓磨　内山知亜莉　ガイ・バウデンカービー、内村翔太、石原翔太、和田浩稔、仁田原力、澤井邦男、木原中、宮澤孝介　製作進行／肥留川知明　美術／李凡善　総作画監督／山岡直子　作画監督／下谷美保、中谷友紀子　演出／村上貴之

第48話 なんでもできる！ なんでもなれる！ フレフレわたし！

◀▲クライの攻撃で倒れても、何度でも立ち上がって、みんなを応援する。それが、彼女がなりたい"野乃はな"だ

男性も女性も子どもも老人もすべての人がプリキュアに変身！

クライの力は強大で、キュアエールの変身が解けてしまう。それでもあきらめないはなの強い決意でキュアエールは復活する。クライの手にする本を打ち砕くと、はぐたんの拘束が解ける。時間が動き出して、4人のプリキュアも復活。一方、トゲパワワを爆発させたクライは巨大クライと一体化し、天を突く怪物・超クライに変貌。だが、プリキュアを応援する人々もプリキュアとなり、世界にアスパワワが満ちあふれる。それを結集して放つ「みんなでトゥモロー!!」により、ついに超クライを撃退。崩壊するクライアス社ビルからクライを連れ出そうとするキュアエールに向け、彼は「またね」と言い残して消える。朝日が昇り、未来へ続く新たな一日が始まる。

▶再びキュアエールに変身して、はぐたんを取り戻すと、止まっていた時間が動き出していく

▼超クライをアスパワワのバリアで跳ね返そうとするキュアエールたちに「フレフレ！」と声援を贈るすべての人がプリキュアに変身する！

▲未来を信じなかったクライは、キュアエールと出会って未来を信じるようになった!?

第49話 輝く未来を抱きしめて

未来へ帰るみんなと悲しい別れ 未来を育むみんなとの出会い♡

未来へ帰るためにトラウムが製作中の列車メカが「おしまいだー」と嘆く声に反応して猛オシマイダー化。立ち向かうプリキュアに『スター☆トゥインクルプリキュア』の星奈ひかるが変身するキュアスターも加わって、猛オシマイダーを退ける。ついに別れの時が来る。「笑顔ではぐたんを見送る」と約束したはなだったが、涙をこらえることはできない。時は流れて2030年。はなは会社の社長になっており、おなかに赤ちゃんがいる。えみるはトラウムの研究所で完成したばかりのルールーと対面。はなをサポートする産婦人科医は、さあや。世界大会で優勝して帰国したほまれも出産に立ち会う。そして、はなは生まれた赤ちゃんを「はぐみ」と名付ける……。

▲▶はぐたんたちが未来へ帰るときが来た。クライはおだやかな表情で荒野をひとり行く

▼ふみとの「もうおしまいだー」の嘆きに反応して、トラウムのメカ「未来へカエルくん」が猛オシマイダー化

▶偶然そこに居合わせたキュアスター（星奈ひかる）がキュアエールとはぐたんを助ける

▲未来で、はなの出産が始まる。担当産婦人科医・さあやの助手はダイガン。立ち会いを急ぐほまれは空港でパップルとぶつかっている

▲はぐたんたちを乗せたメカが動き出す。はなは、はぐたんたちを「笑顔で見送る約束」を守ることができなかった

▲▼えみるは、トラウムの研究所で幼いルールーと再会。一緒に「キミとともだち」を歌う

▲左下のキュアトゥモローと人間の姿のハリーの場面は、さらに未来（2044年）の情景

▲未来のはなは「アカルイアス社」の社長。部下を信じて、仕事を任せる頼もしい上司となっていた。誕生した赤ちゃんの父親とおぼしき男性の顔は映らないが、両手でクラスペディアの花束を抱えている

【第49話 STAFF】 脚本／坪田文　原画／チャールズ ジョセフ・ヴィラヌエバ、アーノルド ジョセフ・デルモンテ、ノエル・アンニョンヌエボ、ジョーイ・カランギアン、レジー・マナバット、ジュディ ゼル・バルトラソ、ロメオ・アンニョンヌエボ、デニス・カブラオ、エド マーチン・クリストモ、アイバン・ミーナ、フリッツ・ウラング、アレン・ジェラルディーノ、レム・バレンシア、ポール・ザルディバール、シーザー・デ レオン、ボビー・デラ ベーニャ、フランクリン・タマング、アルフレッド・レイエス、稲上晃　背景／山口大悟郎、上原里香、田中里緑、黄国威、今井美紀、本間禎章、濱野英次、土居ゆりの、飯野敏典、岩谷邦子、佐藤美幸、倉橋隆、山下千歌、Toei Phils.、エルウィン・サデーア　CGディレクター／高橋友彦　デジタルアーティスト／町田政彌、竹内恒雄、ダリル・パドゥア、マイケル・デヴェラ、ティンド・タグバシ、ナルシーソ・タグロス、ニコ・サベロン、キム・バンテ、ジェトロ・サイソン、海老沢大生　演出助手／中島啓太郎　製作進行／樋田順一　美術／西田渚　総作画監督／川村敏江、宮本絵美子、山岡直子　作画監督／フランシス・カネダ、アリス・ナリオ　絵コンテ／佐藤順一、座古明史、坪田文　演出／岩井隆央

【第48話 STAFF】 脚本／坪田文　原画／原田節子、横屋健太、斉藤香、近響子、星野玲香、佐々木瞳、杉本幸子、芳山優、高井浩一、飯飼一幸、長田雄樹、加宮四楼、福原恵次、小泉寛之、藤原未来夫、板岡錦、アニタス神戸、齋藤佑香、佐藤翼、川上恵里花、WHITE FOX 伊豆高原スタジオ、小川貴司、立川綾香、林麟太朗、鴨宮瑞貴、旭プロダクション、Toei Phils.、増田誠治　背景／今井美紀、飯野敏典、小野寺美由紀、黄国威、岩谷邦子、土井裕子、土居ゆりの、山下千歌、佐藤美幸、田中里緑　CGディレクター／竹野智史　デジタルアーティスト／山平拓磨、内山知亜莉、ガイ・バウデンカービー、内村翔太、石原翔太 和田浩稔、仁田原力、澤井邦男、木原中、宮澤孝介　演出助手／都築悠一　製作進行／梶原航平　美術／西田渚　作画監督／川村敏江　演出／座古明史

We can!! HUGっと！プリキュア

Opening（オープニング）

第1話～第22話

宮本佳那子の伸びやかな歌声に乗せて、はなたちの日常やお仕事中の様子、さらにクライアス社の不気味なイメージが描かれた。イントロ部分には、はなのナレーションが入っているのもポイント。49話では、OPではなく挿入歌として使用された。

第23話～第48話

えみる／キュアマシェリ、ルールー／キュアアムールが23話の映像から登場した。クライアス社の社員も、ジェロスとジンジン、タクミ、ドクター・トラウム、ビシンへと変更された。

Eye Catch（アイキャッチ）

番組のAパートとBパートの間に挿入されるアイキャッチ。今回は全4種類。1～24話までは、キュアエールがアスパワワをはぐたんに与えるバージョンと、はなが鳴らすタンバリンにはぐたんが喜ぶという夢を、はなが見ているバージョン。25～49話は、お仕事の様子が映った球がミライパッドから飛び出したり、泣いているはぐたんのところに小さいサイズのプリキュアが降ってきたりする映像となった。

HUGっと！未来☆ドリーマー

キュアエール、キュアアンジュ、キュアエトワールの3人がフルCGでキュートに踊る姿を表現。歌詞のテロップがキャラクターカラーになっていることにも注目しよう。18話のみ、えみるとルールーが歌う「キミとともだち」がオンエアされた。

【前期EDテーマ CG制作担当スタジオ】

Creator Interview 1

ECHOES（エコーズ）スタッフ

──『HUGっと！プリキュア』の前期EDテーマのCG映像を担当されると決まったときは、いかがでしたか？

前作の『キラキラ☆プリキュアアラモード』に続き、今作のED映像も制作できたことは、前作を評価していただけたということだと思いますので、大変ありがたいことです。

──最初にオファーを受け取ったときの感想を教えてください。

「姪っ子に自慢できる。そういえば息子も好きだな」と、制作したあとの優越感のほうが先に来ましたが、最初の打ち合わせのあと、ことの難しさと大きさに背筋が凍りました。

──今回のCGは、どのように制作していったのですか？

東映アニメーションさんからいただいたキャラクターモデルとモーションキャプチャーデータをもとに、こちらでカメラワーク・アニメーション・背景制作・撮影（コンポジット）などを行いました。

──キャラクターを動かす際にこだわった点、工夫した点は？

（これまでの）『プリキュア』シリーズのEDはCGアニメーション業界でもかなり高く評価されておりましたので、とてもじゃないけど同じ土俵で勝負はできないと思い、なんとか及第点をいただけるように工夫しました。具体的には、派手な演出は控えてあまりカメラを動かさないなど、試行錯誤しました。制作を始めたころは、ちょうど星野源さんの『恋ダンス』が流行っていたので、そこからヒントを得てダンスをしっかり見せる演出になったと思います。

──改めてEDを観返す際に注目してほしいポイントはどこでしょうか？

かわいいキャラクターと、思わずマネしたくなる振り付けに注目してほしいです。

──最後に『プリキュア』ファンへ向けてメッセージをお願いします。

1年間ありがとうございました。次回作の『スター☆トゥインクルプリキュア』もお楽しみに！

Ending（エンディング）

第23話～第49話

HUGっと！YELL FOR YOU

「HUGっと！プリキュア」の5人による歌唱。前期EDでは背景が「ビューティーハリー」の店内や外だったが、後期ではポップなイメージ映像に変更されている。22、36、37話は『映画HUGっと！プリキュア♡ふたりはプリキュア オールスターズメモリーズ』のED映像とEDテーマ「DANZEN！ ふたりはプリキュア～唯一無二の光たち～」が使用された。

Creator Interview 2

【後期EDテーマ CG制作担当スタジオ】

モンブラン ピクチャーズ スタッフ

――今回『HUGっと！プリキュア』の後期EDテーマのCG制作を担当されることになった経緯を教えてください。

演出とアニメーションの両方ができる会社を（東映アニメーションが）探されていたなかで、弊社の代表が東映アニメーションさんと昔から繋がりがあったのがきっかけで、モンブランに白羽の矢が立ちました。『プリキュア』のED映像はCGの技術的にも毎回進化しており、シリーズのファンもたくさんいる作品なので、プレッシャーはすごくありました。ただ、東映アニメーションさんから「モンブランらしく自由にやっちゃってください！」と言っていただいたので、思いっきり挑むことができました。

――今回のCGは、どのように制作していったのですか？

まず、この作品で伝えたいテーマや曲のイメージをもとに、ビジュアルの方向性を決めました。みんなにエールを贈る内容の歌詞でとても元気の出る曲なので、「チアリーディングの持つアメリカンポップでかわいく、力強いイメージ」になればいいなと思ってデザインしました。カラフルにしつつもプリキュアをきちんと目立たせる背景にするのに苦労しました。

――動かす際にこだわった点、工夫した点はどのようなことですか？

プリキュアを活き活きとかわいく見せたかったので、（プリキュアの）表情にはとても気を使いました。サビに入ってからの全員で踊るシーンは、プリキュアが視線を送り合うことで、楽しんで踊っている様子を出しました。

――前期との兼ね合いは考えましたか？

曲のイメージが違うので、とくに意識せずに製作を進めました。そして、モンブランの得意な〝グラフィカル〟な表現を活かした構成にしたので、結果的に全然違う見え方になったと思います。

――改めてED映像を観返す際に注目してほしいポイントは？

先ほども触れたのですが、プリキュアの表情に注目してほしいです！　初めのカットはキュアエールのアップなのですが、すーっと息を吸うような、「これから始めるよー！」といった雰囲気を感じられる表情芝居になるよう努力しました。

――最後に『プリキュア』ファンへ向けてメッセージをお願いします。

今作はシリーズ15作目ということもあり、本編のなかでもたくさんの仕掛けがありました。そのなかで後期ED映像に関わることができたのはとても光栄ですし、SNSなどでファンのみなさまからのうれしい反応をたくさん見ることができ、とても幸せな気持ちになりました。ありがとうございました！　僕もファンのひとりとして、進化していく『プリキュア』を、みなさんと一緒に応援していきたいと思います。

Ending CD Information

「HUGっと！プリキュア」後期主題歌シングル

●発売元：マーベラス

宮本佳那子

『プリキュア』らしさと旋律の美しさの両方を活かしたOP

Profile
【みやもと・かなこ】11月4日生まれ。茨城県出身。『Yes！プリキュア5』のED「キラキラしちゃって My True Love！」以来、数多くの『プリキュア』シリーズの主題歌、挿入歌を担当。10作目『ドキドキ！プリキュア』では剣崎真琴／キュアソード役を務める。

――OPを歌うことが決まった感想は？

私にとっては、『プリキュア』シリーズが初めてのOP担当だったんです。いつかはOPを歌えたらと思っていたので、本当にうれしかったです。最初に曲をいただいたときは、自分が思っているよりもテンポがゆったりだなと感じました。メロディーがきれいなぶん、自分が歌うイメージが浮かばなくて。どうやって歌ったら『プリキュア』らしくなるかなと思いつつ、曲の美しさも活かしたくて歌い方には悩みました。

――レコーディングの思い出は？

スタッフの方からは「もっとピンクっぽく」とか「イエローっぽく」と色で例えたディレクションがありました。レコーディングをしたスタジオに、どんなに叫んでも声の割れないすばらしいマイクがあり、思いきり歌えちゃうぶん、試行錯誤の連続でした。OP映像が流れるときは、はなの「なんでもできる！ なんでもなれる！」というセリフが入りますが、私もレコーディングでは気合いを入れたくて、毎回そのセリフを叫んでいました。低い音から始まるので、声を出していたほうが歌いやすかったんです。毎回スタッフの方から「セリフはいらないからね」と言われたのも、いい思い出です。

――技術的な面で、歌唱する際に注意したことはありますか？

テクニックのことは考えませんでした。『キラキラ☆プリキュアアラモード』のEDは曲調もあって、かなり攻めた歌い方になったのですが、『HUGっと！プリキュア』は、母性や子育てがテーマだとうかがっていたので、全体的にきれいな音色で歌うことを心がけていました。OPは番組の顔になる曲ですし、CMなどでもたくさん流れるので、聴いた方が一番『プリキュア』らしさを感じてくれたらいいな、と思いながら歌いました。

――2番のサビ後のロングトーンも印象的ですよね。

じつは、あのロングトーンはレコーディングのときに調子に乗って、譜面よりも長く伸ばしていたんですね。その長さに合わせてコーラスも取ったので、イベントなどで歌うときは、今度はそのコーラスの長さに合わせて歌わなくちゃいけなくて。自分で自分を追い込んじゃったなぁと（笑）。

――宮本さんは『HUGっと！プリキュア』関連の曲だと、『映画プリキュアスーパースターズ！』のED「七色の世界」や、『映画HUGっと！プリキュア♡ふたりはプリキュア オールスターズメモリーズ』の挿入歌「リワインドメモリー」も歌っていますね。

「七色の世界」は、いわゆる『プリキュア』の楽しい雰囲気の曲ではないので、どう表現するか悩みました。歌詞も明るいわけではないですし。ただ『プリキュア』の映画の最後に流れる曲を私が歌うなら、明るく歌いたいと思っていました。この曲は、映画に登場するクローバーというキャラクターの曲でもあるので、妖精を意識してかわいく歌った思い出があります。でも、じつは途中でいわゆる二頭身の妖精サイズではないと知り、少し大人の歌声で録り直させてもらったんです。実際のCD音源は、両方を混ぜて使っていただいています。

「リワインドメモリー」は、『ふたりはプリキュア』の主題歌などを担当された五條（真由美）先輩と一緒だったので、それがすごくうれしくて。劇中でキュアエールとキュアブラックが共闘するように、一緒にぶつかるような気持ちで、テンションを上げて歌いました。

――『プリキュア』の楽曲を集めたベストアルバム「Dear my past self」もリリースしました。

『Yes！プリキュア5』から『プリキュア』シリーズに関わらせていただき、曲もたくさん増えてきたんですが、挿入歌やイメージソングはなかなか聴いていただけるチャンスが少なくなっているのかなと思ったんです。それもあって、今回ひとつにまとめさせていただけてすごくうれしかったですね。

――改めて、以前の歌を自身で聴いてみた感想はいかがでしたか？

歌い方の差がすごいなと思いました。1曲目に『HUGっと！プリキュア』のOPが入り、2曲目は『Yes！プリキュア5GoGo！』のイメージソングなのですが、2曲目のほうの声が若いというか、初々しい。私の『プリキュア』と関わってきた10年間がしっかり残っているアルバムだなと感じています。

――2018年は、映画『オールスターズメモリーズ』にも出演しました。

久しぶりに演じるキュアソードがまさかの赤ちゃんの姿だったので、キュアソードでありながら赤ちゃんでもある、そのバランスが難しかったです。動いているキュアソードにまた会えたことが、とにかくうれしくて。同窓会みたいな感じで面白かったですね。

――この1年間、いろいろなイベントやライブでOPを披露しました。

今は無事に1年間歌いきれたという安心感が大きいです。OPということもあり、できるだけ子どもたちの前で歌えたらという想いで、この1年は活動していました。やっぱり生で聴いた歌は、そのときに覚えていなくても、いつか「聴いたことがある」と感じてもらえるだろうと思っていて。それもあって、勝手に感じていた使命をきちんと果たせたのではないかなと。

2019年1月に開催された「プリキュア15周年Anniversaryライブ〜15☆Dreams Come True！〜」では、先輩方に囲まれて、すごくプレッシャーがありました。私がトップバッターだったので、気合いが入りすぎている部分も多くて。そういうときは、先輩方から「楽にしていいんだよ」と言ってもらえて、改めて素敵な先輩たちに支えられているなと感じることができました。キュアソードとしても出番があることは発表されていなかったので、驚かれた方もいるのかな？ 歌手としての自分、役者としての自分、そして声優の方と寄り添って歌う自分と、いろいろな役割を任せていただけて。自分はこれまでは好きなように歌ってきたけれど、これからは周りをよく見て支えることもできるようにならなきゃと思えるようになりました。自分のなかで責任を感じられるようになったという意味でも、すごく大きなライブでした。

――最後に、1年間応援してくれたファンへメッセージをお願いします。

『HUGっと！プリキュア』は、『プリキュア』シリーズ15周年の作品ですが、それに埋もれないようにと気合いの入った作品だったと思います。〝なりたいわたし〟を追求し続けたはなちゃんに憧れますし、応援してもらって「なんでもできる！」を合言葉に共に走った1年でした。すごく素敵な作品と出会えて幸せでした。本当にありがとうございました。

CD Information

『HUGっと！プリキュア』主題歌シングル
●発売元：マーベラス

『映画プリキュアスーパースターズ！』主題歌シングル
●発売元：マーベラス

『映画HUGっと！プリキュア♡ふたりはプリキュア オールスターズメモリーズ』主題歌シングル
●発売元：マーベラス

宮本佳那子 PRECURE Best Songs Selection『Dear my past self』
●発売元：マーベラス

Movie Guide（ムービーガイド）

『HUGっと！プリキュア』の映画での活躍はこちらでチェック！

シリーズ15周年作品となった『HUGっと！プリキュア』のプリキュアは、TVシリーズだけではなく、映画でも大活躍した。彼女たちの2018年春、秋映画での見どころや、最新映画でのかっこいい姿を確認しよう。

2018年3月17日に公開された『映画プリキュアスーパースターズ！』は、『HUGっと！プリキュア』を含めた3世代のプリキュアによる共演となった。

今作の物語は、はながはぐたんを連れて〝お花畑デビュー〟をしようとしたところから始まる。そこに、怪物・ウソバーッカが突然現れて、世界をウソだらけにしてしまおうとする。さあや、ほまれとプリキュアに変身して3人で戦おうとしたものの、その最中に離れ離れになってしまったはなは、『キラキラ☆プリキュアアラモード』49話で出会った「キラキラ☆プリキュアアラモード」に助けを求めようと思いつく。さらに「魔法つかいプリキュア！」にも力を貸してもらい、はなはウソバーッカに挑むことになるのだ。

ウソバーッカが出現する裏には、はなが幼いころに〝とある約束〟をした少年・クローバーが関わっていることも判明する。はなはクローバーとの約束を果たすために、クローバーを利用しようとしていた敵と対峙していく。クローバーの真摯な想いと、それに応えようとするはなの想いが交錯していく本作。ラストシーンを観れば、切ない気持ちだけでなく、きっとやさしさも感じられるに違いない。

▲強大な力を持つ敵に対し、3世代のプリキュアは全力でぶつかっていく

▲バラバラになってしまった仲間たちを見つけるために、はなたちも必死！

▲敵に追われて逃げる姿は、どこかコミカルな雰囲気もある

▲世代の異なるプリキュアの交流が観られるのも、映画のポイントだ

http://www.precure-superstars.com/

● 2018年3月17日公開

■STAFF　原作／東堂いづみ　監督／池田洋子　脚本／米村正二
オリジナルキャラクターデザイン／宮本絵美子、井野真理恵、川村敏江
キャラクターデザイン・総作画監督／香川久　作画監督／爲我井克美、小松こずえ
音楽／林ゆうき　美術監督／渡辺佳人　色彩設計／竹澤聡　撮影監督／五十嵐慎一
アニメーション制作／東映アニメーション
OPテーマ／北川理恵「明日笑顔になぁれ！」　EDテーマ／宮本佳那子「七色の世界」

■CAST
野乃はな（キュアエール）／引坂理絵　薬師寺さあや（キュアアンジュ）／本泉莉奈
輝木ほまれ（キュアエトワール）／小倉唯　はぐたん／多田このみ
ハリハム・ハリー／野田順子、福島潤　宇佐美いちか（キュアホイップ）／美山加恋
有栖川ひまり（キュアカスタード）／福原遥　立神あおい（キュアジェラート）／村中知
琴爪ゆかり（キュアマカロン）／藤田咲　剣城あきら（キュアショコラ）／森なな子
キラ星シエル（キュアパルフェ）／水瀬いのり　ペコリン／かないみか
朝日奈みらい（キュアミラクル）／高橋李依　十六夜リコ（キュアマジカル）／堀江由衣
花海ことは（キュアフェリーチェ）／早見沙織　モフルン／齋藤彩夏　ほか

歴代のプリキュア55人が勢ぞろい！ ギネス世界記録®にも認定されたビッグな物語

シリーズ15周年を記念した本作は、2016年まで続いていた『プリキュアオールスターズ』シリーズの最新作的な立ち位置にもなった作品に仕上がった。『HUGっと！プリキュア』を含めた歴代の55人のプリキュアが全員、ボイスありで登場するということでも話題になった。

街に現れるモンスターたちと戦っていたキュアブラック、キュアホワイト、シャイニールミナス。ところが、そこに謎の怪物・ミデンが現れ、シャイニールミナスが小さくなった姿（ベビープリキュア）に変えられてしまう。ミデンは次々と歴代のプリキュアのもとへ向かい、彼女たちをベビープリキュアへと変貌させていく。さらに、ミデンの力によってキュアアンジュ、キュアエトワール、キュアマシェリ、キュアアムール、そして助けに来てくれたキュアホワイトまでもがベビープリキュアにされてしまった。ベビープリキュアには話が通じず、はなはボー然として、ほのかがいなければ変身できないなぎさは大ピンチに陥ってしまう……。

ベビーとはいえプリキュア55人が総登場する姿にも胸が熱くなるが、注目すべきは敵のミデン。ミデンはプリキュアの想い出を奪い、さらに想い出を奪ったプリキュアの決め技も使えるというのだ。次々と繰り出されるなつかしい技の数々に、敵ながらあっぱれと感激した人も多かったことだろう。最終的にミデンの正体と目的を知ると、彼を責められない気持ちも湧いてくる本作。ぜひBlu-rayなどで再びチェックしてみてほしい。

▲仲間たちがベビープリキュアにされて落ち込むキュアエールとキュアブラックだが、力を合わせて前向きになっていく

▲本作にはフルCGシーンもある。活き活きと動くキャラクターにも注目

▲かわいらしいベビープリキュアになった一同

映画 HUGっと！プリキュア♡ふたりはプリキュア オールスターズメモリーズ

http://www.toei-anim.co.jp/movie/precure/
●2018年10月27日公開
■STAFF　原作／東堂いづみ　監督／宮本浩史
脚本／香村純子　総作画監督／稲上晃
音楽／林ゆうき　美術監督／杉本智美
CGディレクター／カトウヤスヒロ
CGアニメーションスーパーバイザー／金井弘樹
色彩設計／竹澤聡　撮影監督／髙橋賢司
コンポジットスーパーバイザー／石塚恵子
アニメーション制作／東映アニメーション
OPテーマ／宮本佳那子
「We can!! ＨＵＧっと！プリキュア」
EDテーマ／五條真由美「DANZEN ！
ふたりはプリキュア～唯一無二の光たち～」

■CAST
野乃はな(キュアエール)／引坂理絵
薬師寺さあや(キュアアンジュ)／本泉莉奈
輝木ほまれ(キュアエトワール)／小倉唯
愛崎えみる(キュアマシェリ)／田村奈央
ルールー・アムール(キュアアムール)／田村ゆかり
はぐたん／多田このみ
ハリハム・ハリー／野田順子、福島潤
美墨なぎさ(キュアブラック)／本名陽子
雪城ほのか(キュアホワイト)／ゆかな
九条ひかり(シャイニールミナス)／田中理恵
日向咲(キュアブルーム)／樹元オリエ
美翔舞(キュアイーグレット)／榎本温子
夢原のぞみ(キュアドリーム)／三瓶由布子
夏木りん(キュアルージュ)／竹内順子
春日野うらら(キュアレモネード)／伊瀬茉莉也
秋元こまち(キュアミント)／永野愛
水無月かれん(キュアアクア)／前田愛
美々野くるみ(ミルキィローズ)／仙台エリ
桃園ラブ(キュアピーチ)／沖佳苗
蒼乃美希(キュアベリー)／喜多村英梨
山吹祈里(キュアパイン)／中川亜紀子
東せつな(キュアパッション)／小松由佳
花咲つぼみ(キュアブロッサム)／水樹奈々
来海えりか(キュアマリン)／水沢史絵
明堂院いつき(キュアサンシャイン)／桑島法子
月影ゆり(キュアムーンライト)／久川綾
北条響(キュアメロディ)／小清水亜美
南野奏(キュアリズム)／折笠富美子
黒川エレン(キュアビート)／豊口めぐみ
調辺アコ(キュアミューズ)／大久保瑠美
星空みゆき(キュアハッピー)／福圓美里
日野あかね(キュアサニー)／田野アサミ
黄瀬やよい(キュアピース)／金元寿子
緑川なお(キュアマーチ)／井上麻里奈
青木れいか(キュアビューティ)／西村ちなみ
相田マナ(キュアハート)／生天目仁美
菱川六花(キュアダイヤモンド)／寿美菜子
四葉ありす(キュアロゼッタ)／渕上舞
剣崎真琴(キュアソード)／宮本佳那子
円亜久里(キュアエース)／釘宮理恵
愛乃めぐみ(キュアラブリー)／中島愛
白雪ひめ(キュアプリンセス)／潘めぐみ
大森ゆうこ(キュアハニー)／北川里奈
氷川いおな(キュアフォーチュン)／戸松遥
春野はるか(キュアフローラ)／嶋村侑
海藤みなみ(キュアマーメイド)／浅野真澄
天ノ川きらら(キュアトゥインクル)／山村響
紅城トワ(キュアスカーレット)／沢城みゆき
朝日奈みらい(キュアミラクル)／高橋李依
十六夜リコ(キュアマジカル)／堀江由衣
花海ことは(キュアフェリーチェ)／早見沙織
宇佐美いちか(キュアホイップ)／美山加恋
有栖川ひまり(キュアカスタード)／福原遥
立神あおい(キュアジェラート)／村中知
琴爪ゆかり(キュアマカロン)／藤田咲
剣城あきら(キュアショコラ)／森なな子
キラ星シエル(キュアパルフェ)／水瀬いのり
メップル／関智一
ミップル／矢島晶子
ミデン／宮野真守　ほか

▲左上が敵のミデン。てるてる坊主のようなひょうきんなスタイルをしているが、とても手強い

▲パティシエの「キラキラ☆プリキュアアラモード」が作るスイーツは、ほかの星の住人にも大好評のようだ

▲みんながミラクルライトを元気いっぱいに振ることで、プリキュアはとてつもないパワーを発揮することができる

▲熱い星に飛ばされてしまったみんな。えれな＆まどかはあまりの暑さに、アンドロイドのルールーで身体を冷やそうとしている

ミラクルライトの応援がプリキュアの力になる!

映画☆えいが プリキュア ミラクルユニバース

http://www.precure-miracleuniverse.com/
●2019年3月16日公開

■STAFF　原作／東堂いづみ　監督／貝澤幸男
脚本／村山功　総作画監督・キャラクターデザイン／松浦仁美
音楽／林ゆうき、橘麻美　美術設定／升井秀光
美術監督／高木佑梨、渡辺佳人　CGディレクター／髙橋友彦
色彩設計／竹澤聡　撮影監督／髙橋賢司
アニメーション制作／東映アニメーション
OPテーマ／宮本佳那子「プリキュア!カナYell☆ミラクル」
EDテーマ／北川理恵「WINくる!ミラクルユニバース☆」

■CAST
星奈ひかる（キュアスター）／成瀬瑛美
羽衣ララ（キュアミルキー）／小原好美
天宮えれな（キュアソレイユ）／安野希世乃
香久矢まどか（キュアセレーネ）／小松未可子
フワ／木野日菜　プルンス／吉野裕行
野乃はな（キュアエール）／引坂理絵
薬師寺さあや（キュアアンジュ）／本泉莉奈
輝木ほまれ（キュアエトワール）／小倉唯
愛崎えみる（キュアマシェリ）／田村奈央
ルールー・アムール（キュアアムール）／田村ゆかり
はぐたん／多田このみ
ハリハム・ハリー／野田順子、福島潤
宇佐美いちか（キュアホイップ）／美山加恋
有栖川ひまり（キュアカスタード）／福原遥
立神あおい（キュアジェラート）／村中知
琴爪ゆかり（キュアマカロン）／藤田咲
剣城あきら（キュアショコラ）／森なな子
キラ星シエル（キュアパルフェ）／水瀬いのり
ペコリン／かないみか
長老／水島裕
大統領／田中裕二（爆笑問題）
ヤンゴ／梶裕貴
ピトン／小桜エツコ　ほか

最新映画は、2018年の『映画プリキュアスーパースターズ!』の体制に戻り、2019年春から始まった『スター☆トゥインクルプリキュア』と、『HUGっと!プリキュア』『キラキラ☆プリキュアアラモード』の3世代から、合計15人のプリキュアが登場することとなった。

星を見ることが大好きな女子中学生・星奈ひかるは、ある日、星を見ていると突然、宇宙にワープしてしまう。そこで彼女が出会ったのは、ミラクルライトを作る工場がある惑星ミラクルで働く、ミラクルライトの見習い職人・ピトン。ひかるは、ピトンやほかのプリキュアと一緒にミラクルライトのヒミツに迫ろうとするが、突然ミラクルライトの光が真っ黒になり、伝説の宇宙大魔王が復活するという事態に巻き込まれてしまう。このままでは宇宙が闇に飲みこまれる。奇跡を起こせるのは、ピトンが持つミラクルライトと、劇場にやってくる"みんな"が持つミラクルライトだけらしい……。

星々にバラバラに飛ばされてしまった各世代のプリキュア同士が、初対面ながらも交流を深めていく姿が見られて微笑ましい。一方、なぜか惑星ミラクルの大統領にプリキュアの偽者と決めつけられ、追い回されて逃げ回ったり、現れた魔物を追ったりと大忙しなプリキュア。映画では子どもたちに渡される応援アイテムであるミラクルライトにスポットを当て、新たな切り口で物語を紡いでいく本作。ぜひ、子どもたちがミラクルライトを振る劇場で、この物語を味わってほしい。

▲右上が見習い職人のピトン。「伝説のプリキュアを呼べる」というミラクルライトを作るために頑張っていた

『HUGっと！プリキュア』の活躍は？

『HUGっと！プリキュア』の49話でひかると出会っているはなは、宇宙という意外な場所でも彼女との再会を当たり前のように受け入れる。キュアスターが、ピトンのミラクルライトを使って闇に覆われた空間から抜け出そうと提案して「出しゃばった」と焦った際には、キュアエールが「その作戦に賛成」とキュアスターのことを励ました。今作では先輩らしい頑張りを見せてくれる。

▲伝説のプリキュアを名乗る悪者と間違えられ、宇宙警備隊に追われてしまうプリキュア

▲見習い職人のピトンは、自分が作ったミラクルライトに大統領からダメ出しをされてしまい不満そう

▼敵に捕まってしまい、困惑のキュアソレイユとキュアセレーネ。その背後で、キュアマカロン&キュアショコラ、キュアマシェリ&キュアアムールが果敢に戦う姿に、貫禄を感じる

▲ピトンが持つミラクルライトは、なぜ闇の光を放たずに済んだのだろうか……!?

▼背後にいるのは、いったい誰!?

▲みんなで力を合わせれば、怖いものなんて何もない。キュアエールも先輩として、キュアスターと力を合わせていく

Cast Interview 1

プリキュアを演じたキャストが作品への想いを熱く語る！

引坂理絵

Profile

【ひきさか・りえ】9月11日生まれ。鹿児島県出身。主な出演作は、WEBアニメ『アニメぶそ煮コミ』テトラ役、アニメ『イナズマイレブン オリオンの刻印』チェ・リン役、『はなかっぱ』アリ次郎役など。

キュアエール 野乃はな

この作品は私に経験し得なかったことを与えてくれた

がむしゃらに頑張るはなに寄り添う

——ついに最終話も終わりました。

さびしい気持ちでいっぱいです。毎週、どういうお話になっていくんだろうと展開を楽しみにしていましたし、演じるうえでも緊張が途切れず、最後まで駆け抜けた1年でした。49話（最終話）のアフレコでは、途中から涙が止まらなくて、終わったあとは魂が抜けたみたいに2日間、寝こんでしまいました。そこからなんとか復活して、49話のオンエアを観て、また泣いて。やっぱり『HUGっと!プリキュア』（以下『はぐプリ』）は最高だと改めて感じました。

——オーディションは、はな／キュアエール役で受けたのですか？

最初のテープオーディションでは、はぐたんとえみる／キュアマシェリを受けていました。その後、はな／キュアエールのスタジオオーディションに呼んでいただき、「受かる受からないじゃなくて、とにかく楽しもう」みたいな気持ちで、自分の思うまま、身体を精いっぱい動かして臨んだことを覚えています。

——合格の連絡が来たときは？

本当にうれしくて、「えっ？　こんなことあるの!」と驚きました。「ピンクということは主人公で、作品の柱になる子だよね」とひとつひとつ噛み砕いて理解しようとしても、頭が追いつかなかったです。『プリキュア』シリーズは、台本を収録の前週にいただき、映像は当日に現場で観てからアフレコをするという形式での収録なのですが、そういった形式も経験したことがなかったので、不安でいっぱいでした。

——プレッシャーは感じましたか？

この1年間、つねにプレッシャーは感じていました。子どもたちにとっては人生で最初に観るアニメになるかもしれないし、将来「小さいとき、『はぐプリ』を観ていた」と話題に出るような作品にしないといけない。そんな機会を与える側になったという責任が重くて、とにかくプレッシャーを感じていました。

——はな／キュアエールには、最初にどんな印象を持ちましたか？

元気いっぱいで、明るい女の子だなという印象でした。キラキラしていて、まぶしいくらいでした。

——そんなはな／キュアエールを演じるときに心がけたことは？

最初は、元気で前向きなはなに寄り添って演じることを意識していました。でも、物語が進んで、はなちゃんの奥にある劣等感を見たときに、より彼女に共感できたんです。だから、自分と重ねながら、その時々に感じた想いを乗せていくことを心がけました。

——はなに共感できるところとは？

がむしゃらな姿が最初は私と似ていると思っていました。また、物語が進むにつれて、さあややほまれと自分を比べて、ダメだとか劣っているとか、そう思ってしまう気持ちや、それでも頑張ろうとするところも自分と近いものを感じました。

衝撃的だった49話の出産シーン

——ふりかえると、いろいろと印象的な出来事があったと思いますが、やはり最終話の出産シーンは衝撃的でした。

私もです。48話で物語が終わり、49話は後日談のようなものを想像していましたが、出産というビッグイベントが入ってくるなんて！　『はぐプリ』は比較的現実味のある物語が描かれている印象だったので、とことんリアルに演じようという気持ちでアフレコに臨みました。

——49話はAパートで、はなとはぐたんが別れるシーンも印象的です。

ジョージ（・クライ）さんやはぐたんをはじめ、未来から来た人たちが戻る先は、私が演じたはなの行く未来と違うので、永遠の別れと思うとさびしさはあります。えみるとルールーも未来で再会はしているけれど、あのルールーは、えみるが別れたルールーとは違うし……。そう考えると、さびしさがより増しますね。

——はなは赤ちゃんに「はぐみ」と名付けました。違うはぐたんなわけですよね。

そうなんです……。ただ、私は、はぐたんに関してはなぜか「再会した」という気持ちが強いんです。一度は別れたけど「また会えたね」っていう気持ちでいました。ちょっと不思議な気持ちですね。

——一方で、さあやとほまれは、それぞれの夢をかなえていました。

ちゃんとみんなが「なりたい自分」になれたんだと思うと、感激です。49話の収録の際、大人になったはなたちのイラストを見せてもらったんです。ほまれはより美しさが増して、改めて素敵な男性と幸せになってほしいと思いました。さあやに関しては、結婚が遅そうだねとみんなで話していたのが、すごく印象に残っています（笑）。さあやは仕事ひと筋な感じが出ていて、すごく強そうなんですよ。余計なお世話ですが、みんなでそんな心配をしていました。

——49話以外で印象に残っているエピソードはなんでしょうか？

やっぱり1話ですね。1話って、この作品のすべてが詰まっていると思うんです。なりたい自分になること、そのために努力すること……。何より、私自身、これがスタートだという気持ちが強くて、（1話は）何ものにも代えがたい大切なエピソードです。

——1年間、「フレフレみんな！　フレフレわたし！」をしてきたんですね。

この言葉で始まって「なんでもできる！　なんでもなれる！　フレフレわたし！」のフレーズが、47話の放送後に流れる次回予告で出てきたとき、時の流れを感じて涙が止まらなくなりました。自分自身を支えてくれた言葉です。

——放送当初は、はなは応援がしたい女の子なのかと思っていたら、転校にまつわるエピソードなども相まって、じつは「自分も応援している」とわかったときに、あの言葉がすごく胸に沁みますよね。

みんなを応援するだけではなくて、応援しながら、その応援が自分に返ってくる。シンプルだけど力強い言葉なので、とても励まされた1年でした。

ジョージへの想いは恋の芽生え

——はな／キュアエールと関わりが深い人物というと、やはりジョージ・クライとの関係は忘れられませんね。

以前、シリーズ構成の坪田文さんから、「はなはジョージのことをどう思っていると思う？」と聞かれたことがあるんです。私は「好きだと思います」と答えました。完全な恋とまでは気づいていなくても、恋の芽生えではあったんだろうなと。もともとイケてるお姉さんになることが目標でしたから、ああいうミステリアスな人を「大人」だと思っていたのかもしれないですね。

——はなを意識している人物といえば、クラスメイトのひなせもいました。

ひなせくんはすごくやさしいし、いい人だと思います。ただ、はな自身、大人っぽくなりたいと思っているから、相手にも大人っぽさを求める気がしていて。そうなると、同級生のひなせくんは目に入らなかったんじゃないかなと。

——はぐたんは、はなの娘という意味でもとくに関わりの深いキャラクターです。

愛しい存在でしたね。49話で別れるときは本当に悲しくて。何も状況をわかっていないはぐたんを見るだけで、心が張り裂けそうでした。はぐたん役の多田（このみ）さんの演技もすばらしくて、私が「お願いだから、私を泣かせないで」と懇願していたのを思い出します。

——ハリーについては？

つねにプリキュアを見守ってくれる存在です。ハリーは、友人としてはとても好きですが、物語が後半になればなるほど罪な男性だなと。ほまれとの恋についてだけは、鈍感にもほどがあると思いました（笑）。

——えみるとルールーについては？

私たちは5人で「HUGっと！プリキュア」ですが、えみるとルールーは、ふたりにしかわからない特別な世界があるという印象でした。微笑ましいし、観ていて愛おしかったですね。

——今、はな／キュアエールに何かひと言、伝えるとしたら？

「ありがとう」。はなに出会った1年は、何ものにも代えがたいものになりました。この作品に出会って、成長するための鍵をいっぱいもらえました。

——引坂さんにとって「プリキュア」とは、なんでしょうか？

「宝物」です。これまで経験し得なかったものを与えてくれた作品ですし、これから先の人生で、この1年で経験した以上のものを得られる日は、そう多くはないんじゃないかと思うくらい濃密な経験をさせてもらえました。

——では、最後に読者へメッセージを。

1年間応援していただき、ありがとうございました。「なんでもできる！　なんでもなれる！」の精神で、「自分のなりたい姿」を探す1年でした。小さい子どもたちは「なりたい自分」の無限大な可能性を追いかけてほしいですし、大人の方は、47話でクライアス社のみなさんが言っていた「大人だって何度でもやり直せる」という言葉に尽きると思っています。私自身、自分のなりたい姿を追いかけて、これからもさらなる一歩を踏み出していきたいと思います。

フレッ！　フレッ！　みんな！
フレッ！　フレッ！　わたし！

引坂理絵からプリキュアのみんなへ

本泉莉奈さま

本ちゃん（本泉）は、私のなかで、そのまま「さあや」というイメージでした。ふだんはやさしく見守っているけど、私が不安になったときは、それを察して声をかけてくれたり。あと、よく食べ物をもらいました（笑）。緊張でご飯が食べられない日はゼリー飲料をくれるなど、ずっと気遣ってくれました。いつもアフレコでは隣の席でした。ずっと隣にいてくれて、本当にありがとう。

小倉唯さま

唯ちゃんとのエピソードで一番印象に残っているのは、『HUGっと！プリキュア』のお披露目記者会見のとき。緊張していた私と本ちゃんに「大丈夫だよ」と声をかけてくれたことです。唯ちゃんの姿が、ほまれみたいで、とにかくかっこよかったです。収録のときは、ほまれに対するハリーの態度を見ては、みんなでいろいろ話したね（笑）。楽しかった！　本当にありがとう。

田村奈央さま

でんちゃん（田村）本人は、まったく意識していないんだと思いますが、いつも、何をしていても面白かったです（笑）。でんちゃんがいてくれたから、アフレコ現場の空気がいつもすごくあったかくなって、より素敵な空間になったと思っています。でんちゃんの個性が爆発し続けている姿には、いつも癒されていました。

田村ゆかりさま

玩具の音声を録るために初めてお会いしたとき、私の緊張を察して、抱きしめてくださったことをすごく覚えています。「なんて素敵な方なんだ!!」と一瞬で心を奪われました。アフレコ現場では、はぐたんやハリーをいじりつつ場を明るくしてくださり、そのやさしさとあたたかさが胸に沁みました。本当に、感謝ばかりです!!

Cast Interview 2

本泉莉奈

Profile
【ほんいずみ・りな】2月4日生まれ。福島県出身。主な出演作は、『賢者の孫』シシリー=フォン=クロード役、『BanG Dream!』川端真結役・水村楓役、『UQ HOLDER!〜魔法先生ネギま！２〜』メグ役など。

キュアアンジュ 薬師寺さあや

さあやはずっと私のなかに生きています

さあやはやさしいけど芯のしっかりした子

――放送が終わっての率直な感想は？

本当に怒濤の1年でした。今までで一番早く1年が過ぎていった気がします。じつは、まだ終わった実感が湧かないんです。次週の収録用の台本は前の週のアフレコ後にいただいていました。それが49話のアフレコ後になくなったし、いつも収録していた予告の収録もなかったので、終わったのはわかっているのに、どうしてもまだ収録がある気がしています。

――オーディションはさあや／キュアアンジュ役で受けられたのですか？

私は前作の『キラキラ☆プリキュアアラモード』で初めて『プリキュア』のオーディションを受けさせていただき、今回が2回目でした。最初はマネージャーさんが選んだほまれと、自分で選んださあやでテープオーディションを受け、通ったのはほまれだったんです。でも、スタジオのオーディションで「さあやも演じてください」と言っていただきました。じつは、そのときはほまれを演じることを意識しすぎて、さあやについての印象がほとんどなくて。それもあり、あまりお芝居をしすぎずに、自然にさあやのセリフを言えたのかなと思っています。

――さあや／キュアアンジュ役に決まるまでは、さあやがどういう女の子かをほとんど意識していなかった？

そうですね。実際に役が決まってから、はっきりと認識した印象です。第一印象は、やさしさや母性が強そうな子。キュアアンジュのモチーフがナースやシスターというのもあり、外見からもやさしさがにじみ出ていたんです。ただ、物語の冒頭では、自信がなく、周囲の期待に応えるばかりで、自分が何をしたいのか見えていなかったのも印象的でした。

――物語が進んでいくと、やさしいだけではない面が見えてきましたよね。

DIYが好きだったり、わからないことを誰よりも早く調べたいからとミライパッドを独占していたりと、けっこう面白いところが見えてきましたね。ルールーに対して負けず嫌いを発揮しているところもかわいくて。ルールーはアンドロイドですから、情報収集能力や記憶力は人間ではとてもかなわない。さあやは周りから頼られることに喜びを感じていることもあって、そんなルールーに焦りを感じているんです。それは、さあやのかわいらしい一面だなと思っています。

――さあや／キュアアンジュを演じる際に心がけたことは？

彼女はみんなから「天使」と呼ばれるくらいにやさしい子なので、最初のころはスタッフの方から「天使でお願いします」と、よく指示をいただいていました。私は「天使」＝やさしさと判断して、そのやさしさを声でも出せるように意識していました。でも、クライアス社と対峙したときは「仲間を絶対に傷つけさせない」「みんなを守りたい」という気持ちがすごく強く出ると思っているんです。それもあって、バトル時のキュアアンジュの声にはやさしさのなかに「傷つけたら絶対に許さないぞ」という、ふつふつと内側から湧き出るような強い気持ちをこめました。それから、負けず嫌いで、芯の強い女の子であることも、後半になるにしたがって意識していきました。

――さあや／キュアアンジュに共感できるところは？

辛いものが好きなところ？（笑）あとは、ホラーも好きですね。私もさあやと同じように、ホラーを観ながら演出やCGの描き方を観察してしまうんです。そういうところは似ているかなと思います。

――さあやは子役ということもあり、劇中でもお芝居をしますよね。

それは少し難しかったです。二重に演じることも難しいのですが、一条蘭世ちゃんやお母さんに「できていない」と思われる芝居、気持ちの整理がついたあとの芝居と、劇中で演じる芝居にも段階があったんですね。そのバランスが難しくて。スタッフの方からは「演じなくていいよ」と言われたのを覚えていて、なるべく考えすぎないようにやりましたね。

――明確に夢が変わったのも、さあや

の印象的なところです。

当初は他人からうらやましがられるような、大女優の娘であり人気子役であったさあやが「お医者さんになりたい」と思い、その夢をかなえていけたのは、はなとの出会いがあったからこそなんですよね。そういう意味でも、はなとの出会いは、すごく素敵なものだったなと感じています。

――49話は、どうでしたか？

（はなの出産時に）はぐみを取り上げる役目を担うことになったのは驚きでした。正直なところ、Aパートが別れを描いたエピソードだったので、どうしても情緒不安定になっちゃう部分があったんです。でも、Bパートでそれを払拭するような、アスパワワにあふれた未来が描かれているのは本当に『はぐプリ』らしいなとも思えましたし、未来へつながるお手伝いをするために、さあやはお医者さんになったのかなと思えるお話でした。

蘭世」との微笑ましいライバル関係

――全話をふりかえってみて、とくに印象的だったエピソードは？

さあやとしては、夢を決めた44話です。もちろん、それまでの過程もあってのことですが、何をしたいかわからなかったさあやが、お母さんにはっきりと未来の夢を伝えることができたという意味でも、印象的でした。お母さんが猛オシマイダーになってしまう、ちょっと悲しい回でもありますが、お母さんがちゃんと応援すると言ってくれたので、親子愛を感じるエピソードでもありました。それから、さあやのお当番回ではないのですが、やはり49話のえみるとルールーが歌うシーンはアフレコも含めて印象的でした。えみるの歌録りを私たちも見学していたのですが、最初、田村奈央ちゃんはきちんと綺麗に歌おうとしていたんですね。でも、どうしてもレコーディング中に感情があふれてきてしまっていて。本人は収録を止めようとしていたんですが、佐藤（順一）シリーズディレクター（SD）が「止めないでいこう」と決めて出来上がったのが、劇中でえみるが歌ったもの。ふたりが再会できたことは本当にうれしいけれど、えみるが出会ったルールーは、私たちが一緒にプリキュアになったルールーではないんだな……と思うと、すごく複雑でした。それから、はながはぐみちゃんを産んで、それを違う時空のキュアトゥモローが見ているというのも、すごく印象的で。いろいろな可能性を感じさせてくれるお話でした。

――そういえば、さあやは恋のお話がありませんでしたね。

個人的に、さあやはプリキュアのなかで一番、婚期が遅そうだなと思っています（笑）。さあや自身は、ハリーに対するほまれの気持ちの動きにも気づいているし、恋に疎いわけではないと思うんです。ただ、なんとなく仕事ひと筋で、恋愛をするには時間がかかりそうだなと。

――ダイガンさんはけっこう近くにいるんですけどね。

なぜかいますよね（笑）。かわいらしいおじさまだなとは思っていますが……。ダイガンさんに限らず、クライアス社の人たちは、そのときどきの風刺を盛りこんでいたので、平成時代に最終話を迎えた『プリキュア』にふさわしいキャラクターだったなと感じています。47話で一緒に戦う展開も「大人だってなんでもできる！　なんでもなれる！」という言葉もすごく響いてきて。本泉個人としても、このセリフを忘れずに、この先も生きていきたいなと思いました。

――さあやと関わる人物としては、先ほど話に出た蘭世も個性が強かったです。どのような印象をお持ちですか？

44話で、はぐたんから「ねぎー！」って言われるシーンが大好きです。お笑い担当というか、オチ担当というか、そんな女の子でしたが、49話ではきちんと女優として大成する夢をかなえていたようで、すごく素敵でしたね。ライバルって敵対するだけじゃなくて、切磋琢磨する大事な存在なんだということが、子どもたちに伝わっていたらうれしいです。

――ハリーやはぐたんには、何か伝えたいことはありますか？

ふたりには、子育ての大変さ、楽しさを学ばせてもらいました。はぐたんにはとくに言葉が増えたり、歩けるようになったり、少しの変化でもこんなにうれしいんだというのを教えてもらえましたね。

プリキュアは「一生の宝物」

――1年間をふりかえって、とくに印象に残っていることは？

49話のアフレコのテストのときに、本編で使用するBGMを流していただけたんです。ふだんは無音なので、音楽の力を感じながらアフレコをできたことがすごく印象に残っています。事前にみなさんと合わせること、そこにBGMが加わることで、笑顔ではぐたんたちを未来へ送り出したい気持ちと、お別れがさびしくて涙をこらえる気持ちがわーっと湧いてきて。オンエアでは、自分が想像していたよりも何倍も感情豊かなエピソードになっていて、すごく勉強になりました。

――今、さあやに声をかけるとしたら？

「私の声で満足してくれましたか？」と聞いてみたいです。私はさあやの大切な1年間の声を任せてもらい、彼女に寄り添わせてもらい、彼女のことをかけがえのない存在だと思っているんですが、逆に彼女が私をどう思っていたのかは気になりますね。

――では本泉さんにとって「プリキュア」とは、なんでしょうか？

「一生の宝物」です。プリキュアに出会えて、当時の私ができる全力で収録に臨んだので、得られたものがたくさんあると思っています。本当に素敵な経験をさせていただけました。

――読者へメッセージをお願いします。

1年間ずっと応援してくださり、感謝の気持ちでいっぱいです。本編や映画には、たくさんのメッセージがこもっていますし、それらを観て響いた言葉は、ずっと心に残ると思います。私自身のなかにもさあやは生きていて、ふとしたときに彼女の言葉を思い出すことがたくさんあります。ですから、彼女たちの言葉を忘れずに、この先つらいことや悲しいことがあったときに、ぜひ彼女たちの言葉を思い出してくださるとうれしいです。

本泉莉奈から プリキュアのみんなへ

引坂理絵さま

引坂はいつもアフレコ現場で周りを本当によく見ていて、キャストの誕生日があればいろいろ計画するなど、気配りもたくさんしてくれました。気を張っていた部分もあったと思うし、私ももう少しサポートができていたらと反省する部分もあるけど、引坂だからリーダーを任せられたという気持ちも強いです。本当に頼りになる存在で、キュアエール（役）が引坂で本当によかったという感謝の気持ちでいっぱいです。

小倉唯さま

唯ちゃんは、本当に頼りになる、かっこいい存在。芸歴的には先輩で、すごく落ち着いているし、私がテンパっていても「大丈夫だよ」と声をかけてくれて。その言葉がすごくありがたくて、『プリキュア』の現場以外でも思い出しています。さあや＆ほまれは、ほかの3人と比べると常識人だし、コンビっぽいところもあって、すごく楽しかった。唯ちゃんは、本当に“リアルほまれ”だなぁと思っています。ありがとうございました。

田村奈央さま

奈央ちゃんはずっとそのままでいてほしい（笑）。本当にムードメーカー的存在で、いてくれるだけで和むんです。奈央ちゃんらしくて、誰にもマネできない空気を放っているので、どうかそのままでいてください。たまに突拍子もないことを言うけれど、それも面白いし、素朴で一緒にいるだけで笑顔になれます。奈央ちゃんだったからこそ、えみるのコミカルさも活きたと思っています。

田村ゆかりさま

ゆかりさんは収録のとき、本当にかっこよかった！　一緒にプリキュアを演じられるということで、勉強しようと思ってずっと見ていたんですが、アンドロイドという難しいキャラクターに、気持ちが芽生える過程をすごくていねいに演じていて。機械的な話し方のなかに、少しだけ感情が芽生えたとわかるような演じ方がすばらしすぎて……。トラウムさんとの親子関係のやりとりも、あたたかくて素敵でした。勉強させていただきました。

Cast Interview 3

小倉唯

Profile

【おぐら・ゆい】8月15日生まれ。群馬県出身。主な出演作は、『ゴブリンスレイヤー』女神官役、『ぱすてるメモリーズ』舞子ちまり役、『ヤマノススメ』シリーズのここな役など。

作品に恥じないようにレベルアップしていきたい

ほまれは繊細で乙女チックな女の子

――ついに最終話の放送が終わりました。

じつは1年放送される作品のアフレコの経験があまりなかったので、どんなふうになるのかと思っていたのですが、あっという間でした。長い期間をかけてアフレコをするのは新鮮でしたし、だんだんとファミリー感が出てくる素敵な現場でしたね。個人的には、まだ終わっていない気がして、春休みや夏休みのような長めの休憩をはさんでいるような気がするくらいです。

――ほまれ／キュアエトワール役を小倉さんが演じると発表されたとき、これまで小倉さんが演じてきたキャラクターと少しイメージが違って驚きました。

私がこれまで演じてきたキャラクターとはイメージに相違があったようで、驚かれた方がたくさんいたというのは耳にしています。でも、あまり反響は意識しないようにしていました。

――オーディションの段階から、ほまれ役を受けたのですか？

スタジオでは、ほまれとはなを受けました。でも、全然手応えがなかったんです。『プリキュア』シリーズのオーディションを受けたのはこれが初めてだったのですが、どうにもしっくりこなくて。なので「決まった」という連絡をいただいたときはすごくうれしかったです。ただ、玩具の声録りをしても、アフレコをしても実感が湧かなくて、放送されてやっとプリキュアになったんだなと感じました。

――ほまれの声は、最初からあの低いトーンで作ってきたとうかがいました。

そうでした。ただ、（ほまれは）やっぱり自分が慣れているような声のトーンではなかったので、アフレコ前にあった玩具の声録りでは、声が裏返ってしまったこともありました。

――声の出し方については、だんだんと慣れていきましたか？

最初は、アフレコ前にものすごく練習していたんです。役に対して自信を持って演じることができるか不安があって。でも、アフレコが進むにつれて、ほかのキャストの方や先輩はもちろん、観てくださる方のなかからも「ほまれを好きになりました」と言ってくださる方がたくさんいらしたので、逆に自信を持って演じなければという意識に変わりました。

――アフレコ中に、スタッフから何かディレクションなどはありましたか？

低いトーンをベースに声を広げていこうかなと思っていたのですが、「低い部分を意識しすぎないほうがいい」と言っていただきました。「ほまれも女の子だし、もっと高い声でもいいよ」と。そのおかげで、ほかのキャラクターとの差別化とか、音にとらわれる必要はないんだなって気づくことができて、制限せずにアフレコへ臨めるようになりました。

――キャラクターソングを歌うときには、声のトーンは気にしましたか？

じつは、それほど考えてはいないんです。誰でも歌うときは声が少し変わるのは当たり前だし、ただ「ほまれが歌ったらこんな感じかな」と考えるくらいですね。感覚的なものなので、あえて低くしようとか、そういうことは考えませんでした。ですから、歌うこと自体にもそれほど苦はなかったです。

――ほまれ／キュアエトワールは、登場した当初、かなり周りに壁を作っている印象のキャラクターでしたよね。

最初は尖っていましたね。そのころは、声もきつめに作りこみました。周りになじんでいくにしたがって柔和になっていきましたが、やわらげる作業は苦ではなかったです。ほまれは1年を通して深みが増したキャラクターだったので、私はその気持ちに寄り添わせてもらいながら演じていったんです。『プリキュア』の現場は、次週の台本をその前の週のアフレコにならないともらえないので、先の展開がわからないこともあり、あまり作りこみすぎずに、台本を読んで感じたこと、受け取ったことをそのまま出していくようにしました。

――ほまれ／キュアエトワールのビジュアルを最初に見たときの印象は？

オーディションの段階と今とで、ほまれ／キュアエトワールのデザインはほとんど変わっていないんです。フィギュアスケートをやっていて、悩みや弱さを抱えているという設定も最初から決まっていました。ボーイッシュな見た目なので、勝ち気な子かと思ったら、繊細な部分もたくさんあり、それをしっかりと出していけたらいいなと思いました。『プリキュア』は小さな女の子がメインターゲットなので、演技の技術を考えすぎるよりは、まず気持ちでぶつかってまっすぐに想いが伝わればいいなと思っていました。

――ほまれに共感できるところは？

ほまれはフィギュアスケートにトラウマがあって、行動するよりも考えこんでしまうタイプだと思うんです。私も何かをするときに、思いきりよく踏みこめないことがよくあるので、その気持ちはすごくよくわかりました。でも、そこから思いきって踏み出すことができたときにすごい力を発揮できるのが、ほまれのすごいところだと思います。

ハリハム・ハリーはやさしすぎる

――ほまれに関してふりかえると、ハリーとの恋模様が忘れられません。

先ほどお話ししたように、続きのお話は翌週までわからないので、ハリーに告白するシーンは、自分でも台本を読んで驚きましたね。正直なところ、あそこまではっきり告白するとは思わなかったし、はっきりフラれるとも思っていなかったんです。今となってはアレでよかったと思えるんですが、私がほまれのことを好きすぎて、アフレコ当時は「あの男、許せない」みたいな気持ちになってしまって（笑）。（田村）ゆかりさんもほまれの味方なので、よく一緒になって「ハリーのヤツめ！」って言っていました。

――それでは今、ハリーに対して何か言うとしたら……？

フランクで誰にでもやさしいところは彼の魅力なので、それを否定する気はないんですが……その気もないのに頭をポンポンしたりするのは本当にやめてほしい（笑）。ただ、ああいうハリーだからこそほまれは好きになったし、きっとずっと好きでいられるんだろうなとも思うんですね。きっとほまれはあの失恋を乗り越えて、ハリーのことも友人として大事な存在だと思っていくんじゃないかな。

――ほまれの視点で考えると、はぐたんは恋のライバルになりますね。

そうなんです。だからハリーとはぐたんがくっついていることがあると、ちょっとジェラシーを感じる部分もありました。でも愛おしくて〝きゃわたん〟な存在であることに変わりはありません。

――敵だったクライアス社の人には、どんな印象がありますか？

私はチャラリートさんとかトラウムさんとか、ちょっとギャグテイストの強い人が好きでした。あそこまで突き抜けていると、自分が悩んでいるのがバカらしくなってくるなと思って（笑）。

ほまれには「お疲れさま」と伝えたい

――アフレコでの思い出は？

『映画HUGっと!プリキュア♡ふたりはプリキュア オールスターズメモリーズ』や本編に『ふたりはプリキュア』のおふたりが登場してくださった回は、すごく感動しましたし、私たちもプリキュアなんだと実感できました。『オールスターズメモリーズ』は、ギネス世界記録に認定された映画でもあって、ふだんのスタジオにはない、登録審査用のカメラが入っていたのも印象的ですね。

――印象的だったシーンはありますか？

「跳びたい」というセリフはすごく心に残りますし、後半はハリーに対して恋心が見え隠れするシーンが印象にあります。ハリーへの態度は言葉というより視線とか態度で示されることが多かったんですが、ふりかえると「あのシーンがフラグだったんだな」とわかるんですよね。それから、ふだんはクールなのに、かわいいものに弱かったり、オーバーリアクションだったり……〝ほまれ語〟も好きでした。

――最終話のエピソードは、はなの出産を含め、衝撃的なものが多かったです。

最終話の台本をいただいたときは、みんなで時間軸について、ああでもない、こうでもないと推測を交わしました。はなの旦那さんについても、いろいろな意見が飛び交いました。さあやが婚期を逃しそう、という話もありました（笑）。

――ほまれはフィギュアスケートの大会でメダルを獲っていましたね。

夢がかなったのがわかって、本当にうれしくて。年齢を考えると、すごく頑張っていると思うんです。頑張りが開花して、とても幸せな気持ちになりました。

――今、ほまれに声をかけるとしたら？

「お疲れさま、頑張ったね」、あと「あきらめなくてよかったね」と声をかけたいです。彼女がそういう未来を迎えられたのは、はなたちと出会えたからだと思うので、「おばあちゃんになっても、みんなと仲よくね」とも伝えたいです。

――小倉さんにとって「プリキュア」とは、なんでしょうか？

とにかくすばらしい、愛が詰まった作品です。日本を代表する、誇らしい作品だなと感じています。私自身は、『プリキュア』という作品を通じて、スタッフやキャストが一丸となって、長い時間、同じ方向を向いて作品作りをしていく強い想いのすばらしさを改めて実感することができましたし、自分もそういった作品に参加させていただけたことに恥じないよう、どんどんレベルアップしたいなと思えるようになりました。人間としても役者としても、すごく刺激されました。

――それでは最後に、ファンや読者へメッセージをお願いします。

1年間応援してくださって、ありがとうございました。この作品は小さいお子さまから大人の方まで本当に幅広い世代の方が楽しめる、素敵な作品になっていると思います。正直に言うと、1年で終わってしまうのは名残惜しいです。でも、みんなが振り絞って1年間作ってきたものが結集していますので、放送が終わっても、作品やキャラクターは心のなかで生き続けていると思っています。ぜひ何度も観直して、そしていろいろな未来を想像していただけたらと思います。

小倉唯からプリキュアのみんなへ

引坂理絵さま

心から「お疲れさまでした」と言いたいです。私は、ひっきー（引坂）が演じるはなちゃんが本当に大好きで、ひっきーの繊細さ、まっすぐな想い、一生懸命さ、ブレない部分がそのままはなちゃんだったなと思います。いろいろ悩みもあったと思うけど、自信を持って頑張ってほしい。緊張してご飯を食べられなかったようですが、最近ちゃんと食べられるようになったと聞いてホッとしました。でもエナジードリンクは控えめにしてください（笑）。

本泉莉奈さま

本ちゃんはアフレコのときにずっと隣の席で、役的にも距離が近かったのでシンパシーを感じていました。私のほうがお仕事を始めたのが早かったぶん、ちょっと歩み寄るのにお互い時間はかかったけど、今ではすっかりぶっちゃけトークもできるようになりましたね。個人的には、本ちゃんをお姉ちゃんみたいに頼りに思っているところがあるので、今後も頼らせてください。役者としてはもちろん、人間としても、すごく信頼しています。

田村奈央さま

奈央ちゃんとは、じっくりご一緒できたのが初めてでした。最初はもっとお姉さんっぽい人かと思っていたので、えみるそのままのキャラクターであることにビックリしました。でも、奈央ちゃんがムードメーカーとして、場を明るくしたり和らげたりしてくれたと思っていて、すごく頼りになる存在でした。もっともっとお話したいです。あと、奈央ちゃんがボケて、（田村）ゆかりさんが鋭いツッコミを入れる姿に笑わせてもらいました。

田村ゆかりさま

どっしりと構えていてくれるから安心できたし、私たちが迷ったときには的確なアドバイスをしてくださって、ゆかりさんがいたからチームとしてのまとまりが強くなったと思います。ゆかりさんが毎回、現場で楽しそうに『はぐプリ』を「大好き」と言ってくださる姿に癒されていました。ほまれ役としては、ほまれを「一番好き」と言ってくださったのがうれしかったです。以前からお世話になっていたので、またご一緒できて楽しかったです。

Cast Interview 4

田村奈央

Profile

【たむら・なお】10月10日生まれ。埼玉県出身。主な出演作は、『ヘボット！』ネジル・ネジール役、『ワールドトリガー』雨取千佳役、『デジモンユニバース アプリモンスターズ』ミュージモン役など。

キュアマシェリ 愛崎えみる

とにかく自由に振りきって演じました

えみるの明るさと繊細さ両方が伝えられるように

―最終話の放送が終わりました。

アフレコがけっこう前に終了したので、オンエアを観て本当に終わったんだなと実感している感じです。今は、さびしい気持ちと1年間やりきったという達成感の狭間にいる感じがしますね。でも、『映画プリキュアミラクルユニバース』にて久々にえみるを演じることができたので、この先もチャンスがあれば、また演じられたらなと思っています。

―オーディションは、えみる／キュアマシェリ役を受けたのですか？

そうですね。マネージャーの方の推薦もあって、えみるのみを受けました。じつは、私が参加したグループに（田村）ゆかりさんもいらっしゃったんですよ。えみるのイラストを見ていらっしゃって、「なんと！」と思って。同じ役を受けていたから、まさかえみるとルールーで共演できることになるとは思いませんでした。

―オーディションの段階における、えみる／キュアマシェリの印象は？

えみるとルールーは、オーディション段階ではラフ画の状態だったのですが、あふれ出るかわいらしさはラフ画の段階からビシビシと伝わってきました。

―オーディションでは、どのように考えながら臨んだのですか？

性格などのざっくりとした説明はあったので、それをヒントにしつつ、あまり作りこまずに演じようと思いました。

―えみる役に決まったという連絡が入ったときはいかがでしたか？

うれしさのあまり、泣きくずれてしまったことをよく覚えています。今までも何回かオーディションに参加させていただいていたので、「ついにプリキュアになれるんだ……！」と夢のようでした。しかも、今までえみるのようにコロコロと表情が変わる女の子は演じたことがなかったので、何をするにしても新鮮でした。ただ、オーディションの段階ではまさかあんなに喜怒哀楽の激しい子だとは思っていませんでしたが（笑）。

―プリキュア5人のなかでは、はな以上に感情の起伏が激しいですよね。

えみるが独自のプリキュア（キュアえみ～る）になりきるエピソードがある15話の台本をいただいたときに「あれ？」と思いました。9話で初めて登場したときはそんなにぶっ飛んでいなかったので、「もしかして、自由にやってもいいのかな？」と。そこから振りきって、スタッフの方に止められるまでは好きなようにやらせていただこうと思いました。

―演じるときに、えみるが小学生であることを意識していますか？

自分の地声よりは高い声を出していますが、アフレコのときは小学生ということをほとんど意識していなかったかな。「こうやるぞ」と構えていくのではなく、そのときの感情を爆発させる感じでした。ただ、えみるの心の葛藤や繊細な部分は、観ている人にちゃんと伝わるように、自分のなかでえみるの感情を組み立てながら、集中して演じていました。

切っても切れないルールーとの関係

―49話では、そんなえみるもすっかり大人になっていました。

ずっと小さいえみると大きいルールーだったのが、49話では大きいえみると小さいルールーになっているんですよね。49話でえみるがギターを弾くシーンを観ていたら、18話で同じくギターを弾きながら歌うシーンを思い出して、すごく感慨深かったです。

―大人になったえみるが出会ったルールーは、プリキュアとして一緒に戦ってきたルールーではないわけですが、田村さんはどのようにとらえていますか？

複雑な想いがないわけではないんです。ただ、えみるはきっと小さいルールーも受け入れているし、ふたりが幸せそうな表情を浮かべていたから、ハッピーエンドだと思っています。

―49話で歌った曲の収録は、アフレコスタジオで行われたとうかがいました。

49話のアフレコが全部終わったあとに録ったので、どんどん泣けてきて、そのつど止めてもらっていたんですね。でも、佐藤SDが「泣いてもいいから歌いきりましょう」とおっしゃって。しかも、最

後の泣いたテイクを「これ、使います!」とその場で宣言されたんです。私としては「泣いている歌をオンエアに……!?」と思っていたのですが、オンエア前にダビングを観させていただき、「本当にありがとうございます」という気持ちになりました。えみるだって、何年かぶりにルールーと再会したんだから、こみあげてくるものがあって当然だなと。素敵なディレクションをしてくださった佐藤SDには、感謝の気持ちでいっぱいです。

—ルールーとの関係は、えみるを語る際には切っても切れませんよね。

もちろん、5人で「HUGっと!プリキュア」なのは間違いないのですが、えみるとルールーはふたりで行動することが多くて、自然と3対2になることもあって。また「えみるとルールーはふたりで変身をする」ということを事前に知っていたので、18話から20話までの流れは、私にとって特別で大切な回でした。毎週アフレコの前日は緊張と興奮で全然寝られなかったんです。ゆかりさんもそんな自分をきちんと見てくださっていて。いろいろなアドバイスをいただき、変身シーンを録り終えたら、次の週からは緊張が解けたのか、ぐっすりと眠れるようになりました。回を重ねるとお互いの信頼感がどんどん増して「いつでも変身できます!」みたいな気持ちになるんですよね。キャラクターもですが、キャストのシンクロ率も日々成長していけたのが、すごくうれしかったです。

—えみるとの関係という意味では、兄の正人の存在も印象に残りました。

お兄ちゃんの変わりようはすごかったですね! あれだけえみるに対して厳しかったお兄ちゃんが、ついには厳しいおじいさまに口答えをするほどになるとは思わなかったです。ゆかりさんは正人のことが大好きなので、何かと彼に反応していたのを思い出します。

—ほかのプリキュアの未来については、どう受けとめましたか?

はなの出産はかなり話題になっていましたが、私自身は台本をいただいたときも尊いエピソードだなと思ったので、全然驚かなくて。むしろ、オンエアが終わったあとに母から電話があって、すごく興奮していたので、衝撃的なシーンだったんだと察したくらいです。ほまれも輝いていたし、さあやの近くにはダイガンさんがいるんだなというのが、ちょっと面白かったですね。成長したえみるを観たときは『キラキラ☆プリキュアアラモード』の立神(たつがみ)あおいちゃんとセッションしたら面白いんじゃないかなぁと思っていました。ぜひ、いつか映画でそんなシーンを描いていただきたいです!

—はぐたんやハリーにもひと言。

はぐたんは、このちゃん(多田このみ)の声を聞いた瞬間の衝撃を、今でも覚えています。「こんなにも赤ちゃんの感情表現をナチュラルに演じられるんだ!」と。はぐたんが"きゃわたん"だったのは、このちゃんの声があったからこそだと思っています。ハリーはやさしすぎて、好きになったら不安になりそうですよね。でも、素敵な男性だと思いますよ。ほまれの告白をきちんと断っていたところは、すごく男前でした。

—ほかに印象に残っている人は?

ジョージ(・クライ)さんは、すごく素直な人だと思いました。事情は深く描かれませんでしたが、衝撃的なものを目にして感情を爆発させた結果が、あのジョージさんだったんだろうなと。とても人間らしいなとも感じました。人間らしいという意味では、(若宮)アンリくんにもそれを感じたかな。改めて考えると、すごく奥が深い作品ですね。

えみると出会えた幸せな1年

—全49話をふりかえって、アフレコで印象的だったことは?

スタジオでは、よく玩具やグッズをいただくんですが、そのなかにガムがついている玩具があったんです。それをなぜか、このちゃんに贈呈するという儀式が出来上がっていて。気がつけばこのちゃんは「がむたん」って呼ばれていました。

—今、田村さんからえみるに何かひと言、言ってあげるとしたら?

「お疲れさま、これからもずっと一緒なのです」かなぁ……。私にとって、えみるはかけがえのないキャラクターですし、放送が終わっても「えみるを出して」と言われたら、すぐに出せる自信があるんです。だから、また会える日を楽しみにしています。

—田村さんにとっての「プリキュア」とは、なんでしょうか?

「宝」であることは間違いないです。えみると出会わせてくれた大切なもの。夢であり、宝であり、えみる/キュアマシェリが私にとってのプリキュアですね。

—では、最後に読者へメッセージを。

1年間応援してくださり、本当にありがとうございました。個人的にオンエアが終わるごとにSNSなどでみなさんの感想などを見るのが好きで、みなさんの反応を見るたびに、モチベーションが高まりましたし、1年間駆け抜ける力をもらえました。作品というのは、みなさんが観てくださって初めて完成すると思っています。ですから、本当に幸せな1年を過ごさせていただきました。放送が終わってもキャラクターは生きているので、『HUGっと!プリキュア』のみんなを忘れずにいてください。そして、「ギュイーンとソウルがシャウトしたい」ときには、ぜひ観返してみてください。

田村奈央からプリキュアのみんなへ

引坂理絵さま

ひきちゃん(引坂)は、最初に会ったころと比べると、「こんなに変わるんだ……!」と感じられるくらい、1年間でニューひきちゃんが生まれたような感じがします。ひきちゃんとキュアエールのシンクロ率がすごく高くて、ひきちゃんのキャラクターがあってこそ、あのはなが活きてきたのだと思います。いつまでもチャーミングなひきちゃんでいてね! 共演できて楽しかったよ～!

本泉莉奈さま

本ちゃんは「さあやそのもの!」というイメージなんです。ふだん話しているときもすごく近しい雰囲気があって、本ちゃんからあふれ出る"さあや感"……。でもちょいちょい出てくる面白発言! そのよいバランスが本ちゃんならではのさあやを生み出したのかなぁ。本当に素敵でした! アフレコスタジオでおいしそうにお汁粉やスープを飲んでいたことを私は忘れないよ……(笑)。

小倉唯さま

唯ちゃんはかわいらしい声の印象があったので、最初は「意外だ～!」と思っていたんです。でも、実際にお芝居を聞いたら、見事にほまれのかっこよさも愛らしさも演じていて、「唯ちゃんすごい……!」と思っていました。43話でハリーにフラれてからのほまれのセリフひとつひとつを聞くだけで、今でも泣けてくるほど。しゃべると気さくで、かわいいけどサバサバしているところも魅力的な唯ちゃん、今度メイクを教えてほしいです!

田村ゆかりさま

えみるとして、ゆかりさんには一番お世話になりました。私、なぜかゆかりさんの話をしようとすると涙が出てきちゃうんですよ。情緒不安定なのかな……(笑)。私がこの作品で自由にお芝居をできたのは、相方がゆかりさんだったからだと思っています。ゆかりさんはどっしりと構えて、なんでも受け入れてくれて、本当に安心できる存在でした。ゆかりさんがルールーでいてくれて、とても幸せでした。また一緒に、ご飯に行きたいです!

Cast Interview 5

田村ゆかり

Profile

【たむら・ゆかり】2月27日生まれ。福岡県出身。主な出演作は、『魔法少女リリカルなのは』シリーズの高町なのは役、『NARUTO－ナルト－』シリーズのテンテン役、『ISLAND』御原凛音役など。

キュアアムール ルールー・アムール

未来の世界でもルールーがえみると出会えていたらうれしい

周りに合わせていったルールーの演技

――1年間の放送が終わっての感想は？

長かった、かな？（笑）私は1年間ずっと放送があるシリーズの出演はなかったので、そういう意味で長いシリーズだったなと感じています。

――オーディションは、ルールー／キュアアムール役で受けたのですか？

最初はえみる／キュアマシェリ役でした。スタジオで、ルールーも受けることになったんです。オーディション用の資料をいただいたときは、えみるのような感情のはっきりしたキャラクターのほうが得意かもしれないと思ったので、ルールーを演じるときはどうやってアプローチしたらいいか困った記憶があります。なので、ルールー役に決まったときはもちろんうれしかったのですが、その時点では、まだルールーの人となりが見えていなくて、戸惑いましたね。

――ルールーはアンドロイド。クライアス社のアルバイトとして登場したときは、感情の起伏があまりありませんでした。

正直なところ、敵として出てきたときは、ルールー自身が上司から言われて攻撃する、という受け身なキャラクターだったこともあって、演技プランで悩んだりはしませんでした。はなたちと知り合ってから少しずつ感情が芽生えるようになり、そうなると彼女の悩みや心の動きも表現されるようになってきたので、感情がすごくわかりやすくなりました。

――どの程度、感情を出すかという調整は難しくなかったということですか？

そうですね。周りの方のお芝居に合わせる形だったので。『プリキュア』は音響監督の方がいらっしゃるわけではなく、各話の演出の方が音響の演出も務められるので、演出の方によってどうやって感情を出すかの指示が違っているんですね。なので、自分で作りこみすぎず、各話の演出の方の指示を大切にしたので、それほど難しいとは感じませんでした。ルールーって、アンドロイドではあるけれど、ロボットだから無機質な声になるというわけではなく、意味がわかっていない、気持ちがわからないから無機質に聞こえるんだと思うんですね。ですから、アンドロイドであるということは、あまり意識せずに演じました。

――ルールーは、物語が進むにつれて、食いしん坊だったり、お茶目だったりする面も出てきました。

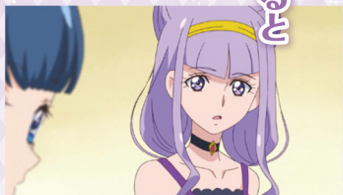
意外と負けず嫌いな面もありましたね。食べ物に関しては、なぜあんなに固執しているのか不思議だったんです。食べなくても生きていける彼女にとって、人間は食べることで生きているというのが重要だと思ったのかな。食べることイコール生きること、みたいな。とはいえ、食べすぎですけどね（笑）。

――ルールーに共感できるところは？

食いしん坊なところは似ていますね。あと、私がオーディションのときに着ていた服が、ルールーの春夏服にそっくりでした。私、オーディションの当日に、実家へ帰る予定があったんです。帰ったあとにサッカーのスタジアムに行くつもりでハーフパンツというラフなスタイルでした。なので、イラストが上がってきたときに「あれ、似ている？」と（笑）。

切なさを感じたえみるとの別れ

――49話で小さいルールーが登場したときは驚きました。

えみるが知っているルールーではないというのは切ないですよね。49話は大団円でハッピーエンドという雰囲気ですが、私と田村奈央ちゃんはちょっと複雑な気持ちがありました。小さいルールーも演じてはいるけれど、気持ちの大半は未来へ帰ったルールーに持っていかれてしまったので、ルールーはどうなってしまったんだろうという気持ちが強かったんです。たぶん、えみるは自分がプリキュアとして一緒に戦ったルールーとは永遠に

会えないんだろうし。ただ、たやすく命が蘇ったりしない、ということを伝えているのかもしれないと思うと、すごく重要なエピソードでもあるなと感じました。はなに関しても、彼女が産んだはぐみちゃんは、はぐたんではないし……と考えると、大人から見るとかなり切ないです。

——今、話題に上がった、はなの出産シーンはどうでしたか？

驚きました。でも、みなさん純粋に受け取ってくださったようで、よかったです。

——えみるへの印象を教えてください。

はなたちのことはちゃんと好きだし、順番をつけるのもどうかなとは思うんですが、やっぱりルールーにとって、えみるは一番の理解者だったと思います。

——後半ではクライアス社のトラウムとの関係にも焦点が当たりました。

えみるとのエピソード、心が芽生えていくところは、私のなかでのルールーの柱ではあったんですけど、トラウムさんと絡んで人間っぽさが出てくるのは、後半の軸だなと感じていました。あのルールーが「トラウムは自分を捨てた」と言い出したり、最終的にわかり合えるようになったりって、すごく大きいなと。クライアス社にいたころのルールーだったら、捨てられたなんて思わなかったと思うんですよ。トラウムさんがいたからこそ、ルールーもひとりの女の子なんだなと感じることができました。

——ほかのキャラクターに対しては、どんな印象がありますか？

私は、はなもさあやも好きですが、とくにほまれが好きなんですね。ほまれの恋心からは目が離せなくて、話が進むにしたがって「ハリーは最低だな」と思っていました(笑)。ハリーはただ鈍感なだけかもしれないけど、その気がないなら女の子にやさしくしちゃいけませんよ。それもあって、はぐたんに対しては、ほまれの恋敵みたいな目で見てしまって。「かわいさも、ちょっとあざといのでは……でもかわいい！」みたいな複雑な気持ちでした。あと、えみるの兄の正人にもずっと注目していました。私は「まさと う」と呼んでいるんですが(笑)、最初はめちゃくちゃ嫌なヤツだった彼が「家族だからって人の心をしばらないでください」と言ったときには、その成長にウルウルして。アンリも達観しているように見えて、じつはそうではなく。そんなふたりが触れ合って互いに支え合う関係がすごく素敵だなと思って見ていました。

——クライアス社の人たちは？

パップルさんやジェロスさんが好きな男性が、じつははなに好意を寄せているとか、切ないなぁと思いましたね。ジェロスさんに対して、ジンジンとタクミが「じいちゃん、ばあちゃんになってもずっと一緒にいましょう」と言ったところも、みなさんのお芝居もあって胸に迫るものがありました。

プリキュアは夏休みの思い出

——本作では、歴代プリキュアとの共演もたびたび描かれました。

ストーリーよりも、アフレコスタジオに人が多すぎて、どのマイクを使ったらいいのか、みんなで混乱していましたね。私、『プリキュア』シリーズは、朝起きられなくて全然観られなかった身なのですが、オーディションを受けた『魔法つかいプリキュア！』はわかったし、『キラキラ☆プリキュアアラモード』の剣城(けんじょう)あきらさんがすごくかっこいいと思って。なんだか歴史の現場に立ち会えているような、ちょっとミーハーな感じでアフレコに臨んでいました（笑）。

——それでは今、大きいルールーに声をかけるとしたら……？

「帰った世界で、えみるに出会えていますか？」。ルールーはえみるに「待っている」と言ったけど、もともとの世界ではえみると知り合えていないはずだから、待たせているえみるもいないんです。でも、私はそちらの未来でも、ルールーがえみるに会えていたらいいなと思います。

——小さいルールーにも、ひと言。

あのルールーは、きっと気持ちも身体も時間どおりに育っていくのだと思うんです。そしてそばには、ずっとえみるがいてくれると思うので、素直にすくすくと育っていってほしいですね。

——アフレコ現場の思い出は？

私、チョコレートが好きなんですが、アフレコが始まってそれほど経っていないころにそれをポロッと漏らしたら、チョコレートの差し入れのなかにホワイトがあると、必ず私のところに届くようになりました。あと、あまりおいしくないというグミのアソートが差し入れられたことがあって。私は食べなかったんですが、みんななぜか「次はおいしいに違いない」と言いながら、食べては「まずっ」と言い続けていたのが面白かったです。

——ほかのキャストは、田村さんに支えてもらったという話をよくしていました。

私は何もしてないです。ひきちゃん(引坂)が迷っていたときはハリー役の野田(順子)さんをはじめ、ちゃんとサポートしてくれる方が多くて。船頭がたくさんいても混乱しちゃうだろうから、私は極力、何も言わないようにしていました。どちらかと言うと、奈央ちゃんがいっぱいいっぱいになったときに「大丈夫です、この子はやれる子です」と周囲に伝える役でしたね。

——では田村さんにとっての「プリキュア」とは、なんでしょうか？

「夏休みの思い出」かな？　大変なこともあったけれど、すごく楽しかったし、みんなでわいわいひとつのことをやったというのが、夏休みっぽいと感じました。

——最後に、読者へメッセージを！

1年間応援してくれて、ありがとうございます。以前から『プリキュア』を観ていた方は、私がプリキュアになったのを喜んでくれましたし、私が出るから『プリキュア』を観ようと言ってくださった方もいて、役者冥利に尽きます。プリキュアに変身した日の朝に（『Go！プリンセスプリキュア』でキュアスカーレットを演じた）沢城みゆきちゃんから「おめでとうございます、観ていました」というメッセージが届いたんです。数か月も連絡を取っていなかったのですが、プリキュアになると、そういう人から連絡が来るんだと、そのくらいすごい作品に関わらせていただけたんだと感じました。

田村ゆかりからプリキュアのみんなへ

引坂理絵さま

ひきちゃんは最初から堂々としている子だという印象でしたが、打ち上げのときに話している姿を見て、本当に1年間みんなを引っ張ってくれたんだなぁと尊敬しました。最初に顔合わせをしたときは、しっかりしなきゃという思いが空回っている様子もなくはなかったんですが、大変さを表に出さないように頑張っている姿勢を見守りたいと思って。本当に「1年間お疲れさまでした」と伝えたいですね。

本泉莉奈さま

本ちゃんは、アフレコ現場で、ずっとひきちゃんの隣で彼女のことを支えてあげているという印象がすごく強かったかな。それから、言葉で説明するのはちょっと難しいけれど、一番お芝居について考えていたのは本ちゃんだったように思っています。お芝居に真剣に向き合うすごさを感じる、そんな役者さんでした。そういうところは、ひとつひとつ、とても尊敬できるなと思いながら、1年間見ていました。

小倉唯さま

唯ちゃんは……かわいかった（笑）。私、本当に唯ちゃんの低めのトーンでするお芝居が大好きなんです。かわいいお芝居も好きなんですが、私のとくに好きな唯ちゃん（のお芝居）を『はぐプリ』が認めてくれたような気がして、ちょっとうれしくて……。ほまれのかっこいいだけじゃない、ふわっとした感じも、唯ちゃんが声を担当したからこそだと思います。ほまれのかわいさは、唯ちゃんのかわいさです！

田村奈央さま

奈央ちゃんは、めちゃくちゃ気を遣っているけど、型破りなところもあって、最初は戸惑いもありました。でも、遠慮なくグイグイ来てくれる感じが、私にはピッタリだったんです。グイグイ来すぎて、面倒くさいなと思う部分も100のうち3くらいはあったけど（笑）、奈央ちゃんがいてくれたからこそ、私もプリキュア5人の輪のなかに少しでも入れたのかなと思っています。本当に、奈央ちゃんが一緒に変身する相方でよかったです。

キャストスペシャルメッセージ

プリキュアを支えたはぐたん＆ハリー＆アンリと、プリキュアの敵・クライアス社のキャラクターを演じた声優陣からのメッセージ！

【多田このみさん＆野田順子さん＆福島潤さん＆染谷俊之さんへの質問】
1.『HUGっと!プリキュア』への出演が決まったときの感想
2.自身が演じたキャラクターの印象
3.役作りで気をつけたこと
4.プリキュアにひと言
5.印象的なセリフや収録時のエピソード
6.最終話まで終わっての感想
7.ファンへのメッセージ
【多田このみさんへの追加質問】
8.キュアトゥモローになった感想
【野田順子さん＆福島潤さんへの追加質問】
8.告白してくれたほまれにひと言

はぐたん／キュアトゥモロー役 多田このみ

1 率直に、とてもとてもうれしかったです。事務所からの電話でオーディションに受かったことを伝えられたのですが、道で飛び跳ねたのを覚えています。子ども番組に関わること、赤ちゃんの役をやること、プリキュアになること。私にとってのいろいろな夢がかないました。合格の電話を受けてから初めての収録まで、毎日はぐたんのことを考えていました。また、『魔法つかいプリキュア！』でお世話になった内藤圭祐Pが『HUGっと!プリキュア』も担当されるということで、安心感とワクワク感がありました。とにかく、楽しみで仕方ありませんでした！

2 第一印象は「かわいい」!! 初めてカラーではぐたんを見たときの衝撃を覚えています。かわいくてかわいくて、ずっと資料の絵を見つめていました。かわいい、ということに関しては最後まで考えは変わりませんでしたね（笑）。ただ、はぐたんはかわいいだけの赤ちゃんではなく、かっこいいところも面白いところもあります。話数が進んでいくと、そういういろいろなはぐたんを観られて楽しかったです。39話でリストルに向かって「ぷいきゅあ、あきらめない！」と叫んだところはとてもかっこよかったです。しかし、44話でさあやのお母さんのれいらに向かって「だいじょうぶよ～」「元気なった～？」と無邪気に言うところは面白かったです（笑）。かわいくてかっこよくて面白いはぐたんは、演じていて本当に楽しかったです！

3 子どもの舌ったらずなしゃべり方がわざとらしくならないように気をつけていました。じつは私のなかで、はぐたんの「プリキュアー！」というセリフは何段階かに分けていました。はぐたんがどれだけしゃべれるか、その時期によって少しだけ変えていました。最初は「ぷぃっきゃー！」。少し成長したら「ぷぃっきゅあー！」。また成長したら「ぷいきゅあー！」。文字にすると難しいのですが、私のなかのイメージはこれですね。もし、視聴者のみなさまのなかで気づいた方がいらっしゃるとうれしいです。友人のお子さんが「ぷぃっきゃー！」と言っていたのを聞いて、それを参考にさせていただきました。玩具の「おしゃべりはぐたん」の声を録っていたときに、佐藤順一SDから「ノビノビ期」の「ママ」の言い方のご指導をいただきました。11話で初めて、本編で「ママ」と言ったときには、玩具の収録のときを思い出して気をつけました。ただ、それ以降は比較的、はぐたんは自由にやらせていただきました。あとはとにかく、はぐたんを「楽しむ」という感じでしょうか。

4 1年間、みなさんの背中を見つめてきました。みんなの背中がかっこいいです！ 大大大好きです！

5 9話で、はぐたんがアバンを担当したのが忘れられません。あのころのはぐたんは「はぎゅ」しか言えなかったので、台本が「はぎゅ」だらけに！ 放送日が4月1日で、公式ホームページもはぐたん一色になりました。楽しくてうれしくて、ホームページを何度も更新して見ていました。楽しい演出をありがとうございました！ 現場はスタッフ・キャスト共に仲がよく、行くのがいつも楽しみでした。プリキュアのみなさんの誕生日直前の収録になると、スタッフの方々がケーキを用意してくれました。キュアアンジュ役の本泉莉奈さんのときは天使の羽が飾られたケーキ、キュアエトワール役の小倉唯さんのときは星が飾られたケーキという感じで、そのキャラクターに合ったかわいいケーキを毎回用意してくださったので、そのケーキを見るのも食べるのも楽しみでした（笑）。ケーキをどのタイミングで出すかスタッフの方とこそこそ打ち合わせたり、ケーキの登場のときにはその場にいるみんなで歌を歌ったりもして、それも楽しい思い出です。ケーキと一緒にプレゼントも渡していたのですが、それはその収録の日までにお誕生日以外のプリキュアのみんなと妖精チームで連絡を取り合って何をプレゼントするか話し合って決めていました。ハリハム・ハリー役の野田さんと福島さんのときもプレゼントを渡しました。「何が好きなんだろう？ 何をプレゼントする？」と話し合って、プレゼントを受け取ってもらったときに喜んでいる姿を見ると、すごくうれしかったです。とくにキュアエール役の引坂理絵さんは中心になって動いてくれたので、とてもありがたかったですね。そんな仲よしの現場が本当に大好きです！

6 1年がものすごいスピードで駆け抜けていきました。最終話を迎えて、改めて私は『HUGっと!プリキュア』という番組や、番組に関わったみなさんが大好きなんだな、と気づかされました。みなさんに会えないのがさびしくて仕方ないんです（笑）。「『はぐプリ』ロス」にかかっています。同じ気持ちになっている方がやはり何人かいて、少人数でも集まって『はぐプリ』のケーキの食べ納め会を開いたり、新年会をやったり。収録が終わっても、けっこう集まっています。1年間の絆ってすごいな、と感じます。本編や映画では妖精チームの憧れの先輩方との合わせゼリフもたくさん経験させていただき、緊張もしましたが、とても貴重な経験でした。最終話の放送が終わってからも『はぐプリ』を観直しているのですが、やっぱりかわいいし面白い！ と思います。こんな素敵な作品に参加させていただいて、感謝しかありません！ 本当にありがとうございます！

7 街ではぐたんを抱いた子を見かけるたびに、イベントなどで夢中になっている子を見るたびに、そして「『HUGっと!プリキュア』観ています」「応援しています」と言っていただけるたびに、幸せと勇気をいただいていました。スタッフの方もキャストの方も素敵な方ばかりで、はぐたんとしてこの1年を過ごせて、本当に本当に幸せでした。これも応援してくださる方々がいてくださったおかげです。本当にありがとうございました。「このシーンが好き！」など、ファンのみなさんと語り合いたいですね。『はぐプリ』は面白い話ばかりなので、またふりかえって観てもらえるとうれしいです。そして、さらに『はぐプリ』への愛を、共に深めましょう！ 『HUGっと!プリキュア パート2』でまたお会いできると信じて！ 本当に、ありがとうございました！

8 はぐたんとはまた違った気合いが入りました。そして、やはり思ったのは「かわいい!!」です。あんなにかわいいプリキュアだったなんて、本当に光栄です。ただ、キュアトゥモローの声が私だと気づかなかった方もけっこういらっしゃったようで……（笑）。私です！ キュアトゥモローはどんな子なのか、というのは座古明史SDからの「ひと言で言うなら、女神」というヒントのみだったので、悩みました。そして収録のときに「おばけに聞こえる」とダメ出しを受けて、さらに悩みました。たくさん悩んだので、ぜひまたキュアトゥモローをやりたいです!! 「プリキュアショー」やおもちゃ売場で、たくさんの子どもたちがプリキュアに夢中になり声援を送っている姿を見てきました。そういう姿を見ていたからこそ、登場シーンは少なくとも、プリキュアであるキュアトゥモローになれたことはとてもうれしかったです。

ハリハム・ハリー役 野田順子

1 「やったー！ 『プリキュア』に決まった!!」というのが率直な感想でした。

2 初めて見た絵のなかに、威嚇して背中が毛羽立っているものがあったので、かわいい「ハリネズミ」だと思っていたのですが、「ハムスターです」とのご説明を受け、「ええー!?」となった印象が残っています（笑）。回が進むにつれて、キャラクターに対する印象が変化するということはありませんでした。

3 はぐたんのお世話係で、はなたちプリキュアのお兄さん的存在。ときには厳しく、ときにはやさしく、みんなを見守る仲間ということを意識していました。また、人間体になるとイケメン（イクメン）になるのですが、「気にせず自由に演じてください」とのご指示をいただいたので、本当に自由に演じさせていただきました。

4 みんなに出会えてよかった！ おおきに!!

5 印象的なセリフは、何をおいても「なんでもできる！ なんでもなれる！」です。大人の階段を上ると忘れてしまいがちなこの気持ちを、この言葉を聞くたびに心に刻んでいました。ハリハム・ハリー自身としては「ネズミちゃうわ！ ハリハム・ハリーさんやっ!!」です。キャラクターソングにも採用されていますし、エピソード中に「なんべん言わせんねん！」と出てくるくらい、小気味よいセリフが印象的でした。アフレコ現場は女子率の多さからかお菓子の宝庫でした。「今日は何があるのかな？♪」と、毎回ワクワクしながらスタジオへ行っていました（笑）。

6 長いようであっという間の1年でした。プリキュア15周年ということで、今までにない試みがたくさんあり、驚きや発見がある作品でしたので、まだ終わりたくない！ という想いが強かったです。

7 1年間たくさんのご声援をありがとうございました！ 放送は終了しましたが、このオフィシャルコンプリートブックでお気に入りのシーンなどをぜひチェックしてくださいね☆ そして、魅力的なクライアス社のみなさんのその後（未来？）も気になりますし、続編を期待したい!! と個人的には思っていますので、これからも『HUGっと！プリキュア』を何卒よろしくお願いいたします♪ なんでもできる！ なんでもなれる！ またね!!

8 想いに応えられへんかったけど、ほんまうれしかった。

ハリハム・ハリー役 福島潤

1 『プリキュア』シリーズへの出演は、僕の声優としての目標のひとつであり夢でした。なので、「『プリキュア』、決まりましたよ」とお話をいただいたときは、飛び上がるほど喜んだのを今でも覚えています。ただこの時点では、まだ役名も設定もわからなかったので、台本が届くまで「どんな役なんだろう？」「敵かな味方かな？」「はたまた同級生の男の子とかかな？」「妖精も男性がやったりするよね!?」とか、いろいろな想像をしながら、収録を今か今かと待っていました（笑）。まさかあんなイケメンのキャラクターに出会うだなんて、このときは思いつきもしていませんでした。

2 僕がハリーに出会ったのは初収録の日、2話のアフレコのときです。台本はいただいていたのですが、キャラクターはまだ見ておらず、セリフだけでイメージを固めていきました。そのときは〝関西弁のちょっとやんちゃな少年！〟だという印象を受けたので、ちょっと幼い感じの芝居を持っていったんです。ところが現場で渡されたハリーの絵を見て驚愕！ 「めっちゃイケメンやん！ しかも、めっちゃ大人やん！」と軽くパニックになりましたね。内心はめっちゃドキドキしながらも「なるほど」とクールに装いながら、頭のなかで必死にプランを練り直しました（笑）。収録のときは修正しすぎて「もうちょっと中身は子どもでいいですよ」と言われたのも、今ではなつかしく楽しい思い出ですね。最初は〝イケメンキャラ！〟という印象だけだったのですが、話数を重ねるにしたがい、ハリーのやさしさや背負った過去、確固たる信念などに触れ、これは見た目がイケメンなんじゃない、心根がイケメンなんだという印象に変わっていきました。

3 役作りで重きを置いたのは、イケメンよりも「お兄さん感」。特別な存在ではなく、いつもそばにいて一緒に笑い、一緒に悩み、一緒に泣いてくれる、そんな身近に感じられるようなお兄さんキャラクターを目指しました。あと大事なのが「イクメン」。はぐたんに向けるセリフには距離感や温かさなど、とくにこだわって演じました。はなちゃんたちにまっすぐ届く「声」、はぐたんを安心させてあげられる「声」、そして何よりも、観てくださっているみなさんの記憶に残る「声」。そんな「声」を理想に、ハリーを全力で演じました。

4 おまえら5人に「なんでもできる、なんでもなれる、みんなが力を合わせればどんなことでも乗り越えていける」って教えてもろた。俺も未来をあきらめへん。未来は無限大や。ほんま、ありがとう！ おおきに！

5 いっぱいあって困りますが（笑）、ひとつずつ紹介するなら、好きなセリフははなちゃんの「これが私のなりたい野乃はなだー！」です。この1年、はなちゃんを演じる引坂ちゃんも、悩みながら、苦しみながらも、強く前を向き成長していく姿を見てきました。48話で言ったこのセリフは、それらの経験や想いがこもった最高のセリフであり、ふたりが完全にシンクロした瞬間だと感じました。うしろで見ていて本当に感動したのを覚えています。好きなシーンはマニアックですが「みんなのカリスマ!? ほまれ師匠はつらいよ」（16話）の土手のシーン。ルールーの「行きなさい！ プリキュアー！」からのバトルは「劇場版か!!」と思うほど美しく、かつすばらしいアクションでワクワクしました。最後のルールー退場のところもドラマチックでしたよね。アフレコ現場で印象に残っているのは、テストのとき、そのシーンで流れる音楽を実際に聴きながら演じさせてもらえること。素敵な音楽を聴きながら演じていると自然と気持ちも盛り上がっていくし、なんだか舞台に立っているような感覚にもなって、すごくやりやすかったです。ほかの現場ではあまり経験がなかったので、新鮮で楽しかったです。思い出も語りつくせませんが、一番はやはり最終話をスタッフ・キャスト一同でリアルタイムに観たことでしょうか。朝早くから集まり、みんなで泣きながら観たあの話数、あの時間は、一生の宝物です。

6 本当は終わったなんて言いたくない、思いたくない、っていうのが本音です。それくらいこの1年は濃密で、楽しくて、かけがえのない時間でした。大好きな人もいっぱいできました。大切な思い出もいっぱいできました。アスパワワがいっぱいの現場でした。だからこそ、あの最終話ができました。「15周年に相応しいプリキュアだった！ 『HUGっと!プリキュア』は最高だった!!」と僕は胸を張って言いたいと思います。

7 最初、僕は『プリキュア』は女の子が観るアニメだと思っていました。でも違っていました。プリキュアは男の子が観たって、大人が観たって面白いアニメでした！ そして面白いだけではなく、いろんなことを考えさせてくれる、明日を信じさせてくれる、夢や勇気を与えてくれる素敵な作品でした!! 僕はこの作品でアスパワワをたくさんもらいました。みなさんはいかがでしたか？ 最後に、みなさんの未来がアスパワワでいっぱいになるように僕も応援します！ フレッフレッみんなー！ 1年間『HUGっと!プリキュア』を応援してくださって、ありがとうございました！ ほんま、おおきに♪

8 うわ！ この質問はめっちゃ難しい！ うーん……ハリーはああ言いましたけど、僕のなかでは「ありがとう」の気持ちでいっぱいでしたね。あんまり語ると、あのシーンが壊れちゃうかもなので、このくらいで許してください（笑）。

若宮アンリ役 染谷俊之

1 まさか自分が『プリキュア』に出させていただけるなんて夢にも思わなかったので、とても驚きました。お話をいただいたときに、「僕が……プリキュアに？」って、さも自分がプリキュアになったかのように言ってしまったのを覚えています。

2 最初の印象は、思ったことをストレートに言ってしまって、でもその言っていることは間違っていないので、「なんとも言えないキャラだなぁ？」と思っていたのですが、はなたちと関わってからどんどんアンリが成長していって、水と油だと思っていた正人と最後はあんなに仲よくなっているのが、微笑ましかったです。

3 すごく芯のあるキャラクターで、名言のようなことを多々言うのですが、そのセリフを、当たり前のようにしゃべろうと心がけました。アフレコ中はほとんどセリフを覚えて、台本はあんまり見ないようにして挑みました。

4 アンリだったら、きっと素直じゃないので、感謝の気持ちを伝えるよりも「またね～」とか言いそうな気がします☆ その「またね～」には、「どうせまたすぐ会うでしょ？」とか「これからもよろしくね～」とか、いろいろな意味が含まれていそうな気がします。

6 毎週、作品から伝わるストレートなメッセージが胸に刺さり、忘れかけていた気持ちをたくさん思い出させていただきました。本当に素敵な作品に携わらせていただけて、若宮アンリというキャラクターに出会えて、とても幸せでした。

7 「なんでもできる！ なんでもなれる！」もし、つらいこと、悲しいこと、悩むことなどがありましたら、このセリフを思い出してみてください☆ この作品が、みなさんの心にずっと残る作品であればうれしいです。

【クライアス社のみなさんへの質問】
1.『HUGっと!プリキュア』への出演が決まったときの感想
2.自身が演じたキャラクターの印象
3.役作りで気をつけたこと
4.印象的なセリフや収録時のエピソード
5.最終話まで終わっての感想
6.ファンへのメッセージ
【森田順平さんへの追加質問】
7.はなに対してひと言

ジョージ・クライ役 森田順平

1 『プリキュア』は、現在高校1年生の娘が幼稚園時代『ふたりはプリキュア Splash☆Star』から3年ほどはまっていた作品で、そのシリーズに出演できるなんて、ことのほかうれしかったです。

2 なんと言ってもラスボスですからね。陰うつな二枚目のキャラと鬼のような恐い顔のキャラがどう結びつくんだろうと思いました。当初、謎の男として登場してきた

ときから、その実体がわかったときも、そして、はなやはぐたんとの関係性がわかってからも、基本的には印象は変わりませんでした。

3 若めの声で作っていくことは心がけました。はなに声をかけるシーンで「もっと色っぽくお願いします」と言われたときは面白かったですね。おかげで、ジョージ・クライは決してドライではなく、心の傷を深く背負った、湿っぽいところがあるということを認識できました。

4 印象的なセリフはもちろん「また会えたね」と「またね」ですね。エピソードではなんといってもラス前の話数（48話）の最終対決。ジョージ・クライがすべてを吐き出すところです。あと、全15作のプリキュアが総出演したときのスタジオはにぎやかでした。楽しかったです。

5 全話数の半分くらいの出演でしたけど、もう少しみなさんと関わりたかったですね。また、悪が会社組織だというのも珍しくて面白かったです。「クライアス社に栄光を！」（笑）

6 今までになくメッセージ性の高い作品だったと思います。賛否が分かれるシーンなどもありましたが、佐藤さん、座古さん、シリーズ構成の坪田（文）さんの切なる想いがこめられていて、こちらも演じがいがありました。1年間、応援ありがとうございました。「共に変わらぬ永遠を!!」

7 その純粋さを忘れることなく、新しい時系列でも幸せに暮らしていってほしいです。引坂さん、素敵でしたヨ。

ドクター・トラウム役 土師孝也

1 こんなオッサンに、なんのご用？

2 思っていたとおりのキャラでした。人間には表と裏がある。そのことを意識してやっていました。

3 スタッフからは、「面白くお願いします」と言われましたね。「簡単に言うなよ！」と腹で思っていました（笑）。

4 その場で思いついたアドリブやら、考えていったギャグも入れました。大人になり、成長した（ルールー役の）田村ゆかりさんのセリフに、何度か心が動きました。

5 若い娘さんたちの精いっぱいの表現に、錆びついたオッサンも乗せられ、楽しくさわやかな現場でした。

6 子どももやがて大人になり、年老いていく。子どもは昔の自分であり、老人は未来の自分でもある。お年寄りに、席を譲りましょう。

リストル役 三木眞一郎

1 まさか!! ホントに!? うれしいんですけど……。

2 中間管理職か……。印象はかなり変化しました。

3 ナイショ。

4 39話でしょうか。スタジオでは、クライアス社はみんな同志だったと思います。

5 ふぅ～。いろいろ、ふぅ～。

6 最後までご覧いただいたみなさま、ありがとうございました。参加させていただいていた身としては、とても貴重でステキな経験をさせていただきました。みなさまにも、ステキな「作品」として記憶に残していただければうれしいです。

チャラリート役 落合福嗣

1 娘ふたりがちょうど「プリキュア」ストライク世代なので、決まったときはすごくうれしかったです。でも敵だったので、長女はアフレコに出かけるとき、必ず「プリキュアをあまりいじめないでね？ でも、ちゃんと帰ってきてね」って毎回言っていたのを思い出します。

2 1話からチャラさを爆発させていたチャラリートですが、ところどころ人のいいところや真面目な部分が垣間見えて、回が進むごとにどんどん魅力的なキャラクターになる印象でした。

3 チャラさの裏にある真面目な部分を決して忘れないように、頭の片隅に引っかけておきながら演じました。

4 11話の撃退されるシーンが印象的です。あそこでチャラリートの心の内が吐露されるのですが、あのアフレコの日は、いつも以上に精神的にもドっとくるものがあって「ふぁー！ 帰りにおいしいもの食べよー！」ってなりました。現場は和気あいあいとしていて、とくにクライアス社のみなさんが素敵すぎました！

5 「終わってしまった」というのが率直な感想です。やはり僕らは未来に帰る立場なので、さびしかったですね。さらに未来に帰ったあとの彼がどうなるのか、戻った先の未来はどうなっているのか……すごくすごく気になります。スピンオフを熱望しています！

6 1年間、応援ありがとうございました！ プリキュア同様にクライアス社を愛してくれる方々が多く、とても幸せな1年でした。今回の「クライアス社」、子ども以上に大人が感情移入してしまうような敵だったと思います。残業があったり、領収書を切ったり、直帰したり……。僕もとても素敵なチャラリートくんに出会えてよかったです！ それでは登録者25人＋たーくさんのみなさま！ 1年間、ほんとにほんとにサンキュウでぃー――っす☆

パップル役 大原さやか

1 今までゲスト出演させていただいたことはあったのですが、声優人生のなかで一度はレギュラーとして関わってみたいとずっと憧れていた作品だったので、「決まりました」とマネージャーの方から連絡をいただいたときは、飛び上がるくらいうれしかったです！

2 名前の由来にもなっているようですが、バブリーだなと（笑）。濃いメイクにボディコンに扇子という、バブル世代にはなつかしく、それ以降の世代には強烈なインパクトのあるビジュアルだったので、見た目の個性に負けないように芝居も肉付けしていかねばと気合いが入りました。でも外見の派手さとは裏腹に、ときにコミカルだったり、女性らしい繊細な表情を見せることも増えたりと、どんどん彼女が愛おしくなっていきました。

3 プリキュアたちを追いつめる敵キャラとしてのクールで残酷な一面と、恋する大人の女性の哀しみや嫉妬や焦りを垣間見せる一面、そしてバブル時代の言葉を駆使してハイテンションに振る舞う一面と、それぞれメリハリが出るよう意識していました。

4 印象に残っているのは、やはりパップル自身がオシマイダー化したときのお話でしょうか。愛する人にまさかの形で裏切られ、愛されなかったと涙をこぼす哀しい恋の結末に、「これ子ども番組だよね？」と現場がザワつくほどの大人っぽい臨場感がありました。パップルのお当番回でもあったので少し緊張していたのですが、アフレコ当日にリストル役の三木さんが「今日はパップルにとって大事な回だから」と私の好きなブランドのチョコレートをプレゼントしてくださり、感激しました。最高の上司だなと（笑）。あとは最終話前にみんなで戦うシーン！「大人だってなんでもできる！ なんでもなれるんだから！」というセリフをいただけたことは最高のご褒美でした。胸が熱くなりました。

5 敵キャラとして登場したにもかかわらず、最高の形で最終話まで出演できて本当に幸せでした。感謝の気持ちでいっぱいです。最終話はリアルタイムで視聴したのですが、みんなの輝く未来がまぶしくて愛おしくて。観終わったあとも、しばらく涙が止まりませんでした。すばらしい1年でした！

6 最後まで応援してくださったみなさん、本当にありがとうございました！「はぐプリ」は15周年というスペシャルな年にふさわしいチャレンジとパワーとめいっぱいの愛に満ちた、忘れられないシリーズになったと思います。元クライアス社社員一同、MA社員一同の絆も強固なものとなりました。またいつか、お目にかかれる日を楽しみにしています……♪

ダイガン役 町田政則

1 出演が決まったと聞いたとき、ビックリして椅子から転げ落ちました。

2 嫌な人間。それが、だんだんと愛すべき人間・キャラクターになっていきました。

3 前半は嫌われるようにして、後半は愛すべきオヤジキャラになるよう意識しました。

4 「私がやったら5分で終わる」がログセだったが、いざ対決しようと思ったら何もできず、ドクター・トラウムに一瞬でやられてしまうシーンが、とても印象に残っています。

5 あっという間の楽しい1年でした。

6 1年間ありがとうございました。「プリキュア」は永遠に不滅です。

ジェロス役 甲斐田裕子

1 15周年という記念すべきタイミングで、ついに「プリキュア」に参加できることがとてもうれしかったです！

2 けっこうカラフル！ そしてかわいい。女であることを武器に使って、英語を多用し、ときに物怖じせず皮肉を言ったりする姿は、自分自身にはあまりないところなので、キャラを作るのにしばらく苦労しました。でも老いを恐れて焦ったり、孤独を感じたりと変化していく彼女には親近感を覚え、応援したり助言したりしたくなりました。

3 かわいらしさの表現を見つけるのに、自分のなかの引き出しをたくさん開けました。ふだんとひと味違った役をいただけるのは、戦いがいがあってとても楽しく、勉強にもなりました。

4 「はぐプリ」は大人の心にも衝撃を与え、沁み入るセリフや展開が毎話あって、毎週唸りながら涙しながらそばで観ています。いろんな家族の形、愛の形、自分の心をしばらないこと、多くのことを演じながら学ばせてもらいました。とくに私が好きなのは、ルールー。心を持たないアンドロイドが、人間以上に表情豊かな心を持つようになり、トラウムと親子漫才までする姿、ルールーとえみるの関係はステキでした。「あなたを愛し、わたしを愛する」ジェロスにも必要な言葉でした。

5 「脚本が本当に見事だなぁ！」といつも思っていました。スタジオにもスタッフの愛があふれている。私は途中からの参加だったので、半分くらいしかその空気を感じられなかったのが少し残念ですが、この「はぐプリ」の一員になれて、とても幸せでした！「私も、もう一度!!」

6 子どもたちへと同じくらい、大人たちにもたくさんのメッセージがふんだんにこめられた作品でした。子どもたちが大きくなったら、またもう一度観てほしい、そんな歴史に残る作品だと思います。DVDに手紙を添えて、「いつか挫折を感じて悲しくなる日が来たら、これを観てね」。

ジンジン役 小島よしお

1 「まさか！」と思ったと同時にものすごくうれしかったです。子ども向けにライブをやっているのですが、将来の夢を聞くと、どの会場でも必ず「プリキュア」と答える女の子がいます。その「プリキュア」に出られるなんて！

2 すげーイケメンだなと。今までコントなどでも一度も演じたことのないタイプのキャラクターでした。初めは違和感があって、「あれ、どっちがタクミでどっちがジンジン？」なんて思っていましたが、終わるころにはキャラと一体化していました。

3 自分のなかで精いっぱいのイケボを出そうとしました。スタッフの方からは「慌てないでください」と言われました。

4 かしこまり!! 全員集まって声を入れるというやり方に初めはすごく戸惑いました。先輩の髭さんがいてくれて心強かった（僕より気持ちテンパっていた）。最終話でプリキュアの声優の方5人が着ている服の色がプリキュアと一緒で、本当にプリキュアに見えた。僕と男爵は、僕と男爵だった。

5 とても貴重なすばらしい体験をさせてもらいました。みなさんのプロ意識を間近で見せてもらえて本当にいい刺激になりました。打ち上げに出たかったです。

6 ご視聴ありがとうございました。え？ キャラクターのイメージと僕のイメージがかけ離れてるって!? そんなの関係ねえ！ 温かい目で見守りいただき、ありがとうございました！ ピーヤー!!

タクミ役 山田ルイ53世（髭男爵）

1 今年、小学校にあがる我が娘は、数作前から「プリキュア」シリーズの大ファン。おかげで、ずいぶんと玩具もねだられました。「HUGっと！プリキュア」への出演は、その費用をギャラとして直接回収できる絶好の機会……というのは洒落ですが、長く支持されている大人気作品に招聘されたことは、率直にうれしく光栄でした。

2 自分で言うのもなんですが、〝声のお仕事〟の経験は少なくなく、そのどれもが概ね好評を得ており、正直、自信がありました。しかし最初に自分が演じることになったタクミのイメージ画を見せられた際は、「いや、めっちゃイケメンやん!?」との戸惑いが。それまで、声優や役者の仕事をする際、与えられる役柄といえば、〝博士〟とか〝番長〟とか〝将軍〟といったものがほとんど。そもそも、本業が〝貴族〟です。オファーの傾向が偏るのも致し方ないことですが、タクミのような〝シュッとした若者〟に扮するのは初めてで、実際、苦労しました。最終的には、「いや、男前だからと言って、声もそうだとは限らない！」と開き直ってアフレコに臨んでいました。

3 基本的にSDは、「自由にやってください！」というスタンスでありがたかったです。ただ一点、「もっと若い感じで！」というご指示は幾度となく受けました。もちろん、ベストは尽くしましたが、ご要望どおりできたかは……。共演の声優陣の方々からのアドバイスやフォローには毎回、助けられました。感謝しております。

4 一番印象に残っているのは、座長・引坂さんの熱演。全身を使った、飛び跳ねるようなお芝居は、声優というより、もはや俳優、役者でした。あまりの迫力に、目頭が熱くなることもしばしば。今後とも陰ながら彼女を応援していきたい、そう強く思いました。あと、積極的に発信こそしていませんが、じつは当方かなりのアニメ好き。たくさんの作品を鑑賞してきましたが、さすが「プリキュア」……収録現場には名だたる声優の方がごろごろといたため、〝オタクな部分〟が刺激される瞬間がありました。「とある科学の超電磁砲」の黒子こと新井里美さんや、映画「ハリー・ポッター」のスネイプ先生役でおなじみ、土師孝也さんの演技中、「あれ!? この声、聴いたことがあるな……」という〝耳デジャブ〟に何度も襲われ、ミーハーな気持ちを抑えるのにひと苦労。なかでも、ジンジンとタクミがお仕えしたジェロスさまこと甲斐田裕子さんが、1話から最終話まで数年にわたって観続けた海外ドラマ「ゴシップガール」の主人公・セリーナだと判明したときの衝撃はすさまじく、20年以上芸能界にいて、こちらからお願いしたことなど一度もなかった、「共演者とのツーショット写真」をねだったほど。いい現場でした。

5 以前、「天装戦隊ゴセイジャー」に博士役でレギュラー出演していたとき以来の〝大泉〟通いでしたし、何よりすばらしいコンセプトの作品に参加できて本当に光栄でした。先述のとおり、僕の娘は「プリキュア」シリーズの大ファン。「はぐプリ」では、ルールー推しでした。まさか自分の子どもが憧れる相手と戦う羽目になるとは……と因果を覚えました。とは言え、最終的には父も無事プリキュアになれたのでホッとしております。

6 「一発屋でもプリキュアになれる！」。この言葉を胸に、残りの人生を歩んでいきます。応援していただき、ありがとうございました。

ビシン役 新井里美

1 「魔法つかいプリキュア！」では、プリキュア側の魔法の水晶さんをやらせていただいていましたが、今回は敵での登場、しかも、珍しい男の子役ということで、自分でもどうなるのかと、ドキドキしました。

2 美少年だ……（汗）。いや！ きっとスタッフのみなさんは（美少年の声を）やれるはずだと思ってキャスティングをしてくださっているんだから、思いっきりやろうと……！ 回を重ねるうちに、とてもシンプルに、ビシンくんを演じられるようになりました。と同時に、彼の将来が心配で心配で、たまらなくなりました。

3 （ビシンの）初登場時に、SDの座古さんから「かわいさがあっていいと思います！」と言っていただき、美少年役への気負いがだいぶなくなりました（笑）。ほかのスタッフの方からは「狂気を！」という要望をいただきましたので、思いっきりいかせていただきました！

4 キュアエトワールに「おまえなんか嫌いなんだよ」と何回も何回も言いましたね～。ビシンくんの嫉妬心がストレートに伝わると同時に、座古SDの言葉がしっくりきました。ハリーに対する想いは恋ではないけれど、ハリーには自分だけを見てほしい……！ ビシンくんはとても愛しいヤツなのです。

5 敵チーム、もう、最高でしたね!!! クライアス社になら、人生を捧げますよ。社員メンバーが魅力的でした。それから……。最終話のはなちゃんの出産はすごかった。一緒にハーハーしてしまった。将来、お母さんになるかもしれない女の子たちは、何を感じたのか。「はぐプリ」って、すごい……！

6 今回、美少年ビシンくんをやらせていただいたおかげで、女の子ではなく、女性からの応援をたくさんいただきました。モテる男の子の気持ちが少しわかった気がします。こういうのもいいですな。みなさま、「はぐプリ」、そして!! 我がクライアス社への応援、ありがとうございました。

【シリーズディレクター】

佐藤順一 × 座古明史

【シリーズディレクター】

スタッフが製作の裏側について語り尽くす!

Profile

【さとう・じゅんいち】アニメ演出家、アニメ監督。主なアニメの担当作品は、『あまんちゅ!』『あまんちゅ!〜あどばんす〜』(総監督)、『たまゆら〜hitotose〜』『たまゆら〜もあぐれっしぶ〜』(原作・監督・シリーズ構成など)など。

Profile

【ざこ・あきふみ】アニメ演出家、アニメ監督。東映アニメーション所属。主なアニメの担当作品は、『フレッシュプリキュア!』(シリーズディレクター)、『トリコ』(シリーズディレクター)など。

子どもたちに未来の可能性を伝えたい

――『HUGっと!プリキュア』は、シリーズディレクター(SD)がふたり体制となった作品でした。

佐藤　先に僕へお声がけをいただいていたのですが、「ひとりだと無理なので助っ人をください」とお願いしました。

座古　僕は、サトジュンさん(佐藤順一SD)がSDをやられると聞いて、「ぜひ、やらせてください!」と食い気味で承諾しました。

佐藤　僕と一緒だと嫌だと言う人のほうが多いんですが……(笑)。

座古　呼んでくださったら、いつでもやりますよ!

佐藤　でもきっと、3回くらい一緒に仕事をすると嫌だって言うと思うよ。

――ふたり体制ということで担当の配分というのは決められていたのですか?

佐藤　厳密にどちらがどちら、と決まっていたわけではないです。ただ、僕が現場に入って、細かくチェックをしたり具体的な指示出しをしたりできない状況だったので、現場を仕切るスキルがある人をとお願いしたんですね。それもあって、僕がシナリオとアフレコ、ダビング周りを見て、座古くんにはもちろん、それを含みつつ、現場全般をお願いするというスタイルになっていきました。

座古　そうですね。僕は現場にいて、ほかのスタッフのみなさんの意見を集約するのが主な役割でした。会社にはちゃんとサトジュンさんのデスクがあるんですが、ご本人がなかなか座らなかったのが印象深いです。

佐藤　気がついたら物置になっていくんだよね。

座古　僕はいつも「サトジュンさんの机だぞ!?」って思っていましたよ(笑)。

――今回のシリーズの設定は、ほぼ脚本の坪田文さんが考えたとうかがいました。

佐藤　そうですね。まだタイトルが決まる前から、どういう方向性の物語にするかは、内藤圭祐プロデューサー(P)と坪田さんの間でだいたい決まっていました。ディレクターとしては、それを受け取ってどうするかを考えましたね。『プリキュア』の視聴対象年齢って、まだ3〜6歳くらいだということもあって、「未来」と言われても、よくわからないんですよ。彼女たちは「大人になったら何になりたい?」と聞かれたときに「ドーナツになりたい」と答えるような年齢ですから。だから、明確に何かを訴えるのではなくて、自分たちの将来にこういうビジョンがあるんだということが、うっすらわかるくらいに伝えられたらいいかなと思いました。

座古　僕は、おおざっぱになってしまいますが「人間って美しい」というものが感じられたらいいかなと思っていました。

佐藤　座古くんのそのピュアさは、お話のなかで職業を扱うときに出てきたよね。「職業に貴賤はない!」みたいな。

座古　たまに変なスイッチが入ってしまうんですよ。

――職業の話というと10話ですね。たこ焼き店だっていいものだよということが伝わってきました。

座古　ほまれやさあやがやっていたような華やかなものだけじゃなくて、はながやったたこ焼き店だって素敵なんだよというのが、子どもたちに伝わっていたらうれしいです。

視聴者の目線になる小学生のキャラクター

――SDからは、キャラクターの性格などについて何か意見を言ったことはあったのでしょうか?

佐藤　坪田さんのなかに確固としたものがあったので、性格的な部分では、何も言っていません。僕たちは、それを文章にしてもらって書ききれていないなというものがあるか探るような形で作業をしていました。坪田さんは、物語の柱を作ってから書かれるタイプで、何回か「何か意見はありませんか?」と聞かれましたね。でも僕たちは、「とりあえず出してもらっていいですか」と伝えました。

――小学生のプリキュアを出したいと提案したのは、佐藤SDだと聞きました。

佐藤　それはたしかに僕が言いました。『プリキュア』の視聴ターゲットである3〜6歳くらいの子にとって、中学生は完全なお姉さんで、彼女たちから見たら大人と大差がないんです。はなたち中学生のなかに幼稚園や小学校低学年の子を入れると、視聴者の目線に近くなる。だから、プリキュアであろうとなかろうと、年齢の低い子を入れたいなと思っていました。それがプリキュアなら、なおよし、くらいの気持ちでしたね。

――だから、えみるは当初からプリキュアに憧れていたのでしょうか?

佐藤　視聴者の目線という意味では、そうです。たとえば『美少女戦士セーラームーン』に〝ちびうさ〟というキャラクターがいるのですが、彼女は主人公のときよりも、サブに回ったときのほうが、人気があったんですよ。それは、子どもたちがちびうさの目線で物語を観ているから。『おジャ魔女どれみ』にも主人公の妹が出てくるのはそういう理由なんです。そういった経験から、視聴者の目線に近いキャラクターの大切さはわかっているつもりだったのでお願いしました。

――座古SDからは、とくに意見や提案したことはありましたか?

座古　子ども向け番組なので、あまり暗くなりすぎないようにということだけはお伝えしました。これはサトジュンさんも気にされていたことですが、物語を真面目にやろうとすればするほど、エピソードやキャラクターが落ちこんでしまうことが多いんですね。それは避けたいなと。それもあって、はながとびきり明るくめげないキャラクターになっているんですが、僕はそこにサトジュンさんの明るさが注入されていると思っています。

佐藤　根は暗いんですけどね(笑)。

座古　そうなんですか?(笑)それはともかくとして、真面目で芯のあるエピソードでも、あえて前半は明るくわちゃわちゃした感じにしてみて、子どもがいつもちゃんと観ていられるバランスというのを意識してもらいました。でも、それ以外の各話のエピソードに関しては、坪田さんのなかで決まっていたままだと思います。ただ、はなのおばあちゃんが和菓子店を営んでいるというのは、僕の案でした。それから、はなの妹・ことりの話を「姉妹の憧れ」にできたらという提案もしましたね。あと、製作が始まった最初のころに「みんながプリキュアになるのが僕の夢なんだ」と言っていたら完全にスルーされていたんですが、48話で本当にみんながプリキュアになって。す

『はぐプリ』で描いたことがいつか子どもたちに伝わっていればうれしい（佐藤）

ごくうれしかったです。

——座古さんは、なぜみんなをプリキュアにしたかったのですか？

座古　僕は、「ひとりの英雄が世界を救うのではなく、みんなで手を取り合ってなんとかする」という考えが好きなんです。みんなが手をつなぎ合っていく作品を素敵だと思っていますし、今まで自分が関わってきた作品はそういう着地点になることが多いんですね。たぶん、人間のそういうところが好きだし、そこに人類の希望があると思っていて。

佐藤　「プリキュアとは何か」っていう話になってくるんだよね。それが座古くんにとっては「希望」であると。

座古　禅問答みたいになってますけどね。

佐藤　僕は『プリキュア』という作品にほとんど関わってきていないから、「プリキュアとはなんなのか」というのを自分でもつかみかねているところがあったんですよ。〝女神〟ではないし、一方でみんながなれるものってなんなんだと。

座古　『はぐプリ』に関しては坪田さんの「なりたい自分になる」という考えを中心として、その気持ちがあれば、みんながプリキュアになれるという着地点に落ち着きました。僕はその着地が、とてもすばらしいものだったと思っています。

30分間、飽きずに観てもらえる工夫

——若宮アンリのエピソードは、放送直後、世間で話題になりました。どのような経緯で生まれたのですか？

佐藤　アンリがプリキュアになる話は、彼が登場して少し経ったころから話に出ていました。ただ、僕は坪田さんがどういう意図でそれを考えているのか、読めないところがあったんです。プロットでもまだ見えなくて、シナリオになったときにようやく理解しました。そうだったのかと。『はぐプリ』は「なりたい自分」や「応援」が作品のテーマだと思っているんですが、アンリはそもそも人の価値を否定する人間です。「誰かの価値にしばられて生きるのは嫌だ」「応援なんて誰でもできる」と言ってしまう。でも、彼がケガをしたことで、あるべき若宮アンリの価値は自分のなかにあり、自分をしばっているのは自分だとわかる。さらに、若宮アンリの価値もたくさんの人が応援してくれたことで生まれたと気づいて、みんなの応援を受け入れる、そういう話なんです。彼の価値観は1話のなかで3回くらい変わっているんですよ。価値観の変化を描きたかったのかと気づいたときに、自分の考えがまるで及んでいなかったことを思い知って、ライターというのは恐ろしいなと思いました。

　インターネットでは男の子がプリキュアになったということしか取り上げられていませんが、あれは「アンリがなりたい自分になる」というテーマを、男の子がプリキュアになるという意外性も踏まえて構築されているんですね。

——つまり、アンリは「なりたい自分」になっただけである。あのときの彼は、プリキュアになりたくて、それをかなえただけということですね。

座古　そうですね。たしかに、シリーズのなかでいわゆる〝正規メンバー〟ではないキャラクターがプリキュアになったのは初めてです。でも、このシリーズで描いている「自分のやりたいこと」「自分らしさ」という視点から見ると、自分らしさと自分の存在のあり方に目覚めた人間がプリキュアになるというのは、すごく自然なことなんですよ。だから僕は、そろそろアンリがプリキュアを名乗ってもいいころだな、という気持ちでした。

佐藤　男の子がプリキュアになったという視点でしか観なくなると、ほかの視点が探せなくなってしまうんですよ。

座古　もちろん「ジェンダー」の問題はみんなで考えたほうがいいことではあると思います。でも、彼が「なりたい自分」になったというところからはずれて議論してしまうのは、もったいないかなとも思ってしまいます。

佐藤　でも、そういった大人たちの議論をよそに、ターゲットの子どもたちのなかから「アンリくんがプリキュアになってよかったね」という声も上がっているので、ちゃんと届けたいところに想いは届いていると感じています。僕は昔から、子ども向け作品をやるときは、サイレントマジョリティーが大事だと教わってきましたから。耳にしやすい大きな意見を聞くと間違えてしまうので、声を出さない子どもたちの声を聞かねばならない。それもあって、今回も、全体の視聴率よりも毎分の視聴率が落ちていかないか、まっすぐ伸びていくか、もしくはちゃんと最後に向けて上がるのかということをすごく意識しました。話数のなかには、インターネットでの人気が高くても、後半に進むにつれて4～6歳女児の視聴率が下がっていくものもあるんです。それは、子どもたちにヒットしていないから。その見極めは大事ですね。

座古　子どもたちが30分間、飽きずに観られるということが大事なんですよね。

佐藤　子どもって怖いですからね。

座古　反応がダイレクトですから。

——30分間、最後まで子どもたちに観てもらうために取り入れた工夫は？

佐藤　子どもたちが観るものを作るときには、TVの外にも彼女たちの興味の対象はいっぱいあるということを、まず感じておかないといけません。だから、TVのなかに興味を持ってもらえるような仕掛けが必要になる。それでハイターゲット向けの作品ではやらないような、「あ、あれはなんだ！」といったセリフや、目立つ音を入れるようにしているんです。〝子どもだまし〟と言われようとも、それは必要なものなんです。

座古　画面を暗くしないようにすることでしょうか。暗くなると、子どもたちが泣き出してしまうことも多いんです。なので、暗い部屋でもキャラクターの色をノーマルに近いままにしていたりします。それから、何か恐ろしいものを描くときには、ある程度は抽象的にする。子どもたちが怖いものを必ずしも嫌がるわけではないのですが、怖がりすぎないように怖さの程度をどうやって画面に反映していくかは配慮しています。僕は基本的に、自分が子どものころに観ていて苦手だなと思った感覚を頼りにしています。

——たとえば、オシマイダーが丸みのある少しコミカルなスタイルなのも、子どものことを考えているからですか？

佐藤　そうですね。もちろん、怖い描写のときは音楽を含めて怖くしますよ。ただ、オシマイダーみたいな存在が敵ですから、思っているよりは怖くはない世界なのかなと。

座古　子どもは怖いもの見たさみたいなものも持っているので、そのバランスは

みんながプリキュアになるという夢がかないました（座古）

大切ですよね。ただ、僕としてはやはり残虐なものを見せたくない。

佐藤　昔の特撮は、かなり残酷なこともやっていたけどね。

座古　そこが時代ですかね。悪役が悪いことをしているというのは、わかりやすく記号的に描かなきゃいけないと思っているんですが。

はなを軸に選んだキャストオーディション

――プリキュアのキャストはオーディションで決められていますよね。

佐藤　そうです。とはいえ僕は、15年分すべてを観ているわけではないから、誰がプリキュアになったことがあるかわからない。なので、あまり被りとかは気にせずにオーディションをしましたよ。オーディションをやっていくと、似た雰囲気の役者が続くなかで、ふと個性がある子が出てくることがあるんです。それをいかに見つけるかだと思っています。

――はな／キュアエール役に引坂さんを選んだ決め手は、なんでしょうか？

佐藤　引坂さんは、個性がすごいとか、技術が飛び抜けてすばらしいというわけではなかったけど、本人とはなの成長がシンクロできるんじゃないかという期待も含めて選びました。はなが決まってから、彼女を軸にしてほかのキャストを決めていきました。

座古　オーディションは、スタッフみんなで話し合って決めるんですが、最終的にはキャラクターと本人の人間性が合致するかというのも大きいですよね。とはいえ、オーディションの段階では僕たちも役者の方の性格を読みきれているわけではないので、雰囲気の面もありますが。

――ルールー役の田村ゆかりさんは、ほかのキャストと比べるとベテランです。

佐藤　5人のなかにベテランを入れようと思って彼女を選んだわけではなく、これもきちんと声を聞いて決めました。彼女に決まったときには、まだスキルがそれほど高くないほかのキャストの面倒を見てくれたらいいなぁとか、我々の指示で困惑してしまっていたら、それをサポートしてくれたらいいなぁ、なんて思っていましたが、それを見事にやってくれたんですよ。そういう意味では、ほかの4人をまとめてくれて助かりました。

――ほまれ役の小倉唯さんは、これまで彼女が演じてきたキャラクターのタイプとはだいぶ違っていたので、発表されたときには世間的にも話題になりました。

佐藤　僕は演技というのはナチュラルが一番だと思っているんですね。でも、小倉さんは最初からあの声を作ってきていましたし、それがとてもほまれらしかったので、彼女に決めました。ノドに負担をかける芝居だし、しんどいだろうとは思ったのですが、「自分が作ってきたのだから、よろしくね」という感じでしたね。技の叫びなども大変だったと思いますが、頑張ってくれました。

――さあややえみるについては？

座古　僕はさあやのことを「やさしさサラウンドな子」だと思っているんです。全方位的にやさしさを感じさせる声だったのが本泉さんでした。ちょっとした強さが入っているのもポイントでしたね。

佐藤　思った以上に芯の強さみたいなものがあったよね。さあやって、最初のプランでは、そこまで芯が強かったり、負けず嫌いというイメージではなかったんです。でも、本泉さんの声を聞くうちに、じつは芯が強い勝ち気なところもあるのではないだろうかと決まっていきました。えみるは、全体でお笑いに振りたいキャラだったので、ちょっと変わった人がいいなと思って田村奈央さんを選びました。

座古　もちろん、いい意味で変わっているということですよ。

――はぐたんもオーディションによって決定したのですか？

佐藤　そうですね。赤ちゃんの演技をしてもらったとき、定番の「おぎゃー」とか「ほぎゃー」とかの方が多いなか、いろいろ研究している人が何人かいて。そのなかから、多田さんを選びました。

座古　僕は、多田さんの声には〝シズル感〟がある気がするんですよ。よだれを含んでいるような感じがしませんか？

佐藤　〝シズル感〟の意味がちょっと違う気がするけど、たしかに赤ちゃんっぽい〝じゅるじゅる感〟はあるかな。

みんながマネできる変身のポージング

――変身シーンは、佐藤SDがコンテを切られたそうですね。

佐藤　引き出しは空っぽでしたけどね。

座古　と言いながら、オーダーがあってから3日で作ってくるところがサトジュンさんのすごいところですよ。僕がサトジュンさんの描く変身シーンを観たかったんです。

佐藤　今回の変身シーンで難しかったのは、玩具との兼ね合いで「プリハートを温める」「液晶が光る」というのをかっこよく入れなければならないことでした。

座古　何回、光が点滅するのかを、玩具を見ながら研究しましたよね。

佐藤　そうそう。僕は今回オファーをされたときに「シリーズ15周年だから新しい要素を入れたい」とも言われたんです。それで僕にお願いしたいんだと。でも、僕は新しいことをするよりは原点に戻ったほうがいいのではないかと思っていたんですね。変身もそう。綺麗でかわいくて、ポーズをマネしたくなるということをポイントに考えていきました。変身シーンを考えるときに、過去のシリーズの映像も拝見したのですが、だんだん動きが複雑になってきているように感じたんです。それで、まず子どもたちがマネできるようなシンプルなスタイルのキュアエールを考えて、そこからキュアアンジュ、キュアエトワールと広げていきました。ただ、やっぱり「は～ぎゅ～～！」のシーンは難しかった。

座古　プリハートもキャラクターの顔も、両方見せたいから厳しいですよね。プリハートを微妙にななめに持って構えているのは、そのためなんですね。

――キュアマシェリとキュアアムールの変身シーンのこだわりを教えてください。

佐藤　最終的に5人で一緒に変身するときは画面が分割されるので、そこに入れたときに違和感がないようにというのを、まず考えました。お互いのプリハートにタッチするというのは、玩具会社の案で、それをそのまま使わせてもらいました。ふたりでグルグルしながらハートを作るというアクションは、肩がはずれるのではないかという指摘もありましたが、実際にやってみたらできたようなので、よかったです。

――プリキュアの名前や各技名などは、どのように決まったのですか？

座古　これはみんなで決めていきました。

佐藤　アイデアをいっぱい書いて、実際に口に出してみて言いやすいかどうかを考えながら決めた思い出があります。

座古　過去のシリーズに似たような名前がないかどうかも調べたりして。

佐藤　そのうち、ネタがなくなるんじゃないかというのが心配です。キュアアンフィニもそうですが、1回限りのところで使っちゃっているものもあるので。

はなの出産は自然な流れ

――15周年を迎えたシリーズということで大変だったことはありましたか？

佐藤　今回は、先輩プリキュアたちもたくさん登場するエピソードがあったので、『プリキュア』を知らないということが大変でしたね。シナリオを読んでも、どのプリキュアなのかがすぐにわからない。

座古　僕はなんだかずっと大変だった印象があるので、どこがと言われると全部になっちゃいます（笑）。15周年を背負う気持ちも大変ですし、何よりやる気にあふれているスタッフたちとのせめぎ合いもあるし。

佐藤　15年もやっていると惰性みたいなものも出てくるのかなと思ったら、熱量がみんな高いんですよね。

座古　そうなんです。スタッフの誰もが「俺が一番『プリキュア』を知っている」みたいな気持ちになっているので、それを受けとめつつ今年の方向性に持っていく調整はちょっと大変でしたね。でも、みんな「俺がやらねば誰がやる」みたいな感じだったので、『はぐプリ』はすごく愛されている作品だなと思いました。

――面白かったこと、いい思い出になったことはありましたか？

佐藤　うーん、思いつかない。おいしいものを食べた記憶もないし（笑）。僕は今回、現場に入れないこともあって、コンテを何本か描くくらいの関わり方しかできなかったんです。でも、そうやって関わってきてみて、15話で演出の田中裕太くんがスーパーギャグ回を演出してい

た。あそこまでギャグに振りきるのは、じつはすごく勇気がいることなんです。笑われなかったら、どうしようと思ってしまう。ギャグ回はコンテだけじゃなくて演出までやらないと、うまくいかないんです。だから田中くんが演出まで担当して、エピソードを作りきっていたのは、うらやましくもありました。

座古　あの引き出しは僕にはないですね。

佐藤　最近はコンテ以上の作業ができない現場が多いので、ギャグ回をやれないんですよ。コンテだけだと、できてコントが限界なんです。だから、ああいう回は僕もやってみたくなりましたね。

——座古SDはいかがですか？

座古　いい思い出ですか……。しんどいことはいっぱいありすぎたんですが……。僕はサトジュンさんや坪田さん、才能のある方々が集まってきたなかで、いつもどうして自分はできないのかと打ちのめされることが多くて。なんとかしがみついて、意地でも最後までやるぞみたいな気分でした。悔しかったり悲しかったり、自分にこんなに感情の幅があったんだと、今さらながら思い知らされました。

佐藤　48話では、具合が悪くなって声が出なくなったんだよね。

座古　そうそう、気管支炎になってしまって、自分が演出しているのにアフレコで指示が出せなくて。

佐藤　それで僕が代わりにやりました。48～49話のアフレコ演出をやらせてもらったのはたまたまでしたが、思いっきりキャストと演技を作れたのは、とても楽しかったです。

——最終話（49話）の出産シーンに衝撃を受けた方も多かったようです。

佐藤　僕は自然な着地点だなと思っていましたよ。「子育て」をテーマにしていれば、主人公がお母さんになるというのは、当たり前のことだろうなと。

座古　たしかに『プリキュア』としては新しいことかもしれないから、そこに注目されてしまうのもわかります。でも、真摯に向き合っていくと、これも当然の帰結かなと。ここで踏み込んで描けるところが、坪田さんのすごいところだなと思っているんです。出産シーンの分娩室にカメラが入っている形にするのは、坪田さんでなければできなかったと思います。

——親子関係という意味では、いろいろな親子がいるのも印象的でしたね。

座古　そうですね。理想的に語られるお父さん、お母さんばかりではなかったですが、それが個性的で面白かったし、親近感も湧いたのではないかと思うんです。僕は、『はぐプリ』は味方にしても敵にしても、大人を完成された人格として描いていないところに人間らしさが出ていていいなと思っていました。

——えみるの両親は、とくにインパクトが強かったです。

佐藤　彼らはギャグ要員です（笑）。

座古　おじいちゃんが厳しい人だから、それに対抗するためにどうするかと考えた結果が、ああなったのかなと。これは僕の想像ですが、彼らなりの反抗心の現れかなとも思うんです。

佐藤　あの両親のもとで、正人みたいな子が育つのも面白いよね。

座古　絶対におじいちゃんが横から口出ししているんですよ。期待の跡継ぎが自分の思ったとおりにならなさそうだから、正人になんとかしてもらおうと思ったんじゃないでしょうか。

子どもたちと向き合う努力をした1年

——今作は、はなとジョージ・クライ、ほまれとハリーと恋愛要素も多めでした。はなにとってのクライは、初恋の相手ということでいいんでしょうか？

佐藤　そうですね。初恋です。

座古　たしかに今回は恋愛要素が多めでした。それはたぶん等身大の女の子像を描くということに結びついているのかな。

佐藤　坪田さんは論理的に考えているわけじゃないかもしれないけど、子どもたちにとって将来起こるかもしれないことを見せている気がしたんですよね。いじめとか、出産とか、失恋とか。大変なことはあるけれど、それでも前を向いて歩くということを自然にとらえているんだろうなと。子どもたちにその意味が今すぐ届かなくても僕はいいと思っていて、自分にそういう時期が来たときに「そういえば」と思い出してもらったり、何かを考えるヒント、力になったりしたらいいのかなと。そういう意味では、さあやの夢が変わったのも「夢は変わってもいいんだよ」という提示なのかな。

——1年間をふりかえってみての感想はいかがでしょうか？

佐藤　20年以上ぶりに女児アニメを担当させてもらえたので、原点に返った感じもありつつ、子どもたちにとって何が面白いのか、楽しいのかをずっと考えて作業していたなと感じます。まさに、原点回帰でした。すごく勉強になったし、改めて発見もありました。

座古　僕としては、この1年を乗り越えられたんだから、きっとこの先どんなことも乗り越えられるくらいの気持ちです。

佐藤　そんなに大変だったの？

座古　さっきも言いましたが、サトジュンさんを含め、みなさんすごい人なので、つい比較しちゃったんですよ。はなのように「自分には何もない」って。でも、物語の登場人物と一緒に、自分も成長できた気はしています。大変でしたが、非常に楽しい仕事でした。

佐藤　座古くんは〝『はぐプリ』ロス〟がすごそうだよね。

座古　いい意味で物語にどっぷりと入りこんでいましたからね。今は離れなければいけないさびしさはもちろん、スタッフがどんどん違う仕事に移っていくのを見て、「僕より新しい仕事のほうが大事なんだ」みたいな、面倒くさい思考回路になっていますね（笑）。あんなに楽しく仕事を一緒にしたのに……って。でも、そういう感情が浮かぶのは、とてもいい現場だったから。仕込みからだと足かけ2年ほどになりますが、本当に充実した時間を過ごすことができました。

佐藤　内藤Pは第2期もやりたいって言っていたけどね。

座古　第2期ができたとしても、それが終わるころには、絶対にロスになりますから……（涙）。

——それでは最後に、ファンや読者へメッセージをお願いします。

佐藤　1年間、放送を観ていただいて、ありがとうございます。メインターゲットは子どもですが、大人からの反響もとても多い作品でした。とくに、お母さんからは好評をいただき、改めてやらせていただけてよかったなと感じています。この作品を観てくれたメインターゲットの子どもたちが、15年くらい経って大人になったときに、作品をどう思っていたのか、何を感じたのかを聞いてみたいですね。そんなことも含め、また新しい作品、次の作品につなげていきたいなと感じることができました。本当にありがとうございました。

座古　観てくださって、ありがとうございました。とにかく「素敵だよね」と思いながら作り続けた作品でした。ですから、それを受け取ってくれた人たちが同じように素敵だねと言ってくれたのが、とても励みになりました。そういう気持ちを共有できたのは、応援してくださったみなさんのおかげです。みなさんのあたたかい声援があって、なんとか生き残ることができました。みなさんに生かしていただいたと言っても過言ではありません。本当にありがとうございました。

【シリーズ構成】

坪田文

心にトゲパワワが生まれたとき この作品を思い出してほしい

Profile

【つぼた・ふみ】7月7日生まれ。岡山県出身。脚本家。アニメのシリーズ構成としては、『プリティーリズム・レインボーライブ』や『12歳。〜ちっちゃなムネのトキメキ〜』などを担当。『プリキュア』シリーズには、『魔法つかいプリキュア!』『キラキラ☆プリキュアアラモード』の各話脚本として参加している。

『はぐプリ』は、はながなりたい自分を見つける物語

――坪田さんが『プリキュア』シリーズのシリーズ構成を担当するのは、今作が初めてです。

以前から、『魔法つかいプリキュア!』などで内藤(圭祐)プロデューサーとはお付き合いがあって、「一緒にやりたいね」というお話はしていたんです。ですから、今回、声をかけていただけたのはうれしかったです。その段階では「子育て」と「お仕事」というテーマが決まっていました。

――テーマを聞いたときの感想は?

自分が参加させてもらった『魔法つかいプリキュア!』や『キラキラ☆プリキュアアラモード』と比べると、すごく現実的だなと思いました。それから「子育て」はハードだなぁと。しかも『プリキュア』は、まさに子育てをしているお母さんたちも観る作品ですから、かなりプレッシャーは大きかったです。そのうえ「お仕事」が加わるのは、プリキュアとしてすごく難しいなと感じたんです。個人的には「宇宙」や「歌」というモチーフでやってみたかったので、何回か「子育て」か「お仕事」のどちらかにならないか、相談した覚えがあります。

――とくに、どういった点で「子育て」を難しいと感じたのでしょうか?

ひとつは自分が子育てを経験したことがなかったことでしょうか。そこで思い出したのは、『プリティーリズム・レインボーライブ』でご一緒させていただいた脚本家の井内秀治さんでした。井内さんは、以前『ママは小学4年生』という作品を手がけられていたのですが、お子さんはいらっしゃらなかったんですね。でも、「子育ての経験がある人や、みんなで力を合わせれば書けるよ」とおっしゃっていて。内藤Pもサトジュンさん(佐藤順一SD)も座古(明史)SDも子育て経験があり、赤ちゃんと触れ合っている方なので、その経験談を活かしつつ、私は子育て未経験のはなたちの目線で物語を描けば、なんとかなるんじゃないかと考えるようになりました。

――実際のところ、シナリオの打ち合わせは、どのように進んだのですか?

各話の脚本は全員、私から各ライターの方にお願いして、ライター陣だけでなくプロデューサー陣、アシスタントプロデューサーの方も一緒にディスカッションをしていました。打ち合わせのときは「自分の担当話数ではなくても、気づいたことを話そう」と最初に決めて、いろいろな意見を先輩方から聞いて発信しました。39〜49話(最終話)は私ひとりで書いたのですが、脚本をお願いした(田中)仁さんや(村山)功さんが自分の担当が終わってからも打ち合わせに駆けつけてくださったときはうれしかったです。ずっと支えていただきました。

――物語の全体の構成については、いつごろ、どのように決められたのですか?

初期の段階で、ほぼ決めていました。イレギュラーだったのは3クール目で、ここはサトジュンさんから「各話で完結するエピソードで、コメディー色を強めにしたい」という提案があったんです。それもあって、比較的、各話のライター陣に自由に書いていただきました。

――今回のシリーズ構成で、とくにこだわられたことは?

「子育て」や「お仕事」というテーマはあったけれど、それらを内包して「未来」を描く話にすること。私としては「なんでもできる! なんでもなれる! 輝く未来を抱きしめて!」というキャッチコピーからは逃げないことを目標にしました。ですから、基本的には『HUGっと!プリキュア』は、はなが未来でなりたい自分を見つける物語だと考えています。

全員が愛おしいキャラクター設定

――キャラクター設定も、すべて坪田さんが考えられたんですよね。

そうです。はなについては「みんなが好きになれる子」。みんなから応援されて、自分も応援できる子にしたいということと"女神"にしないことを意識しました。サトジュンさんとも話をしたんですが、プリキュアって"聖女感"が出ちゃうんですよ。それがヒーローっぽさにつながるのはわかっているんですが、都合がいい聖女にはしちゃいけない。子どもが観て「ああなりたい、かっこいい」と思える女の子にしなくちゃと思いました。だけど、飛び抜けて才能があるのではなく、身近に感じられる女の子。はながやったこと、言ったことは、みんなもできるという思いを込めました。

――はなが前の学校で孤立していたことも、最初から決まっていたのですか?

早い段階だったと思います。はなを、人は誰でも心が弱ってしまってトゲパワワでいっぱいになってしまうことがあるというのを知っている子にしたかったということもあります。じつは、そういう性格を考えたのはオーディションの結果、はなのキャストに引坂理絵さんが決まったからでもあるんです。彼女の声は一生懸命に頑張って前向きになっているような、少し切なさのある声だと感じていて。そこが私は大好きで。彼女が48話ですべてを背負って力強い声を出していたときには、やっぱりいいなぁと感じました。

――さあや、ほまれのキャラクター設定についても教えてください。

さあやは「夢が変わる子」。将来はこうなりたいとずっと思っていても、何かのきっかけでそれが変わる可能性があるという話を書きたかったんです。それもあって、悩んでいる部分があっても、芯の強い子になりました。ほまれは「挫折して立ち直る子」。彼女は失恋も経験するけれど、思いきり泣く日があっても、それを輝くエネルギーにできるという姿を描きたくてそういう設定になりました。

――あとから加わったプリキュアの、えみるとルールーについては、どのようにキャラクター設定を考えられましたか?

最初は、はなのお母さんがプリキュアになるのもいいんじゃないかなと思っていました。日常シーンでは隠れていて、最後まで追加プリキュアの正体がわからないというのも面白いかなと思ったんですね。ただ、いろいろな兼ね合いもあって難しいと言われ、ふたり組はどうだろうと思いつきました。双子というのも考えたのですが、それもまたNGと言われ。サトジュンさんから小学生を出したいという希望があって、それなら凸凹コンビがいいんじゃないかと考えて生まれたのが、あのふたりです。結果的には、凸凹にしてよかったなと思いました。全然違うふたりなんだけど、それでも親友という空気が出せましたし、最初の3人がしっかりと根付いているところに、追加のふたりでひとつのチームみたいにできたのがよかったかなと。

――ルールーが敵だったというのも最初から決めていたのでしょうか?

そうですね。ただ、アンドロイドは現代にはいないので、未来から来るのがいいだろうと。「子育て」がテーマの作品で、アンドロイドが登場するのも面白いかなと思ったんです。アンドロイドに心があるか、心が生まれるのかどうかは、現代の私たちでは想像もつかないけれど、心が生まれ、愛を信じて未来に向かう物語と結びつけると、すごく素敵なエピソードになるなと思いました。

――プリキュアを導く"妖精役"は、玩具会社からの提案があるんですよね。

そうです。それもあって、はぐたんに

ついてはほぼ決まっていて。子育てを子どもたちだけでするのはきついと思ったのと、はぐたんよりも自由に動けるキャラクターがいるといいなと思い、（ハリハム・）ハリーを考えました。最初は、はなの家ではぐたんの面倒を見る案も考えたのですが、いきなり14歳の子が家に赤ん坊を連れてくる姿って無理があるなと思って。ちょっとワルそうなお兄ちゃんが、子どもを抱いている絵が好きなので、それでできたのがハリーです。革ジャンを着せてツンツン頭にしてほしいと座古さんにお願いして（笑）。ハリーといえば〝イクメン〟と紹介されたことがあったのですが、個人的にはそれはやめてほしいなと思っていました。お父さんが子育てをすることをイクメンとは言わないと思うんですね。当たり前のことですから。「フレフレママ、フレフレパパ」で一緒のチームで頑張っているのだから。

クライアス社は はなの対になる存在

――敵が会社組織であるというのもインパクトがありました。

『Yes!プリキュア5』において出てくる「ナイトメア」という組織がものすごく好きだったのと、「お仕事」がテーマなら関連する言葉である会社がいいだろうということで決めました。『はぐプリ』は「明日をあきらめない」ということが主軸にもなっているので、それに対する敵を考える必要があるなと思って生まれたのが（ジョージ・）クライです。プリキュアが「未来」「可能性」「あきらめない」という気持ちを持っているから、クライは「過去」「終末」「あきらめる」という気持ちを抱えている。シニシズム（冷笑主義）ですね。でも、クライは決して冷酷な人間ではないんです。

製作するときに「子どもの未来に対して真摯でいたい」と、いつもみんなで話をしていて。トゲパワワがみんなのなかに生まれることはないとか、落ちこんだり悲しんだりすることはダメなことだとは言いたくない。人間だから、トゲパワワを持っちゃうこともあれば、落ちこむこともある。ちゃんと共感できる人物にしたくて、クライも血の通った部分があることをすごく意識しました。

クライアス社のメンバーの年代がバラバラなのは、バラけていればひとりぐらい共感できる人がいるはず、という想いもありました。たとえば、私はチャラリートに共感するんですね。11話の彼の「いつも中途半端、なんにもできない、なんにもなれない、オレにはなんの才能もない……」という叫びは、まさに私の心の叫びです。ただ、じつはダイガン部長だけは倒してしまおうと思っていて。でも、アフレコで町田政則さんの声を聞いたら、すごくかわいかったんですよ。あの声で「ありがとう」と言われたら、悪い人じゃないんだなと思っちゃいますよね。

――クライも含め、そんな彼らが最後はちゃんと未来に向かって進む姿は、どこかまぶしかったです。

クライは未来では最愛の人が、あまりいい事情ではなく亡くなってしまっているんです。それを消し去ることはできないけれど、前に向かって一歩ずつ進んでいくことはできる。ちょうど、今回のお仕事のお話をいただいたときに、井内さんが亡くなられた直後だったこともあり、「どれだけ悲しい別れがあっても、生きて、前に進めば」みたいなことを盛りこむ形になりましたね。

みんなが「なりたい自分」になれる未来を祈りたい

――アンリのエピソードは、SNSなどでもかなり話題になりました。

正直なところを言うと、「男の子のプリキュア」を誕生させるという話ではないので、ちょっとつらい気持ちもありました。アンリがプリキュアになったのは「なんでもなれる」のひとつの象徴です。だから48話では、ほかのみんなもプリキュアになった。もちろん、70億人が『HUGっと！プリキュア』のチームに加わったとか歴代に並んだとかそういうことではなく、プリキュアという「あきらめない」生きざまの話なんですけど。まぁでも、これも時代なのかなとは感じました。

――インターネットは、ともすれば情報の一部分だけを切り取ることも、簡単にできてしまいますからね。

難しいメディアだなと思います。サトジュンさんから、「声をあげない人のなかに多くの視聴者がいる」ということをすごく言われたんです。黙っている人たちのなかに、物語に本気で怒ったり、逆に物語が救いになったりしている人がいるから、そういう反応を見るようにしなさいと。それもあって「プリキュアショー」のプロットを書かせていただいたり、なるべく玩具売場をのぞいたり、子どものいる友達に会ったり、直接触れ合って生の声を聞くことを意識していました。5歳の男の子の友達がいるんですが、アンリが変身する回を観て、その子が電話をくれたんです。「つぼふみ、すごくよかったよ。けっこうやるじゃん」って言ってくれて（笑）。私はそれを聞けて、それだけでよかったなと思いました。アンリに関してはプリキュアになったことばかりが取り上げられがちですが、結果的に彼が立ち直る道につながったことは素直にうれしいなと思っています。

――49話の後半、はなたちの未来が描かれたシーンでは、はなの出産も描かれました。これも話題になりました。

テーマに沿った終わり方をしたいと思っていたので、はながお母さんになることにしました。それと大人になったキャラクターを描いたのは、ここまでに未来、お仕事、子育てと描いてきましたので。ただ、いきなりはなの出産シーンが出てきたらみんなが驚いてしまうから、劇中に出産のエピソードを2回入れました。

――最終話は、はなたちがプリキュアとして戦っていたときから12年後のエピソードになりますよね。

未来は「すごくすごく遠い」という設定で物語を考えていましたが、サトジュンさんが「10年後、20年後でも子どもたちにとってはめちゃくちゃ遠い未来だよ」と言っていて、なるほどと思いました。大人は12年後を遠い未来と言われると首を傾げるかもしれないけれど、子どもにとっては気の遠くなるような年月だったなぁと。だから、12年後でもありだなと考えて、そのような設定にしました。

――ちなみに、はなの夫をはっきりと描かなかった理由は？

SDと内藤Pの意向もありますが、観ればわかってもらえるかなぁと（笑）。

――1年間、シリーズ構成を担当してみての率直な感想は、いかがですか？

私としてはチャレンジングなことをしているつもりはなかったけれど、『プリキュア』としてはチャレンジングなことをやっていたのかなと、周囲の声を聞くと思います。心が折れそうなこともありましたが、おふたりのSDや、各ライター陣に励まされて、物語を作っていくことができました。私は、自信がないんですね。そういうところはすごくはなと似ているんですが、そんな私にみなさんが「大丈夫」とか「責任はみんなで取るから」と言ってくださったからこそ、チャレンジをしていけたんだろうと思っています。

子どもってシビアなので、すぐに数字に出るんです。私もSDも49話の平均視聴率というものはあまり気にしないんですが、逆に1話内での視聴率の動きはものすごく気にするんです。飽きると後半に進むにしたがって下がっていくので、とにかく30分間下がらない、もしくは上がっていけるように、1話内の構成を意識しました。ただ、かなり濃いジェットコースター的な書き方になったと思うので、大人はもしかしたら、観ていて疲れたかもしれませんね。

それから、ABCアニメーションの梅田和沙Pから「一緒にここまでやってきた僕たちが面白いと言っているんだから、信じてください」と言われたことを、すごくよく覚えています。ふだんはあまり発言しない方なのですが、さらっといいことを、言ってくれるなと（笑）。ふだん私、あまり打ち上げの席などでは泣かないんですね。次の現場がもう始まっていることも多いので。でも『はぐプリ』に関しては、最終話のシナリオ打ち合わせのときに花束をいただいて、泣いてしまいました。そこで、本当にありがたい現場だったのだなと、改めて感じました。

――今、何か伝えたいことは？

子どもたちが理不尽な我慢をしたり〝雉（きじ）も鳴かずば打たれまい〟のように自分の意見を言えなかったりする未来ではなく、自分の声で、私たち大人がしばられて破れなかったものをドッカーンと意識せずとも破れるような、なんでもできる、なんでもなれるという社会に生きてほしいですね。私も少しでも、そんな子どもたちを応援したい。そんな想いをこめて、ひたすら祈っていたような1年だったなと感じます。

――では、最後に読者へメッセージを。

1年間、観て応援してくださったみなさんの何気ない感想などにすごく救われて、頑張ろうと思えた1年でした。この先、観てくださったみなさんの心にトゲパワワが生まれたときに、この物語がふっと思い浮かんで「あきらめないぞ」と頑張れる力になる作品になっていたらうれしいと思います。本当に、1年間ありがとうございました。

【キャラクターデザイン】

川村敏江

今まで描いたことのない設定のキャラクターを描けたことが楽しかった

Profile

【かわむら・としえ】3月9日生まれ。岩手県出身。アニメーター、キャラクターデザイナー。キャラクターデザイン担当作品は、『スマイルプリキュア!』『B-PROJECT～鼓動＊アンビシャス～』『ロード オブ ヴァーミリオン 紅蓮の王』など多数。

3人のバランスを見て考えたデザイン

――川村さんは『Yes!プリキュア5』『Yes!プリキュア5GoGo!』『スマイルプリキュア!』に続いての『プリキュア』シリーズのキャラクターデザインです。キャラクターデザインは毎年オーディションですが、今回も……?

そうでした。オーディションの段階では、明確に名前などは決まっていなくて、最初に登場する3キャラのデザインを、というお話でした。過去のシリーズと比べると、オーディションの段階ですでにキャラクターの性格や設定がある程度しっかりと決まっていた印象でした。これまで担当させていただいたシリーズですと、ピンクよりほかのプリキュアのほうが、個性がはっきりしていたので、彼女たちから描くことが多かったんですね。ピンクのプリキュアって、一番視聴者の身近に感じやすい子として描かれるぶん、どうしても特徴を絵にしづらいことが多いんです。でも今回は、キュアエールについても固まっていたので、まずキュアエールを描き、それからキュアアンジュ、キュアエトワールとデザインしました。

――キュアエールはポンポンとヘソ出しルック、ぱっつんの前髪が目を引きます。

キャラクターにふたつのモチーフを使ってほしいということは事前に知らされていて、キュアエールは「チア」と「お花屋さん」でした。人を応援するような元気な子であれば、多少露出があっても大丈夫かなと思い、ヘソ出しにしてみました。ヘアスタイルも「前髪を切るのに失敗した」という設定が決まっていたんです。子どものころに私も自分で切った経験があるのですが、うまくいかないとだいたい切りすぎて眉より上になるパターンが多いんですよね。それでいてかわいく見える髪形ってどんなものだろうと試行錯誤をして、前髪をななめに切るスタイルに決めました。これまでもいろいろデザインしてきましたが、最初に前髪から考え始めたのは、これが初めてでしたね。シースルーや、腰のあたりの飾りが二段になっている衣装は、玩具会社の方からの要望もあって入れこみました。

――キュアアンジュは、色合いも相まってやさしい印象です。

キュアアンジュのモチーフは「ナース」と、「聖母」とか「聖女」でした。それもあってやさしく感じられるのかなと思います。ナースと聖女からイメージするものってなんだろうと考え、まずナースキャップのように頭に何かが乗っているとわかりやすいかなと。そのうえで、聖母マリアが腰に巻いている帯のようなもののイメージを活かしながら、それに羽をつけた感じにしました。

――キュアエトワールは、バルーンスカートが印象的ですね。

キュアエトワールのモチーフは、「キャビンアテンダント」と「スポーツ選手」。バルーンスカートとペプラム(ウエスト部分から裾にかけて、ふわっと広がった形状)を使ってほしいというのは、玩具会社の方からの要望でした。ただ、私としてはスポーツ選手というモチーフもあるので、スカートの丈は長くしたくなくて。とはいえ、短いバルーンスカートとペプラムの相性はあまりよくなくて、それであれば、ペプラムは長くしてしまおうと決めて今のデザインになったんです。キャビンアテンダントについては、のちのちのミーティングで、やはり帽子とスカーフが一番わかりやすいだろうということで、それを取り入れました。

じつは、私は最初、キュアエトワールをツインテールのイメージで描いていたんですね。彼女はスポーツで挫折して少し影を抱えてしまった子なので、その影のある部分と悪くなりきれていないところがツインテールなら表現できるかなと思ったんですね。でも最終的には、佐藤SDから「(テールを)1個取りましょうか」と言われて結果ひとつにして、そのぶん残ったもののボリュームを増やしました。

――今回、ソックスや髪の長さがキャラクターごとにバラバラですね。

別々のモチーフを使ってデザインしたので、あえて同じでなくてもいいかなと考えました。髪形に関しては、キュアエールの快活さを髪で出そうとしたら、ボリュームがだいぶ減ってしまいました。ソックスは、キュアエトワールだけ履いていないのですが、スポーツ選手だから素足で大丈夫かなと。ガーターリングのようなものがついているのは足回りがちょっとさびしかったからです。足もとってなかなか全身まで写ることがないので注目されにくいですが、かなりこだわっているので、ぜひチェックしてみてほしいです。

――3人を並べると、キュアエトワールがグッと大人っぽく見えます。

明確な差がついたほうが、観ている方も受け取りやすいのかなと思ったのと、キュアエールは眉がキリッとしているほうが、意志の強さが出せるかなと思い、少し太めになった結果でしょうか。最初のデザインでは、キュアアンジュをたれ目、キュアエトワールをつり目にしていましたが、これはシリーズ構成の坪田(文)さんの案で、逆にしました。

――キュアマシェリとキュアアムールは、どの段階でデザインされたのですか?

最初のオーディションの段階で、のちにふたり出てくるというのは聞いていました。実際にデザインをしたのは、オーディションに通ってからです。

――ルールー/キュアアムールは、最初は敵として出てきますが、デザインはプリキュアのほうが先でしたか?

ほぼ同時進行だったと思うのですが、たぶんプリキュア姿が先だったと思います。彼女に関しては、敵側にいるメイドのようなイメージで、えみると出会い、互いの存在を認めて正義に目覚めると聞いていたので、えみると対になる存在として同時にデザインを進行しました。彼女たちのモチーフは「アイドル」。凸凹コンビで、ツインコーデができたらかわいいかなと思い、デザインもわりと似通っています。ふたりの髪形については、当初はもっとシンプルだったのですが、顔周りに華やかさが欲しくなり、いろいろと考えながら決めていきました。玩具会社の方からリボンをつけてほしいという要望もあり、でも頭の真ん中につけてしまうのも面白みがないなと思い、左右対称になるような感じでななめにつけました。

――「アイドル」というデザインで、とくにこだわった点は?

ふたりはギターを弾くのと、えみるがロックに傾倒していることもあったので、いわゆる普通のアイドルよりは、ちょっとトゲのあるデザインにしました。スカートの重なっている感じは、子どもが好きかなと思ったのですが、アニメーターのみなさんには苦労をかけた気がします。

――まつ毛のデザインがとても特徴的ですよね。色も黒ではなくて……。

今まではくっきりしたまつ毛をデザインしていたのですが、もうひとひねり欲しいと思ってまず考えたのがペーパーアイラッシュだったんです。つけまつ毛の一種で、形の変わったものなので、かわいいかなと思ってデザインしてみたら悪目立ちをしてしまって(笑)。それならば、その土台を残しつつちょっと特徴的な形のまつ毛にしてみたらどうだろうと考えたのが、今回のデザインでした。色に関しても、変身したら全体的に色調が淡くなるので、黒くしてしまうと出る重さを弱めたくて、ハイライトを入れて立体感を出しつつ、先端にグラデーションを入れま

した。仕上げの方には負荷をかけましたが、面白い試みができました。

変身後の髪形は変身前にも活かして

―変身前のイメージは、プリキュアのスタイルが固まってから決めましたか？

そうですね。まず、はなを決めて、さあや、ほまれははなとのバランスを見ながら考えました。はなの髪形は、彼女のアイデンティティーなので変えませんでした。はなは、ファッションもよく勉強していて、おしゃれに敏感な子のイメージ。顔周りのポイントはヘアピンです。

さあやは、あえて野暮ったさがあってもいいのかなと思っていました。彼女は全体的に洗練されている子なので、私服で主張をしなくてもいいんじゃないかと思ったんですね。ワンピースにしても制服にしてもスカート丈が長めなのは、それもあってのことです。

ほまれは坪田さんのなかにショートヘアというイメージがあったらしく。挫折したときに髪を切ったという経緯もあったので、あえて短くしました。ただ、それだけだとちょっとさびしかったので、〝アホ毛〟をたしました。どうも私はうっとうしい髪形のほうが好きみたいで、ついつい盛ってしまうんですよね（笑）。

―制服の着こなし方にも、各キャラクターの性格が出ていますよね。

今回は、メインキャラクター以外に登場する生徒たちもいろいろアレンジをしてほしくて、あえて3人ともバラバラの着せ方をしました。ジャケットの下にパーカを着ていたりしたらかわいいなというのは、完全に私の趣味です。

―えみるはゴシックな雰囲気も感じさせる服を着ています。

彼女はおうちが特殊で、両親がかなりぶっ飛んでいますし、ロココ調を体現しているような人たちなので、きっとその影響でえみるもそういう服を着せられていたんだろうなというイメージでした。そのぶん、お兄さま（正人）はずいぶんとお堅くなりました。

―ルールーに関しては、クライアス社にいたころと、はなの家にやってきたころとではイメージが違います。

クライアス社にいたころは無表情ですし、立場的にもアルバイトなので、あえて華美にせず、マントを羽織るとちょっと敵っぽいくらいのイメージです。ヘアスタイルは迷ったのですが、ミーティングで「ネコ耳とかいいよね」という話題になり、それをイメージして頭の両端が盛り上がった形状のあの形になりました。私服姿は、一般人に紛れこんでも違和感がないスタイルを目指しました。

―では、はぐたんやハリーについては、いかがですか？

はぐたんは玩具会社の方から「額にご機嫌を表すハートがついているので、それだけは残してほしい」とオーダーがあった以外、あとは自由でしたね。最初のデザインでは、赤ちゃんなのに髪にボリュームを出しすぎてしまい、「マスコット的な感じよりは、もう少し人間っぽいほうがいいんじゃないか」という佐藤SDからのお話もあって、ちんまりとかわいい髪形になりました。

ハリーは、先にハムスター姿をデザインしました。もともとはクライアス社側の存在なので、周りを警戒している雰囲気を残したくて、赤い毛と鎖を入れこんだんです。人間体のときは、チャラリートとイメージが被らないようにしたいなと思って、デザインをしました。

個性的すぎる敵キャラクターたち

―敵側のキャラクターのデザインも、それぞれ個性的でしたね。

チャラリートに関して、坪田さんのイメージは〝チャラいサラリーマン〟だったのですが、私は完全に〝チャラい男〟として描いてしまって（笑）。パラパラを踊りながらオシマイダーを発注するので、このくらい軽い姿でもいいのかなと思いました。パップルはバブル期の女性のイメージ。記憶を掘り起こしながら、ワンレン・ボディコンの当時の女性をもとに描きました。ジェロスはパップルの恋敵になるので、若くて頭の切れる女のイメージ。始めはもう少し大人っぽいイメージを考えましたが、幼さも欲しくて、あえて年齢は少し落としました。取り巻きがいることは決まっていて、それならば執事かな……と考えたのがジンジンとタクミです。

―クライアス社の〝おじさま〟な人たちも、とにかく個性が強いですよね。

ダイガンは、いわゆるパワハラ系上司。「自分は切れ者だ」といいながら、それを部下に見せたことがない、口先だけの男のイメージです。リストルは、現場の決定権を持つ存在ですね。冷酷で、神経質さを考えました。彼は、もともとはリスですが、「目つきの悪いリス……？」と悩んだのを覚えています。ネコは威嚇するときに耳を倒す、いわゆるイカ耳になるので、それを参考にしてリス姿のときは耳を寝かせた形にしました。トラウムはサーカス団の団長のイメージ。年齢はクライアス社で一番上であり、ボスのジョージ（・クライ）に最も意見を言える存在として描きました。ビシンは……ヤンデレのキャラクターを描くのは初めてだったのですが、すごく楽しかったです。キレると手がつけられない子で、最初に拘束されて出てくるという設定もあったので、拘束されている感じを出したくて包帯のような布を巻きました。

―そして、ラスボスとなるクライ。彼は一見すると、すごく普通の人です。

彼に関しては、スタッフの方から「こういうイメージ」と〝ある俳優さん〟の名前を挙げていただいていたので、それをもとに憂いを含んだ大人像を考えていきました。はなの前ではそうでもないですが、OPの映像に登場する怪物の姿が、彼が本来抱えている闇だと思うんですね。ですから、人前に出るときは、威圧感はなくてもいいけれど、存在感が出るようにと意識しました。深い闇を抱えつつも、怖くならないようにするために、眉間にしわを寄せて表情があまり出ないような感じにしました。

成長を絵に落としこんだ49話の大人のデザイン

―そのほかのキャラクターで印象的だったのは、やはり若宮アンリです。

アンリは、坪田さんから「かわいい系ではなく、綺麗系の男の子です」というお話がありました。綺麗なお姉さんのような雰囲気がありつつ、でも思ったことをズバズバと言うようなトゲのある子でもあったので、ちょっと強気な感じになりましたね。

―ほかにデザインされたキャラクターで、印象的なことはありますか？

はなたちのクラスメイトで、あき、じゅんなという女の子が出てくるのですが、ふたりは座古SDと佐藤SDをモデルにしているんです。細い感じが座古SD、くせ毛やメガネがあるのが佐藤SDです。

―キュアトゥモローのデザインについては、いかがですか？

OPに登場する女神をはぐたんに落としこんで考えたのがキュアトゥモローです。ただ、あの女神はギリシア神話に出てくるような女神をイメージしていたので、それを若い女の子に落としこむのは難しかったですね。

―48話では、全世界の人がプリキュアになるという展開がありました。

さすがにすべてのデザインをするのは難しかったので、野乃家の3人のデザインをたたき台にして、各シーンを担当する原画の方にバリエーションをお願いしました。男性たちのプリキュア衣装はなかなか考えるのが大変だったみたいです。

―そして49話では、はなたちの大人になった姿も描かれました。

はなはショートヘアでもよかったのかなと思うんですが、髪が長いイメージがスタッフの間にもあったようなので、長いままにしました。さあやは医者の道に進んだので、清潔感を出すように。メガネは残しつつ、お団子を取ってしまうと誰だかわからなくなるかなと思って残し、髪は短くしました。ほまれはフィギュアスケートの現役選手に復帰して華々しい道を進んでいるので、過去には踏ん切りがついたと判断して、髪を伸ばしました。えみるは、私は研究者の道を行くのかと思ったんですね。でも、ちゃんと音楽の道を進んでいたので、ロックテイストとパンキッシュな感じを取り入れました。ヘアスタイルは、ルールーっぽくという案もあったのですが、ツインテールがあったほうがえみるらしいということで、それは残しました。ルールーに関しては、逆に「えみるっぽく」というオーダーがあったんです。でも、どうにもしっくりこなくて「えみるっぽさ」は服装のほうに残しました。

―とてもかわいいキャラクターをありがとうございました。最後に1年間、応援してくれた読者に向けてメッセージを。

1年間、観ていただいて、ありがとうございました。『はぐプリ』では、ほまれみたいなツンツンしたキャラや、ビシンのようなヤンデレなキャラなど、あまり自分が描いたことがないキャラを描けたので、すごく楽しかったです。はなの髪形をマネしてくれた子も多いらしく、お母さん方には大変申し訳ない想いもありますが、そのくらい愛していただけて、デザイナー冥利に尽きます。

【音楽】

林ゆうき

現実世界が舞台なので、奇をてらった楽器は使わないようにしました

Profile

【はやし・ゆうき】作曲家、編曲家。主なアニメの担当作品は、『キラキラ☆プリキュアアラモード』『からくりサーカス』『風が強く吹いている』など。現在放送中の『スター☆トゥインクルプリキュア』では、橘麻美と共同で音楽を手がけている。

日常シーンはあくまでも普通に

—林さんは、『キラキラ☆プリキュアアラモード』（以下『プリアラ』）に引き続いて、音楽を手がけられました。今作の第一印象は、いかがでしたか？

個人的な感想としては、『プリアラ』のときよりも明確な世界観がないという印象でした。「子育て」や「お仕事」は大きなテーマではありますが、主人公たちが住んでいるところは魔法の世界でもないし、プリンセスがいるわけでもない。あくまで現実世界なんですよね。異質な要素はプリキュアがいるかいないかくらいしかない。あくまで日常世界を舞台にした群像劇なので、音楽はベーシックな作りにしようと思っていました。

—製作スタッフからは、どのようなオーダーがありましたか？

SDのふたりや内藤Pは「歴代最強のプリキュアにしたい」とおっしゃっていました。戦闘シーンや悪のテーマ、話のなかで盛り上がるシーンについては、振りきってもらっていいと。それもあり、日常的なところはあくまで普通に、変身して敵と戦うところは振りきって戦っている感じを出せるように作りました。

—曲を作る際には、設定などはどの程度、手元にあるのですか？

アニメの場合はわりと提示していただけることが多いですね。設定などを含めて、分厚い電話帳くらいの資料が来ます。でも、それくらいの資料があると、だいぶイメージが湧きますよ。

—今作に設けられていた「子育て」というテーマは、制作する音楽に影響を与えていましたか？

「はぐたんのテーマ」はありますが、それ以外では「子育て」をモチーフに音楽は作らなかったかな。僕が曲を作っているうしろで子どもが遊んでいたり、制作中に赤ちゃんを抱っこしたり……ということはあったので、それが練りこまれている可能性はありますが、明確に意識していないです。

—はなという主人公が、全体の曲の雰囲気に影響を与えたことは？

メインテーマは、はなの頑張りを象徴するようなものにしていたので、そういう意味では影響を与えているかもしれませんね。『映画HUGっと!プリキュア♡ふたりはプリキュア オールスターズメモリーズ』やTVシリーズでも、メインテーマは通常バージョン以外でも使われることが多かったので、作品を象徴する音楽になったのかなと思います。

—はなは、つらい事情から別の学校から転校してきたという設定でした。ただ明るく前向きなだけのキャラクターではありませんでしたが、制作の段階では、その設定をご存知でしたか？

打ち合わせの段階では知らなかったです。でも、そういう内面を音楽に盛りこむとごちゃごちゃしてきてしまうので、前面に出ているはなの明るさ、前向きなところ、何かに立ち向かおうとするところに焦点を当てたほうがブレないと思いました。「なんでもできる！　なんでもなれる！」をメインの軸に据えて曲を制作して、ブレることはなかったです。

—今作では「はぐたんのテーマ」と「えみるのテーマ」以外には、キャラクターごとのテーマはないんですね。

オーダーがなかったんですよ。はぐたんに関してはすごくありましたが。

—「はぐたんのテーマ」には、どんなオーダーがあったのでしょうか？

タンバリンを振るような音であったり、鐘が鳴るような音であったりを入れてほしいと言われました。そこで僕は、グラスハープ（液体を入れたワイングラスのフチをなぞって音を出す楽器）を使いました。グラスハープは一時「悪魔の楽器」と糾弾された歴史があったぐらい綺麗な音がするんですが、「天使の響き」と言ってもいいぐらい、美しい音がするんですね。それを盛りこみました。『映画HUGっと!プリキュア♡ふたりはプリキュア オールスターズメモリーズ』でもはぐたんが活躍するシーンで使われていました。とにかく耳に残る音を選ぶようにしました。

—ほかに、日常のシーンでこだわって使った楽器はありますか？

ピアノを使うときにグランドピアノではなくアップライトピアノを使うことはありましたが、それ以外は尺八とかシタール（インド発祥の弦楽器）みたいな特別な楽器は使わないようにしたんです。特殊な世界ではないからこそ、奇をてらった楽器はいらないだろうと思いました。

小さな子どもたちでも演奏できる曲

—今作では、キュアマシェリとキュアアムールがギターを使いますし、キュアアンジュやキュアエトワールの決め技にもハープやフルートが出てきました。

ギターを使った曲が欲しいというオーダーはありました。掛け合いがあってふたりの決め技につながる流れがあるので、そのオーダーどおりに作りました。ハープやフルートも楽器を使っていますね。ただ、キュアエールのタクトは音が出ないのでどうしようかなと思い、最終的には吹奏楽のトランペットのようなものを、玩具会社の方とも相談して決めました。

ハープの音に関しては、少しボリュームを上げて収録しました。ハープの音ってオーケストラに入ると、そこまで目立って聞こえないんです。だから、分厚いオーケストラのなかからハープの音色が出てくるようなイメージで、音量を上げていきました。

—決め技に関連した曲では、どんなオ

ーダーがありましたか？

小さい子どもが弾けるようなメロディラインにしてほしいというオーダーはありました。変身シーンに関しては、まずロングバージョンを作って、それからショートに編集するという作業でした。日本のサウンドトラックは、映像に合わせて音楽を作るフィルムスコアリングができる機会があまりありません。『プリキュア』の変身シーンは、映像ではありませんが、事前に絵コンテをいただけて動きがわかるので、一番楽しんで作業していたかもしれません。ただ、それでも実際にオンエアで動いている姿を観て驚くことも多かったです。

——女児が観るアニメでの変身&バトルシーンに使用する曲というのは、たとえば少年マンガの変身&バトルシーンのそれとは違ったものを意識しますか？

決め技用としてかっこいい曲を作れば、それに合わせて作画担当の方がきちんと作ってくださるので、女の子だからとか男の子だからというのは、ほとんど意識していないですね。

——戦闘シーンは振りきっていいと言われたという話について、どんな感じで振りきって曲を作りましたか？

これまでの経験上、振りきっていいと言われて張りきりすぎると「やりすぎです」と言われることもあるんです（笑）。でも、今回はボリュームが控えめになっていたことはありますが、怖いメロディは怖いままで使われていましたし、曲としてのおどろおどろしさは残っていたかなと思います。

——今作の敵は会社組織でした。そういった設定も曲には影響がありましたか？

そうですね。魔王の手下というわけではないので、ちょっと現代っぽいかっこよさも盛りこみました。

——制作する曲に『プリキュア』らしさのようなものは考えられましたか？

制作に取りかかるにあたり、楽曲の明るさは『キラキラ☆プリキュアアラモード』のときから変えないでおこうと思ったので、『プリキュア』らしさはそれほど意識していなかったですね。

『プリキュア』に関わると1年がとても早く過ぎる

——ちなみに、どれぐらいの量のBGMを作られましたか？

『キラキラ☆プリキュアアラモード』よりは少なかったです。『キラキラ☆プリキュアアラモード』のときは〝試練〟かと思うくらいに多くのオーダーがあったので、もしこのまま発注量が増え続けていくようなら、次に『プリキュア』の音楽を担当する人に「苦情を言ったほうがいいよ」と提案しようかと思っていました（笑）。『プリキュア』はバトルシーンより日常シーンのほうが多いんです。バトルシーンは数を多く作るのが大変なので、僕としては助かっています。

——ふりかえってみて、とくに印象的だった曲を教えてください。

『HUGっと！プリキュア オリジナル・サウンドトラック！ プリキュア・サウンド・フォー・ユー!!』に収録されているボーナストラック『吹奏楽「夢・未来」』です。宮野幸子さんがオーケストレーションをしてくださったのですが、すごく勉強になりました。それから僕が作った曲ではありませんが、OPの「We can!! HUGっと！プリキュア」はすごく素敵な曲だなぁと思っていました。僕は映画のときにアレンジをしたのですが、作曲された福富雅之さんが打ち上げのときにご挨拶に来てくださって「素敵にアレンジしてくださって、ありがとうございます」と言っていただけたのがうれしかったです。「We can!! HUGっと！プリキュア」は、盛り上がりのシーンで流すとすごくお話が締まる曲なんですよ。まさに『はぐプリ』を象徴する音楽だと思います。

——『はぐプリ』の音楽を1年間、担当した感想を教えてください。

『はぐプリ』に限らず、『プリキュア』シリーズに携わると、1年経つのがすごく早くなるなと感じます。半分くらい物語が進むと、次回の話をいただけたりもするんですよね。でも、個人的には映画で次回の映画の予告を流すのはやめたほうがいいと思います。「まだ、何も作業をしていないのに！」という気持ちになって、すごく心臓に悪いです（笑）。

——では、1年間『はぐプリ』を応援してくれたファンへメッセージを。

『プリキュア』シリーズは1年で次のシリーズに変わってしまうのが運命ですよね。「新しいシリーズになると観ない」と言う子どもたちもいるんですが、2～3週間すると観てくれる。1年で自分の好きだったキャラクターとお別れしなくてはいけないのはさびしいですが、この先また映画に出ることもあると思います。ですから、新しい『プリキュア』も知らないお友達に会えたのだと思って、『はぐプリ』を愛してくれたように、好きになってもらえたらいいかなと思います。

CD Information

『映画プリキュアスーパースターズ！』
オリジナルサウンドトラック
●発売元：マーベラス

『映画HUGっと！プリキュア♡ふたりはプリキュア オールスターズメモリーズ』
オリジナルサウンドトラック
●発売元：マーベラス

『HUGっと！プリキュア』
オリジナル・サウンドトラック1
プリキュア・サウンド・フォー・ユー!!
●発売元：マーベラス

『HUGっと！プリキュア』
オリジナル・サウンドトラック2
プリキュア・チアフル・サウンド!!
●発売元：マーベラス

Staff Interview 5

【プロデューサー】

内藤圭祐

地に足のついた、強いピンクを描ききることができたと思います

Profile

【ないとう・けいすけ】2月3日生まれ。東京都出身。アニメーションプロデューサー。東映アニメーション所属。主な担当作品は、『ワールドトリガー』(アシスタントプロデューサー)、『魔法つかいプリキュア!』(プロデューサー)など。

ドラマを厚く描きたかった『はぐプリ』

――『HUGっと!プリキュア』のテーマが「子育て」「お仕事」に決まった経緯について教えてください。

『プリキュア』シリーズは玩具と密な連携をしている作品です。まず玩具会社の方と私のほうで15年目の『プリキュア』をやるにあたり、どういったモチーフやテーマが適切であるかということを考えました。ここ数年は、明確なモチーフを取り入れたことで、視聴ターゲットの裾野も広がったんです。であれば、『はぐプリ』も何かモチーフを入れたいなということになりました。「お仕事」については、何かひとつの職業に決めてしまうよりは、いろいろなお仕事要素があればコスチュームだったり動きだったりでバリエーションをつけやすいですし、それが集まったチームというのも面白いのではないかと思い提案しました。「子育て」に関しては、玩具会社の方から今回は「赤ちゃんのお世話にチャレンジしたい」という要望があったので、それを盛りこんだ形ですね。

――プリキュアの人数は毎年、話題となります。今作においては、どのように決められたのですか?

4人ぐらいが適切かなとも考えたのですが、あとから合流するプリキュアがふたりだったので、結果5人になったという形です。人数に関しては正解がなく、少なければプリキュア同士の密な話が描けて、多ければ画面が華やかになるといったように、それぞれのよさがあるんですよね。なので、そのつどスタッフと話し合いをしながら決めていきました。

――今回、スタッフについては、どのように声をかけていかれたのでしょうか?

時系列的にお話をすると、玩具会社の方との打ち合わせのあと、まずシリーズ構成を決めました。最初に坪田(文)さんにお声がけをしたんです。『魔法つかいプリキュア!』でも各話のシナリオ担当で入ってくださって、どういったシナリオを書かれるかは知っていたつもりですし、『魔法つかいプリキュア!』とは違った方向性で、ドラマを厚くしたいという想いもあったんです。坪田さんは実写のドラマも多数手がけられていますから、そういった希望に応えてくださるのではと考えました。SDは、編成担当と協議をしながら決めるのですが、あるときに編成のスタッフとご飯を食べに行ったら、その現場に佐藤順一さんがいたんですよ。そのスタッフが佐藤さんに「女児向けはどうですか?」みたいにやんわりと声をかけていて、佐藤さんご自身もまた女児向けをやってみたいとか、東映アニメーションともう一度仕事をするのもやぶさかではないと考えてくださっていたようで、後日、正式にお声がけをすることになりました。ただ、佐藤さんもほかの作品を多数抱えていらっしゃるので、スタッフルームに常駐するのは難しい。それで、座古(明史)さんにメインで制作を担当していただくことをお願いしました。

――キャラクターデザインのコンペは、どの段階で行われたのでしょうか?

ある程度シナリオやキャラクターの設定が決まってからのコンペでした。何人かにお声がけをしてラフを出していただき、川村(敏江)さんに決まった形です。

歴代に負けない強いプリキュア

――敵キャラクターについては、今回は会社組織がモチーフでした。

「お仕事」というテーマがあるから、それに対立するものとして会社が自然に出てきました。会社と決まってから敵のキャラクター決めをしたのですが、すごくはかどったんですよね。アイデアって、こういうふうに湧いてくるんだというのを実感しました。

――ジョージ・クライらクライアス社の面々が、どのぐらい先の未来からやってきたのかは明確にされていません。

その辺は、とくにきちんとは決めませんでした。最初の段階では、はぐたんもはなの遠い未来の子孫くらいだったんです。エピソードを進めていくにしたがって、はなの娘に決まっていった感じでした。なんで娘になったのか、詳しくはちょっと覚えていないのですが、クラスメイトのひなせくんが、はなのことを好きそうだということが見えてきてから、はなの初恋についての話になり、それはクライだろうと決まりました。ではクライが時を止めた最大の理由はなんだということを考えた結果、未来で大切な伴侶を亡くしたんだと話が膨らんでいきました。

――今作は『プリキュア』シリーズの15周年を飾る作品ということで、ストーリーや設定でこだわったことはありますか?

秋の映画にオールスターが登場するといったような、かつて『プリキュア』を観ていた大人たちに向けても展開していくという流れみたいなものは決まっていたんです。オールスターで登場したときに、『はぐプリ』はセンターを飾ることになるのは想像できたので、歴代のプリキュアに負けないように考え、「強い、芯のあるピンクにしたい」と思いました。強いというのは戦闘能力だけでなく、個性という意味でも強さを求めていたんです。いろいろと話し合ううちに「子どもを守るお母さん」というフレーズにたどり着きました。これは「子育て」「お仕事」の両方の要素を包括することができ、「子どもを育てながらプリキュアになって世界を守るお母さんって最強じゃないか」という話になり、現在のはなの設定が出来上がっていったんです。

それから、もっと細かい話になると、これは今作に限ったことではありませんが、子どもに見せられないものではないか、不快なものではないかについては、つねに意識しています。また、お世話がぞんざいにならないように表現を気をつけましたし、お仕事もいろいろトライをしますが、これは楽しいけど、こちらはイマイチといった描き方をしないように。どれも大変なこともあるけれど、終えたときには達成感や喜びがあるという表現になるよう気をつけていたつもりです。

――エピソード的には、42話で若宮アンリがプリキュアになったことが、どうしても話題に上がりますね。

『はぐプリ』のみんなは未来を信じて突き進むポジティブな子たち、という描き方をしています。それは、未来には無限の可能性が広がっているというメッセージなんです。つらいことや苦しいことがあって壁にぶつかっても、信じて行けば、その先には素敵な未来が開けている。そのテーマに沿った形で生まれたのがアンリであり、アンドロイドのルールーだと僕は考えています。アンリはあくまで自分のなりたいと思った姿になったということだと思います。

――アンリは、自分がプリキュアになりたいと思ったからなった。48話で世界中の人々がプリキュアになったのも、その延長の話だということですね。

実際、全世界の人がプリキュアになりたいと思っていたかと言われたら、厳密にはそうではないと思いますが、そこは座古さんの想いがかなえられた部分でもあるのかなと思っています。「みんなをプリキュアにしたい」という

普通の女の子が、プリキュアになる。だから、あなたもなれる、本当は誰でもなれるということをずっと伝えていかなくてはならない。一方、変身アイテムも

しっかり魅力的に見せなければならない。そういったことを踏まえて、今回の48話は成立したのかなと思います。

子どもたちに憧れを抱かせる変身シーン

――変身シーンや決め技についての思い出もお聞かせください。

　変身については、どういうアイテムを使うかを玩具会社の方と詰めて、変身バンクのコンテを今回は佐藤さんにお願いしました。変身シーンは子どもたちにかっこよく映らないといけないし、「こうなりたい」と憧れられるようなものでなければならない。かつアイテムをしっかりと見せなければいけないのですが、佐藤さんはそういった、いわゆる〝王道〟を全部把握していらっしゃるので（というより、そもそも始めた方ですので）、しっかり見せるところは見せて、動きも頑張れば子どもでもマネできそうなものにしていただき、すごくかっこよくなりましたね。さすが佐藤さんだと思いながら、拝見しておりました。

　決め技は、座古さんの担当でした。メロディソードに関しては、三者三様の使い方にしたいという希望があり、タクト、ハープ、フルートになりました。最後に木が生えて花が咲いたり、オシマイダーがやられるときに険しさがなくなったりするのは、すごくやさしい表現で座古さんらしい演出だなと思いますね。

　メロディソードといえば、その入手方法や使い方に関しては、SDふたりと坪田さんとかなり詰めた記憶があります。入手したのは11話でしたが、10話ではながさあや、ほまれという、才能のあふれた魅力的な子たちと自分を比べて、「何もない」と落ちこんで変身できなくなりました。でも、お母さんに諭され、さあや&ほまれが手を差し伸べてくれたことで立ち直り、強い力＝メロディソードを手に入れる。本当ならその力で11話では敵を切り刻んでもいいのですが、それをせずにハグをしてあげるというのは、『はぐプリ』らしい〝寄り添うやさしさ〟が描けたのかなと思っています。

――キャストのオーディションで印象に残っていることはありますか？

　佐藤さんがすごく15周年を意識してくれていました。佐藤さんは「聞いて一発でわかる声」「どこにもいなさそうな声」を重視されていたように思います。キュアエール役の引坂理絵さんは、それほどキャリアの長い方ではないのですが、ほかにはない声をしているイメージがありました。それで、はな役が決まり、そこからほかの4人を選んでいきました。敵に関しては、テープオーディションをメインにしていたのですが、プリキュアと同年代ではないことが比較的、意識されていますね。敵がベテランの方だと、ドシッとして越えなければならない壁のような雰囲気が出るんですよ。あとは、キャラクターのイメージやデザインに合っているかどうかです。

はなの想いは1話から描けていた

――今作は『プリキュア』15周年のタイミングでの放送ということもあり、先輩プリキュアとの共演も多かったです。

　共演は、僕のなかでやりたかったことの大きなひとつでもありました。TVシリーズでの登場については、当初は1か月間ぐらいかけて出演してもらおうと思っていたのですが、やはり人数が多すぎると労力がかかるので、前後編に収めました。でも、やれてよかったなと思います。『映画HUGっと！プリキュア♡ふたりはプリキュア オールスターズメモリーズ』ではオールスターで共演していますが、TVシリーズを観ている子が全員、映画を観に行けるわけじゃないんです。そういった子どもたちに映画でやっているようなお祭りを届けたいと思っていたので、本当に実現してよかったです。

――初代の『ふたりはプリキュア』と最新のプリキュアが共演するというのは、胸が熱くなりますね。

　そうですね。イベントなどで『はぐプリ』が初代と一緒に稼働することも多く、それによってTVシリーズだけでは広まらなかったところに『はぐプリ』も食いこめていけたなと感じています。とはいえ、『はぐプリ』に限らず、現在放送している『スター☆トゥインクルプリキュア』も、そしてその先の『プリキュア』も、現行のTVシリーズをしっかりと子どもたちに届けることが大切で、それによって15年続いてきましたし、今後も続いていくのだと思います。

――改めてふりかえってみて、この話数は絶対に欠かせなかったなと感じたエピソードはありますか？

　綺麗なことを言えば、全部です（笑）。終わってみて、あの話数がよかったなと思うのは、やはり1話。はなが変身するきっかけって「赤ちゃんを守るため」ではないんです。「赤ちゃんを守れない自分はかっこ悪い。それはなりたい私ではない。私は赤ちゃんを守る人間になりたい」ということが彼女を動かしたんです。1年かけて、はなは「なりたい自分」「イケてるお姉さん」に近づこうと頑張っていく。その最初の一歩をきちんと1話で描けたのは大きかったなと思っています。

　はなはよく「フレフレみんな！　フレフレわたし！」と言いますが、この順番は「みんな」が先か「わたし」が先かでも議論があったんです。僕は最初に「フレフレわたし！」で自分を鼓舞してから、みんなを応援するという図が浮かんだのですが、みんなを応援してから最終的に自分で踏ん張って立ち上がるという意味があるから「フレフレわたし！」があとに来るようになったんです。それを聞いて、はなは地に足のついた、本当に強い子なんだなと感じることができました。

――自分を応援して、自分で立ち上がるのは、かなり勇気のいることですよね。

　そう思います。「フレフレわたし！」には、はなの「なりたい自分になる」という決意表明もされているように感じるんです。彼女とクライアス社との決定的な違いは、くじけても自分を鼓舞できることだと思っていて。もちろん、周囲の人に支えられたり背中を押されたりはするけれど、つらいとかくじけそうだと思ったときに踏ん張って、一歩踏み出せる。それが彼女の大きな魅力だったなと今、ふりかえって改めて感じています。

――最後に1年間、応援してくれたファンへ向けてメッセージをお願いします。

　以前に関わらせていただいた『魔法つかいプリキュア！』とは違ったテイストでやり尽くすことができたと思います。1年間、最後まで観てくださったみなさんには感謝の言葉を伝えたいです。本当にありがとうございました。また、感想を聞いてみたいですね。僕は『プリキュア』という作品は、観てくれている子どもたちのことを第一に考えつつ、毎年いろいろな方向性でチャレンジができる、すごいシリーズだと思っています。ですから、ひとりひとりお気に入りのシリーズが違うとは思いますが、『はぐプリ』を好きだと言ってくれる方がいらっしゃれば、それは本当にうれしいことです。

オフィシャル Complete Book Official コンプリートブック

2019年5月6日　第1刷発行

発 行 人　松井謙介
編 集 人　水谷隆介
企画編集　馬渕悠
発 行 所　株式会社 学研プラス
〒141-8415　東京都品川区西五反田2-11-8
印 刷 所　凸版印刷株式会社

編　　集　水野二千翔
後藤悠里奈

編集・執筆　野下奈生（アイプランニング）
宮村妙子（アイプランニング）
草刈勤

デザイン　坂井容美（CUiR WORKS）
小西美穂（CUiR WORKS）

カバー＆表紙イラスト
原画／川村敏江

製作協力　東映アニメーション株式会社
東映株式会社

パッケージ情報

vol.3まで発売中
vol.4は2019年5月22日発売

●各12話収録（vol.4は13話収録）
●発売元：マーベラス

vol.14まで発売中
vol.15、16は2019年5月22日発売

●各3話収録（vol.16は4話収録）
●発売元：マーベラス

学研の書籍・雑誌についての新刊情報・詳細情報は、下記をご覧ください。
学研出版サイト　https://hon.gakken.jp/

MAIN STAFF
プロデューサー／梅田和沙（ABCアニメーション）、矢崎史（ADK）、内藤圭祐　シリーズディレクター／佐藤順一、座古明史
シリーズ構成／坪田文　音楽／林ゆうき　キャラクターデザイン／川村敏江　美術／西田渚
製作担当／澤守洸　色彩設計／佐久間ヨシ子

CAST
キュアエール、野乃はな／引坂理絵　キュアアンジュ、薬師寺さあや／本泉莉奈　キュアエトワール、輝木ほまれ／小倉唯
キュアマシェリ、愛崎えみる／田村奈央　キュアアムール、ルールー・アムール／田村ゆかり
はぐたん／多田このみ　ハリハム・ハリー／野田順子、福島潤　ほか

めちゃHUG
元気ぞ!
フレフレ
みんなー!!
Toshie

Gakken Mook
HUGっと！プリキュア
オフィシャルコンプリートブック　電子版

2023年5月　version1.0発行

発行人　村田剛
編集人　村田剛
企画編集　馬渕悠

発行　株式会社 Gakken
〒141-8416　東京都品川区西五反田2-11-8

【お問い合わせ】https://ebook.gakken.jp/contact/（電子出版専用）

学研グループの書籍・雑誌についての新刊情報・詳細情報は、下記をご覧ください。
学研出版サイト https://hon.gakken.jp/

※本商品に記載している情報は、紙版の発売当時のものです。
※キャストページなど、一部のページで紙版と異なる写真を使用しています。